

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」  
(女性研究者支援モデル育成)

**国立大学法人愛媛大学**  
**女性未来育成センター報告書**  
**平成22～23年度**

愛媛大学

女性未来育成センター報告書

平成 22～23 年度

# 目 次

ご挨拶	1
<b>I. 事業概要</b>	2
1. 愛媛大学の現状	2
2. 事業内容	4
3. 達成目標	6
4. 実施体制	7
5. 実施内容	7
6. 事業年次計画概要	8
<b>II. 事業実績</b>	9
1. 女性未来育成センターの設立と運営	9
2. 女性研究者活躍のための環境整備	9
2-1. 女性研究者へのキャリア支援	9
2-1-1. 女性研究者ネットワーク構築	9
2-1-2. 研究支援員制度	10
2-1-3. 相談室	15
2-1-4. 女性研究者メンター制度	16
2-1-5. 女性研究者セミナー・交流会	17
2-2. 育児支援	18
2-2-1. 学内保育所開設	18
2-2-2. 長期休み学内学童保育	19
2-3. 意識改革	20
2-3-1. 男女共同参画意識調査	20
2-3-2. 意識啓発シンポジウム開催	36
キックオフシンポジウム	36
第1回管理職セミナー	38
第1回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム	39
第2回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム	40
愛媛大学女性未来育成センター・医学部ジョイントセミナー	42
第2回四国女性研究者フォーラム	43
2-4. 地域連携	47
愛媛大学女性未来育成センター・社会連携推進機構ジョイントセミナー	47

## ご挨拶

愛媛大学女性未来育成センター長  
愛媛大学大学院理工学研究科教授  
小島 秀子

愛媛大学は、平成 22 年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されたことを受け、実施母体として女性未来育成センターを同年 7 月に設立しました。本格的に活動を開始してから実質的に 1 年半経った平成 23 年度末現在、ほとんどのプログラムは立ち上がっており、この間、ご支援とご協力をいただきました学内外の皆様には心よりお礼申し上げます。

本事業の「愛媛大学女性研究者育成プラン」は、女性研究者が活躍できる環境を整備するのみならず、次世代育成も図り、最重要課題として女性教員増員にも取り組むという、全世代対応のプログラム構成となっており、最終的には女性研究者を持続的に育成する仕組み作りを目指しています。

トップニュースは、平成 23 年 9 月に本学で 2 カ所目となる保育所「えみかキッズ」が城北メインキャンパスに開設されたことです。また、長期休暇中の学童保育も始めるなど、本学の育児に関するインフラ整備はかなり進みました。子育て中の女性・男性研究者に研究支援員を手当する研究支援制度は、実質的な支援として大変好評です。これまで理系女性研究者は数が少なく孤立しがちでしたが、セミナー・交流会を通じて気軽に情報交換できるようになりました。女子中高生への理工系進路選択支援イベントは、生徒、保護者の双方に好評で、今後も継続したいと思います。

平成 24 年 1 月に開催した第 2 回四国女性研究者フォーラムでは、文部科学省高等教育局長の板東久美子氏にご講演いただき、「多様な人材育成や知的創造の中核であり、強い社会的使命を持ち、グローバルな視点が重要である大学こそ男女共同参画の推進を」という力強いメッセージをいただきました。女性教員増員は、工学部では今年度、本学で初めての女性限定公募を行うなど、変化の兆しは現れ始めています。平成 24 年 3 月に開催した事業評価委員会では、「地域の大学に適合したプログラムを隙間無く実施している。」との評価をいただきました。

事業最終年度となる平成 24 年度は、これまで立ち上げたプログラムを検証し、より実効性を高めるとともに、地域連携、学生への裾野拡大などについて重点的に取り組み、事業全体を充実させていく予定です。

この事業がきっかけとなって、女性研究者はもとより、学生・教職員の一人ひとりが生き生きと活躍できる愛媛大学となるよう、今後もセンターは活動を続けて参りたいと思います。そのためにもなお一層のご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## I. 事業概要

愛媛大学は、「学生中心・地域貢献・最先端研究・世界貢献」を4本柱としており、多様な人材を必要としています。女性教員は非常に少ないのが現状です。本学は、この事業を女性にターゲットをあてた人材育成と捉え、実施母体として女性未来育成センターを設置しました。本事業では、「愛媛大学女性研究者育成プラン」に基づき、女性研究者へのキャリア支援、育児支援、意識改革により女性研究者活躍のための環境整備を行い、女子学生へのキャリアパス支援、女子中高生への理系進路選択支援により次世代育成を図るとともに、最重要課題である女性教員増員は、2020年までに20%に拡大する数値目標設定と、愛大式ポジティブアクションの実施により積極的に取り組みます。このような各世代に対応したプログラムを一体的に推進し、優れた女性研究者を持続的に育成するための仕組み作りを目指します。

### 1. 愛媛大学の現状

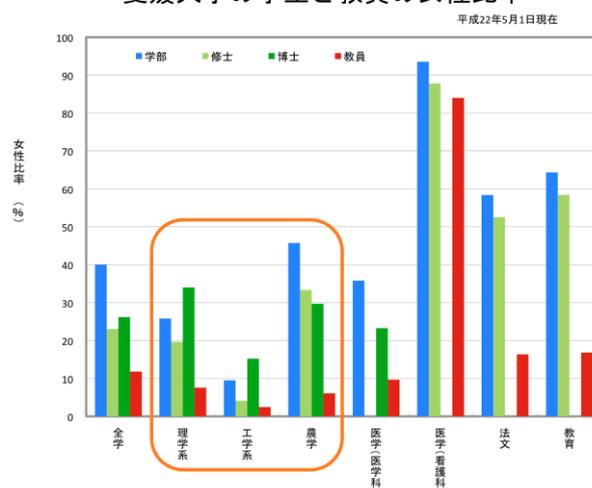
#### 【女性研究者に関する現状及び今後の見通し】

愛媛大学は、法文学部・教育学部・理学部・医学部・工学部・農学部の6学部と大学院7研究科からなる、学生約1万人を擁する四国最大の総合大学です。

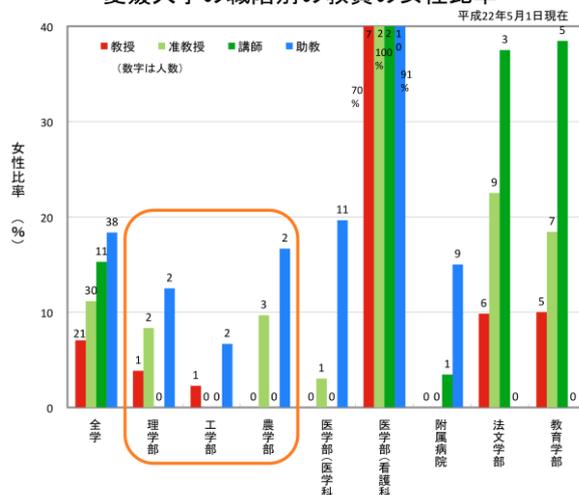
平成22年5月1日現在、本学の専任教員846人中、女性教員は11.8%（100人）と低い比率にとどまっています。また、職階が上位になるにつれて女性比率は低くなります。理系学部に限るとさらに深刻で、理学部・工学部・農学部合わせた教員270人に対して、女性比率はわずか4.8%（13人）と極端に低く、女性教授は1人しかいません。

一方、学生と教員の女性比率を比較すると、学部学生は4割、大学院生はほぼ4分の1を女性が占めるのに対し、教員は10分の1しかない状況です。本学は地域にあって輝く大学として、知的創造の中核的役割を担っており、多様な人材を必要としています。女子学生にとって身近なロールモデルとなる女性教員を増やすことは、女子学生の拡充と女性研究者数の増加につながります。女性教員増員は、愛媛大学の生き残りのための最重要課題であり、本事業により、全学を挙げて女性研究者への支援を行い、女性教員の採用を増やして参ります。

愛媛大学の学生と教員の女性比率

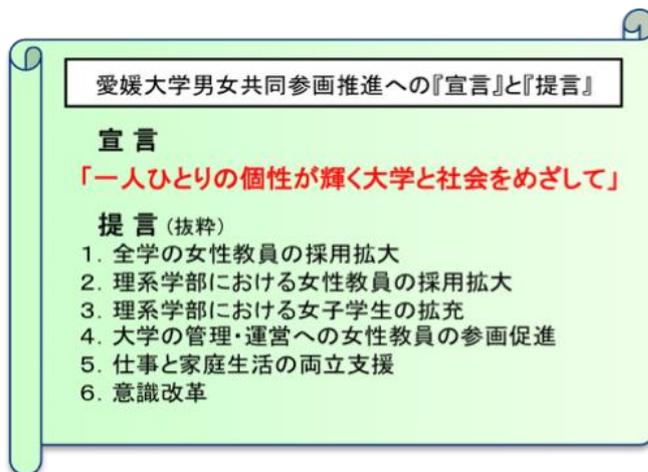


愛媛大学の職階別の教員の女性比率



## 【女性研究者支援に関するこれまでの取組状況】

本学の女性教員の採用促進と勤務・生活上の条件整備は、平成 16 年からの中期目標・中期計画に基づき、人事の適正化の一環として取り組んできました。平成 19 年度には男女共同参画推進委員会を設置し、同年アンケートを実施し、「一人ひとりの個性が輝く大学と社会をめざして」の『宣言』と、『提言』を発表して本学の男女共同参画推進は本格的にスタートしました。平成 20 年度からは各部局における男女共同参画行動計画を策定し、毎年見直しています。平成 22 年度から始まった第 2 期中期目標・中期計画に、提言を実行することを明記し、時代に適合した大学へと改革を進めています。



女性教員の採用拡大への取り組みとして、本学は平成 20 年度に、教員採用の基本方針に女性の積極的採用を打ち出し、能力が同等ならば女性を採用することと規定しました。平成 22 年度からは、すべての教員公募要領に、男女共同参画に配慮した選考を行うことを明記しています。

育児支援に関しては、平成 19 年度から医学部附属病院のある重信地区に院内保育所「あいあいキッズ」を開設しました。平成 20 年度からは教職員に対して育児のための短時間勤務制度を導入しました。次世代育成支援第 2 期行動計画を策定し、仕事と家庭の両立支援を進めてきました。また、意識啓発セミナーも開催するなど、男女共同参画推進に取り組んできました。

このように、本学は全学的に男女共同参画を推進してきましたが、女性研究者を育てるという観点からの取組みはこれまで行われておらず、本事業によって開始することになりました。

愛媛大学男女共同参画推進の歩み	
H19年	男女共同参画推進委員会の設置 アンケート調査実施 愛媛大学男女共同参画推進の『宣言』と『提言』発表 重信地区(医学)学内保育所「あいあいキッズ」開所
H20年	教員選考の基本方針に女性の積極的採用を規定 各部局における男女共同参画推進のための行動計画策定
H21年	啓発活動、セミナー、シンポジウム開催
H22年	第2期中期目標・中期計画に『提言』の計画的実行を明記

## 2. 事業内容

女性未来育成センターで取組む「愛媛大学女性研究者育成プラン」は、大きくは「女性研究者活躍のための環境整備」、「次世代育成」、「女性教員増員」の3つの事業から構成されていますが、実際には互いに密接に関連しています。特徴は、各世代に対応したプログラムを一体的に取組み、すべての世代が成長する中で、優れた女性研究者を持続的に育成していくことにあります。

具体的には、「女性研究者活躍のための環境整備」として、育児中も研究を続けることができるように、学内保育所を新設し、夏休みなどの長期休みには学内学童保育を実施します。また、研究支援員制度も実施します。女性研究者のキャリア形成を促進するために基盤となる、女性研究者ネットワーク構築、キャリア相談室開設やメンター制度実施、セミナー・交流会を開催します。また、男女共同参画、ダイバーシティ（多様性）推進に向けた意識改革セミナーを開催します。

「次世代育成」として、女子学生へのキャリアパスセミナーや女性研究者との交流会を開催します。また、理系学部へ進学する女子学生を増やすために、女子中高生への理系進路選択支援イベントを開催します。学生が支援に参加し、その中で自ら学び成長する仕組み、「えみかキャリアサイクル」を構築することも目標の1つです。

最重要課題である「女性教員増員」については、具体策として、2020年までの数値目標を設定し、「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」を実施して積極的に進めます。

### 【女性教員増員の具体策】

#### 1) 女性教員の比率拡大の数値目標設定

①全学の専任女性教員を2020年までに現在の12%から20%に引き上げる。

当面の目標として、3年以内に14%以上に増加させる。

②理工農系部局の専任女性教員の比率を2020年までに現在の5%から15%に引き上げる。

当面の目標として、3年以内に8%以上に増加させる。

#### 2) 「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」実施による女性教員の採用促進

数値目標を達成するための積極的措置として、専任女性教員を採用した場合、助教人件費の2分の1分を、全学経費から当該学科に支給する。ただし、前任者が男性教員のポスト、あるいは新規ポストに女性教員を採用した場合に限る。支給期間は1年限りとする。

情報発信・広報活動は、これらの事業を進めるために重要であり、ホームページやニューズレターなどの広報誌発行を通じて活発に行います。

事業内容

事業	内 容	期待される効果	実績
女性研究者活躍のための環境整備	女性研究者へのキャリア支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 女性研究者ネットワーク構築</li> <li>◆ 研究支援員制度実施</li> <li>◆ 相談室開設</li> <li>◆ 女性研究者メンター制度実施</li> <li>◆ 女性研究者セミナー・交流会開催</li> </ul>	▶情報交換の促進 ▶研究活動の持続 ▶キャリアの相談 ▶研究意欲の向上 ▶キャリア促進	○ ○ ○ ○ ○
	育児支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学内保育所開設</li> <li>◆ 長期休み学内学童保育実施</li> </ul>	▶育児負担軽減と研究の促進	○ ○
	意識改革 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 男女共同参画意識調査</li> <li>◆ 意識啓発セミナー・シンポジウム開催</li> </ul>	▶男女共同参画に向けた意識改革	○ ○
	地域連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 男女共同参画推進による地域活性化</li> <li>◆ 地域連携セミナー・シンポジウム開催</li> </ul>	▶地域活性化促進 ▶情報交換・交流の促進	○
次世代育成支援	女子学生へのキャリアパス支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 女子学生のキャリアパスセミナー・交流会開催</li> <li>◆ 学生への男女共同参画講義実施</li> <li>◆ 全世代育成システム「えみかキャリアサイクル」構築</li> </ul>	▶ロールモデルの提示 ▶研究者を目指す女子学生の増加 ▶男女共同参画意識向上	○
	女子中高生への理系進路選択支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 女子中高生の理系進路選択支援イベント開催</li> <li>◆ オープンキャンパス「理系女子コーナー」参加</li> </ul>	▶理系進学的女子中高生増加	○ ○
女性教員増員	女性教員増員の具体策 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 女性教員の比率拡大の数値目標設定</li> <li>◆ 「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」実施による女性教員の採用促進</li> </ul>	▶女性教員増員の理解の促進 ▶女性教員の比率拡大 ▶人材の多様化促進	
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ホームページ開設</li> <li>◆ リーフレット、ニューズレター、メールマガジン発行</li> <li>◆ ロールモデル集発行</li> <li>◆ 両立支援 BOOK 発行</li> <li>◆ アウトリーチ活動</li> <li>◆ 事業報告書発行</li> </ul>	▶情報の提供 ▶情報交換の場の提供 ▶ロールモデルの提示 ▶育児・介護の理解促進 ▶女性研究者支援促進 ▶事業への理解と協力	○ ○ ○ ○ ○ ○

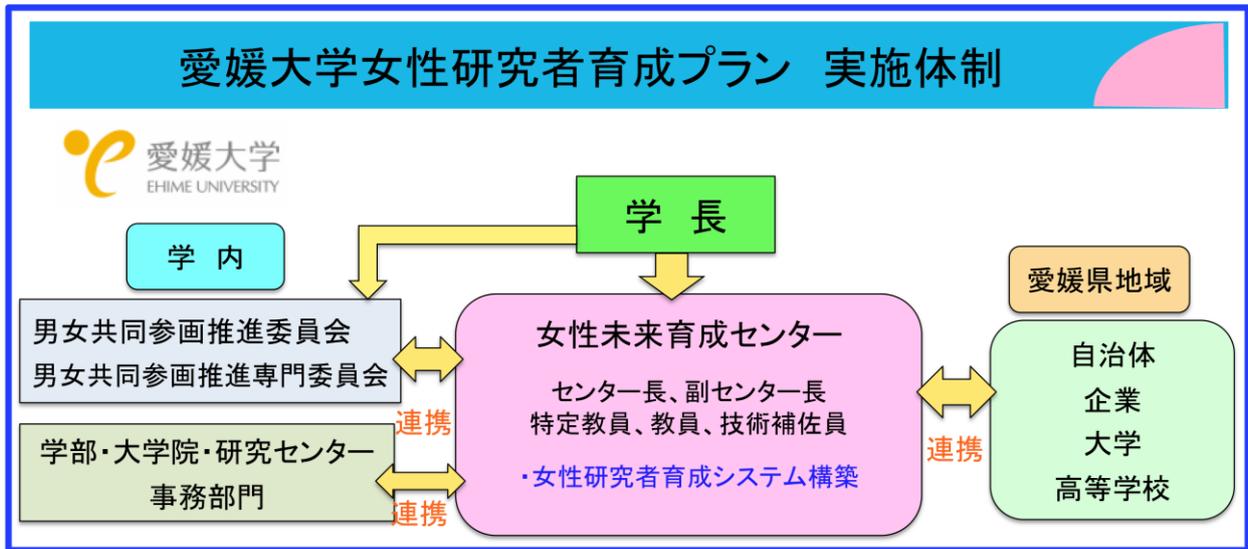
### 3. 達成目標（ミッションステートメント）

- 1) 出産・育児などにより、研究時間の確保が難しい女性研究者に、研究支援員制度を実施する。支援員として大学院生を雇用する。
- 2) 長期休暇中の学内学童保育を実施する。学生を保育人材として雇用する。
- 3) 学生の支援参加を通じて、学生が自ら学び経験を積むことにより成長する、全世代育成システム「えみかキャリアサイクル」を構築する。
- 4) 男女共同参画が大学全体の大きな潮流となるように、教職員、学生の意識改革を推し進める。
- 5) 全学の専任女性教員比率を、2020年までに現在の12%から20%に引き上げる。当面の目標として3年以内に14%以上に増加させる。
- 6) 理工農系部局の専任女性教員の比率を2020年までに現在の5%から15%に引き上げる。当面の目標として3年以内に8%以上に増加させる。

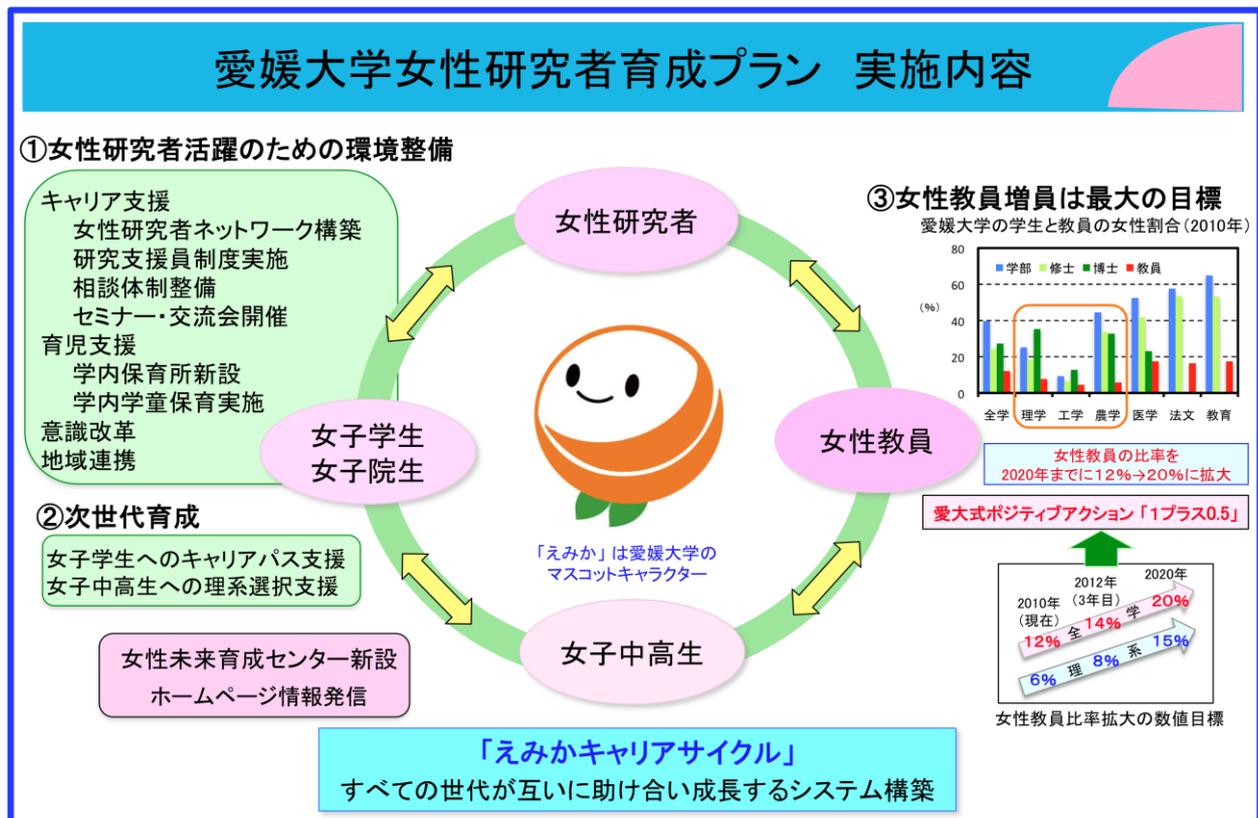
#### 【期待される波及効果】

- 1) 本事業の推進は、男女の全教職員、学生の啓蒙と意識改革を推し進めることとなる。また、本学の取組みを社会に情報発信すること、男女共同参画意識をもった本学卒業生が社会で活躍することなどを通じて、社会における「男女共同参画」の推進の原動力となり得る。
- 2) 育児などにより多忙な女性研究者に対する「研究支援員制度」は、研究時間を確保するための実質的な支援策であり、他の大学も導入を図ることがあり得る。
- 3) 「えみかキャリアサイクル」は、幼児、中高生、学部生、院生、研究者のすべての世代が環状につながり、互いに助け合いながら成長する、全世代育成システムとして、他大学のみならず、一般社会にも有用なシステムとなり得る。
- 4) 愛媛県は男女共同参画推進に積極的であり、本学もその仲間入りをすれば、本学が中心となって地域連携を促進することができ、男女共同参画についても地元で認めてもらえるようになる。
- 5) 本学は、地方大学の一つであるが、2020年までの中長期的な具体的数値目標を設定し、「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」を導入して、女性教員増員を積極的に進め、時代に合った大学へとシステム改革を行うことは、他大学に対してインパクトを与える。

#### 4. 実施体制



#### 5. 実施内容



6. 事業年次計画概要

事業年次計画概要

項目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
<b>女性未育成センター</b> シンポジウム 対象者別啓発セミナー ホームページ 広報誌発行 全学アンケート	キックオフシンポジウム センター公開シンポジウム 管理職セミナー HP構築 ニュースレター リーフレット 第1回アンケート実施	センター公開シンポジウム 第2回女性研究者フォーラム センター公開シンポジウム 社会連携推進ジョイントセミナー ニュースレター ロールモデル集 事業中間報告書(アンケート含む) メールマガジン配信開始	第2回アンケート実施 管理職セミナー 外部評価委員会 ニュースレター 事業終了報告書 アンケート報告書 センター公開シンポジウム 地域連携 事業終了後の準備	・3年間の事業実施終了後は速やかに実績評価を行い、改革案を検討する ・地域連携については、3年間で蓄積されたノウハウを基に、さらに連携を強化する ・全学的支援体制を継続できるよう、女性未育成センターを維持し、経営においては学内予算措置を行う ・女性研究者へのキャリアアップ支援は基本的に継続する。
<b>キャリアアップ支援</b> 交流会・研究支援セミナー 女性研究者ネットワーク構築 研究支援員制 相談室 メンター制 交流スペース	研究支援セミナー 女性研究者ネットワーク構築準備 研究支援員制度設計 相談室制設計 メンター制設計 交流スペース準備	研究支援セミナー 女性研究者交流会 女性研究者ネットワーク運用 相談室開設 メンタリング研修 メンター制運用開始 交流スペース設置	研究支援セミナー リーダーシップ養成セミナー 女性研究者交流会 配置 募集 配置 募集 配置 募集 フォローアップ研修 メンタリング研修 メンター制運用開始 交流スペース設置	・研究支援員制については基本的に継続し、改善案を検討する ・長期休暇中内学重保育については継続
<b>育児支援</b> 長期休暇中内学重保育 学内保育所新設(城北地区)	学内学重保育準備 冬休み学内学重保育試行 保育所新設プロジェクト外発足 保育所設置工事	夏休み、冬休み、春休み学内学重保育実施 保育所開設(9月から)	夏休み、冬休み、春休み学内学重保育実施 女子学生キャリアパスセミナー ロールモデル集 女子中高生生理系選抜支援事業 オープンキャンパス理系女子コーナー 女子中高生生理系選抜支援事業 理工系選抜支援事業	・女子学生キャリアパス支援、女子中高生生理系選抜支援事業は学内体制により継続 ・学生が支援に参加して自ら学び成長する、「えみかキャリアサイクルシステム」は継続 ・数値目標は継続、ポジティブアクションなどの増員については改善案検討
<b>次世代育成</b> 女子学生キャリアパス支援 女子中高生生理系選抜支援	女子学生キャリアパスセミナー 女子中高生生理系選抜支援事業設計	女子学生キャリアパス交流会 女子中高生生理系選抜支援事業 理工系女子コーナー 女子中高生生理系選抜支援事業 理工系選抜支援事業	女子学生キャリアパス交流会 女子中高生生理系選抜支援事業 理工系女子コーナー 女子中高生生理系選抜支援事業 理工系選抜支援事業	・女子学生キャリアパス支援、女子中高生生理系選抜支援事業は学内体制により継続 ・学生が支援に参加して自ら学び成長する、「えみかキャリアサイクルシステム」は継続 ・数値目標は継続、ポジティブアクションなどの増員については改善案検討
<b>女性教員増員</b> 全学女性教員在職比率 理工系女性教員在職比率	12.5% 6%	13% 7%	14% 8%	20% (2020年) 15% (2020年)

## Ⅱ. 事業実績

平成 22 年度は、平成 23 年度からの本格実施に向けて各プログラムの制度設計、実施準備を行いました。平成 23 年度前期にはほとんどのプログラムを立ち上げ、女性研究者活躍のための環境整備、次世代育成、女性教員増員に一体的に取り組んでいます。

### 1. 女性未来育成センターの設立と運営

女性未来育成センターは、全学的にこの事業を推進するために、平成 22 年度 7 月 13 日、城北キャンパス教育学部 4 号館 3 階に設置されました。10 月には特定助教 2 人、技術補佐員 2 人のスタッフが揃い、本格的に活動を開始しました。

平成 22 年 11 月 5 日（金）午前 11 時から開所式を行いました。柳澤康信学長は、「愛媛大学では数年前から男女共同参画を推進してきたが、このたび女性研究者支援事業に採択され、本センターを中心として全学的に女性研究者の育成を進めていきたい。」と挨拶しました。続いて小島秀子センター長は、「時代に適合した愛媛大学への変革を目指し、元気に女性研究者育成事業に取り組みたい。教職員、学生、地域の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。」と意気込みを述べました。



センター前にて 左から 柳澤学長、小島センター長、曲田副学長



### 2. 女性研究者活躍のための環境整備

#### 2-1. 女性研究者へのキャリア支援

##### 2-1-1. 女性研究者ネットワーク構築

女性研究者ネットワークは、事業取組みの基盤となるものであり、3方法で運用しています。

- a. 女性研究者（教員・研究員）にセミナー・交流会開催などの情報をメール配信。平成 23 年 9 月 12 日開始。
- b. 女性研究者同士の意見・情報交換の場として、センターのホームページに掲示板を平成 23 年 12 月 23 日開設。トップページのバナーからアクセス可。平成 24 年 3 月現在、会員登録者 15 人。
- c. 女性研究者どうしが直接顔を合わせて気軽に会話を交わし、互いに知り合う中で自然にネットワークが形成されることが一番大切なことから、セミナー・交流会などを開催して出会いの場を提供。

## 2-1-2. 研究支援員制度

育児で多忙な女性研究者が研究時間を確保し、研究活動を維持できるように支援員を配置する研究支援員制度を導入し、研究支援員として人材バンクに登録した学生を雇用しました。学生は、支援業務にあたる中で身近にロールモデル（お手本）に接して自身のキャリア形成ができ、次世代育成を図ることも目標としています。

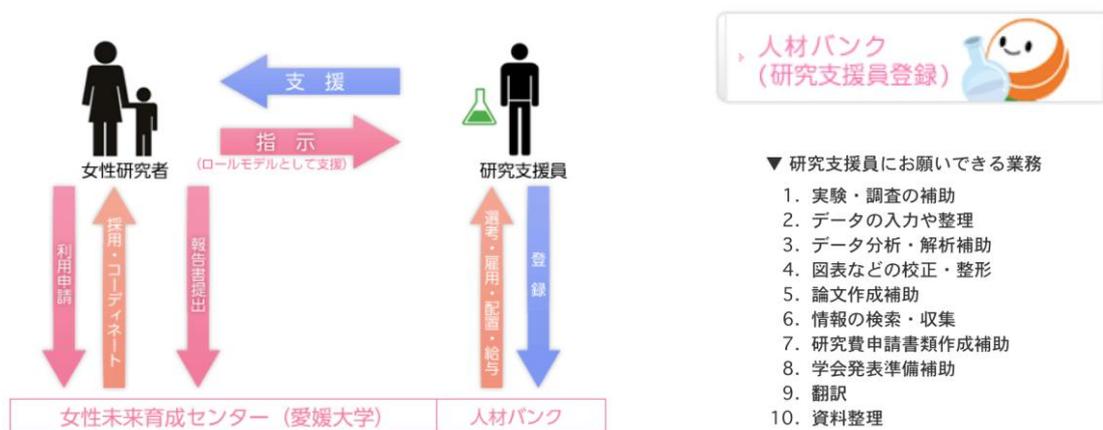
平成 23 年度前期に、小学校 6 年生までの子供をもつ自然系女性研究者（専任教員・特定教員・特定研究員（博士研究員）・学振特別研究員 PD・RPD）を対象に、月 40 時間までの支援を条件として、最初の募集を行い、書類選考と面接選考を経て、3 人の利用者を決定しました。学生は所属する研究室の指導教員の支援員になることはできないことを条件として、人材バンクに登録した学生とのマッチングを行い、3 人の学生を研究支援員として雇用しました。

平成 23 年度前期に実施して明らかになった問題点は、学生はかなり忙しく、とくに医学部の学生は講義がほとんど詰まっております、支援に割ける時間がとれないことでした。このため、後期からは、外部からも支援員を雇用できることとし、また、支援時間を上限月 60 時間までに増やして募集しました。募集締切り後の 9 月末に、文部科学省から、従来の科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業は、平成 23 年度から科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に変更されたのに伴い、対象分野を全分野に広げたこと、また、夫婦ともに研究者である場合は男性研究者も支援対象とするとの通知があり、自然科学系分野も含めて再募集を行いました。その結果、利用者は、男性研究者 3 人を含む 13 人に大幅に増えました。支援員は学生のみでは賄えず、ハローワークを通じて外部からの支援員 8 人も雇用しました。

本制度利用者からは研究の時間が増えたと大変好評です。また、支援員学生の中には、支援する先生の分野の研究者になりたいという学生もでてきており、本制度は、次世代育成の一環としても効果のあることがわかってきました。今後の課題の 1 つは、学生の支援員バンクへの登録者を増やしていくことです。

平成 23 年度前期：利用者 3 人（女性 3 人）、研究支援員：学生 3 人（学部生 2 人、修士 1 人）

平成 23 年度後期：利用者 13 人（女性 10 人、男性 3 人）、研究支援員：学生 11 人（学部生 10 人、修士 1 人）、外部 8 人



## 愛媛大学「研究支援員制度」について

### 1. 趣旨

愛媛大学は、平成22年度に採択された文部科学省「女性研究者支援モデル育成」事業の一環として、出産・育児などで多忙な女性研究者の研究時間を確保し、研究活動を維持・促進することを目的として、研究支援員を派遣する「研究支援員制度」を実施します。研究支援員は男性・女性を問いません。本学の大学院生および学生（以下「在學生」という。）を研究支援員として配置する場合は、研究者を支援するなかで、身近なロールモデル（お手本）に接することによりキャリア形成が促進され、これにより次世代育成も進むと期待されます。

### 2. 研究支援員制度

研究支援員制度は、出産・育児負担のある女性研究者の研究時間確保及び研究活動の活性化を促進することを目的としています。本学の在學生を研究支援員として配置する場合は、次世代人材養成も進むと期待されます。特長は、将来研究者を目指す在學生自身が研究支援員人材バンクに登録し、その登録者が支援業務にあたることで、身近なロールモデル（お手本）に接して自身のキャリア形成を促進する機会を得ることができることです。具体的な手続き等は以下のとおりです。

#### 2-1. 申請できる研究者の資格

- ・本学に在職する女性研究者で、母子健康手帳取得者または小学校6年生までの子どもをもち、出産・育児負担のある方
- ・本学に在職する男性研究者で、配偶者が大学等の研究者であり、小学校6年生までの子どもをもち、育児負担のある方

注1) 研究者とは、専任教員・特定教員・特定研究員（博士研究員）および学振特別研究員（PD・RPD）をいいます。（学振特別研究員DC1・DC2の方は該当しません）

注2) 大学院に在学する者は、研究員の身分を持っている場合でも、本制度は利用できません。

注3) 産前・産後の特別休暇中、育児休業中などにより研究活動を中断している者は、本制度の利用はできません。

#### 2-2. 研究者を支援する研究支援員の資格

- ・本学の在學生、すなわち大学院博士後期課程・前期課程の院生および学部生で研究支援員人材バンクに登録している方
- ・本学の在學生以外で、利用者の就業条件に合う方

注1) 研究支援員は男性・女性を問いません。

#### 2-3. 研究支援員制度の流れ

1) 研究支援員制度を利用申請する研究者（以下、「利用申請者」、採択後「利用者」という。）

##### (1) 申請

女性未来育成センターのホームページから、利用申請書および研究支援員の就業条件をダウンロードして、必要事項を記入の上、女性未来育成センターに申請してください。あらかじめ本学の在學生で研究支援員候補がいる場合には、当人に説明の上、研究支援員人材バンクに登録するように指導してください。また、本学の在學生以外で、研究支援候補者がいる場合は、研

研究支援員の候補者調書を併せて提出してください。ただし、研究支援員候補者がいるということで、採択が優先されることはありません。

なお、所属研究室等の教員等とも十分相談の上、申請してください。

## (2) 選考

女性未来育成センターに設置された研究支援員制度利用者選考委員会において、書面選考と面接選考を行い、「利用者」を決定します。書面選考は、利用申請書類に記載された内容および資格確認書類を以て行い、面接選考対象者を選定します。面接選考は、利用申請書類と「研究支援員」の時間数等に配慮して面接を行い、「利用者」を決定します。但し、同一年度内に再度申請する場合は、書類選考のみを行います。

以下の点に着目して選考を行います。

- i 育児等による研究従事難度の高い方
- ii 研究支援員経費について他の資金による代替の可能性が低い方
- iii 今後も優れた研究活動の一層の推進が見込まれる方
- iv 研究支援員の配置が利用申請者の優れた研究活動の推進と育児等の両立に貢献するものと認められる場合

## (3) 受入・人材育成

「研究支援員」を受け入れ、研究支援を受けるとともに、業務内容の指示を行っていただきます。

## (4) 報告

期間終了時に研究支援員配置報告書を提出してください。

## (5) 留意事項

- ・研究支援員を配置する期間は6ヵ月までとし、年2回の利用申請者の募集を行います。
- ・「研究支援員」が支援できる業務は「利用者」の研究に限定され、利用者が申請した支援業務内容以外の業務に従事させることはできません。
- ・次世代育成も見据えた本制度の趣旨から、「利用者」は「研究支援員」の業務内容等を指示するとともに、「研究支援員」のキャリア形成に配慮し、ロールモデルとして啓発に努めてください。
- ・申請期間以外で追加募集することがあります。その場合は、女性未来育成センターのホームページ等で通知します。

## 2) 研究支援員

### (1) 登録（本学の在学生の場合）

女性未来育成センターのホームページから、登録申請書および雇用調書兼申立書をダウンロードして、必要事項を記入の上、女性未来育成センターに登録申請してください。

なお、申請にあたっての留意事項は次のとおりです。

- i 履修登録科目と重複しない時間帯であり、その本分に支障がないこと。
- ii 指導教員の許可を得ること。
- iii (ア) 「利用者」と指導関係にないこと、(イ) 博士論文・修士論文・卒業論文の作成に差し支えないこと、の2つの条件を満たしていること。

### (2) 採用

女性未来育成センターにおいて、利用申請者の利用計画および研究分野等に鑑み、「研究支援員人材バンク」登録者または利用者の希望する人材の中から、登録内容および面接による選考を行い、採用者とその雇用時間数等を決定します。採用通知を受けた「研究支援員」は、雇用関係書類を女性未来育成センターに提出することによって、最終的な採用となります。研究支援員は、本学の有期契約職員として雇用します。

### (3) 研究者支援業務

配置された「利用者」の指示のもとで、研究支援業務を行ってください。

「研究支援員」が支援できる研究補助業務は原則として次のとおりです。

なお、支援業務内容によっては、同じ研究分野または関連分野の「利用者」に配置されない場合があります。

- (1) 実験・調査の補助
- (2) データの入力や整理
- (3) データ分析・解析補助
- (4) 図表などの校正・整形
- (5) 論文作成補助
- (6) 情報の検索・収集
- (7) 研究費申請書類作成補助
- (8) 学会発表準備補助
- (9) 翻訳
- (10) 資料整理

### (4) 勤務時間

原則として、月60時間までです。なお、「研究支援員」が本学の在学生の場合、勤務時間は、原則として1日1時間以上、週20時間までです。RA、TA、SAを担当している在学生が研究支援員にも採用される場合は、RA、TA、SAと研究支援員の勤務時間が合わせて週20時間を超えないことが条件となります。

### (5) 給与

「研究支援員」の給与は時給とし、単価は次のとおりです。

- ・大学院博士後期課程在学生 時給1,300円
- ・大学院博士前期課程在学生 時給1,100円
- ・学部在学生 時給900円

※本学の在学生以外の場合は、経歴により決定します。

給与の支給等は、愛媛大学の有期契約職員等給与規程によります。(原則として、月単位にまとめて翌月17日に支給します。)

女性未来育成センターが、「研究支援員」が毎月末に提出する労働時間割振表・勤務状況記録簿を確認した上で、給与の支払い事務を行います。

### (6) 人材派遣会社からの派遣

女性未来育成センターにおいて、利用申請者の利用計画および研究分野等に鑑み、人材派遣会社からの派遣手続きを行います。なお、派遣される人材を指定することはできません。また、通

常の雇用と異なり、労働者派遣契約を締結する手続きが必要となりますので、通常数ヶ月を要します。

(7) 報告

期間終了時に研究支援員配置報告書（研究支援員用）を提出してください。

### 3. 業務担当部署

本制度の運用は、女性未来育成センターが担当します。なお、主な業務内容は次のとおりです。

- 1) 制度利用の募集、選考、コーディネート
- 2) 「研究支援員」の雇用・配置、勤務内容の確認、給与支払手続き
- 3) 「利用者」および「研究支援員」から提出された報告書に基づく効果の検証
- 4) 「研究支援員人材バンク」の運営

女性未来育成センター内に「研究支援員人材バンク」をおき、本学在学生の「研究支援員」の申請を随時受け付けます。利用者の就業条件に合う方を「研究支援員人材バンク」登録者（適当な方が居ない場合は、本学在学生以外）の中から、利用者との面接による選考を経て、「研究支援員」を採用します。採用された「研究支援員」には、支援業務内容に応じた雇用・配置を行います。

### 4. 制度の運用についての留意事項

- 1) 「利用申請者」は、所属する研究室等の教員とも十分相談の上、申請してください。
- 2) 書式等については、女性未来育成センターのホームページから入手し、所定の期日を必ず守って申請してください。
- 3) 選考の過程または採択時に、別途資料の作成・提出を要することがあります。
- 4) 申請書等の個人情報は、研究支援員制度の選考時のみに使用します。
- 5) 利用申請書等の記載内容に変更が生じた場合は、速やかに女性未来育成センターへ連絡してください。
- 6) 「研究支援員人材バンク」に登録された内容に変更が生じた場合、速やかに女性未来育成センターへ連絡してください。
- 7) 問題が生じた場合には、速やかに女性未来育成センターに報告または相談し、その指示に従ってください。
- 8) 不適切な制度利用があった場合には、利用を中止することがあります。

### 2-1-3. 相談室

女性研究者（教員、研究員）、大学院生等を対象として、研究を続けていく上での悩みを相談できる相談室（ひめルーム相談室）を平成23年7月14日に開設しました。どのような相談にも対応できるように、臨床心理士（月1回、4時間）、キャリア・コンサルタント（月2回、各4時間）、フェミニスト・カウンセラー（月4回、各4時間）の3人の外部のカウンセラーに来ていただいています。相談は予約制をとっており、まだ利用率は低いですが、アンケート調査の結果、潜在的ニーズはあることがわかりました。プチ講座の開催、相談室カードの配布などを通じて周知に努めています。

#### 【相談室実績】

	臨床心理士	キャリア・ コンサルタント	フェミニスト・ カウンセラー
相談延べ人数（人）	6	1	6
相談延べ時間（h）	6	1	8.5
勤務時間合計（h）	36	64	124
利用率（h/h %）	16.6	1.6	6.9



#### 相談カレンダー

	月	火	水	木	金
第1週		9～13時 谷口明美		9～13時 清野初美	
第2週			9～13時 石井真奈	12～16時 清野初美	
第3週				9～13時 清野初美	
第4週			12～16時 石井真奈	12～16時 清野初美	

谷口明美（臨床心理士）  
石井真奈（キャリア・コンサルタント）  
清野初美（フェミニスト・カウンセラー）

女性研究者（教員、研究員、大学院生等）対象の  
相談室ができました。

**089-927-8602** (内線: 8622)  
himeroom@stu.ehime-u.ac.jp

予約制 受付・問合せ: 女性未来育成センター

相談無料 学外の相談員が在室しています。悩んでいるところなどありましたら、お気軽にご利用ください。

ひめルーム相談室 <http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>

ひめルーム  
相談室

愛媛大学女性未来育成センター  
愛媛県松山市文京町13番  
教育学部4号館3F  
<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>

## 2-1-4. 女性研究者メンター制度

メンターとして男女の専任教員（教授、准教授、講師）が、メンティの女性研究者（教員・研究員）および女子大学院生からのキャリア形成等について、相談に乗るメンター制度を平成 23 年 9 月 27 日から開始しました。メンターになる要件として、メンタリング研修の受講が必要です。外部講師を招いて、メンタリング研修を、平成 23 年 6 月 27 日（城北地区）と 11 月 4 日（城北地区と重信地区）に開催し、メンター、メンティの基礎的研修を行いました。メンター登録者は平成 24 年 3 月現在、11 人、メンティとしての利用者は 1 人です。今後、メンター登録者を増やすとともに、メンター制度利用を促していく予定です。

### 「女性研究者メンター制度」実施要領

#### 1. 趣旨

女性研究者のキャリア形成や、育児・介護と研究の両立に関する問題を共有し、解決するために、メンター制度を実施する。

#### 2. メンターについて

メンター（相談を受ける者）は、男女の専任教員（教授、准教授、講師）とし、メンタリング研修を受講後、本人の同意及び所属長の承認を経て、女性未来育成センター（以下「センター」という。）にメンターとして登録する。メンターは、センターのホームページ上で、氏名、所属、職名、教員プロフィール等の情報を提供する。メンターは、メンティの相談申請の打診に対し、受け持っているメンティの数や相談の負担などを考慮の上、相談に応じる。

#### 3. メンティについて

メンティ（相談をする者）は、女性研究者（教員・研究員）および女子大学院生とし、センターにメンティ登録した後に、登録メンターからメンターを選び、センターに相談開始を申請する。

#### 4. メンタリング研修の受講

メンターを希望する者は、センターが実施するメンタリング研修を受講し、メンターとしての知識と技能を習得しなければならない。

#### 5. 相談の方法

相談の方法は、面談、電話、メール等とし、初回は基本的に面談とする。二回目以降は、両者の協議によって決定する。

メンターへの負担が多大な場合や、問題が解消しない場合には、メンターを変更するなどの措置を講ずる。

#### 6. 事後アンケート

相談終了後、もしくは一定期間経過後に、制度の活用状況を把握し、今後の改善を目的として、メンター／メンティ双方に事後アンケートを行う。

**女性未来育成センター主催**

**第2回 女性研究者メンタリング研修**

キャリアアップ  
をめざす人にも  
おすすめ!!

**悩み解決！キャリアで成功するための「女性研究者メンター制度」導入講座**

今回の研修では、人との関わり方やコミュニケーションスキルなど  
今後 研究者として活躍していく上で役立つ基本的な人間関係のスキルも学べます。

**平成23年11月4日(金)**  
13:00~15:00 城北キャンパス ミューズ3階会議室  
16:00~18:00 重信キャンパス 医学部第3セミナー室

対象: 学内の教員・研究員(男女とも)及び女子大学院生  
定員: 城北キャンパス30名 重信キャンパス20名  
司会: 女性未来育成センター長 小島 秀子  
講師: テンバスタフラーニング 山岡 仁美

講師経歴 株式会社ワロス・カンパニー代表取締役、DSCインストラクター、産業カウンセラー、JCOキャリアアドバイザー、アソシエイト、卒業研究指導ゼミナール、海外マスタープログラムコーディネーター、様々な人材や組織づくりに関わり続け、自身の成長・育児との両立での管理職経験、起業などの経験から、多様性を活かす働き場を持つ社会で、自らの活躍を促す研修開発が、1500人以上の卒業生を輩出。

**研修内容**

- メンター制度とは？
  - ・研究継続やキャリア形成のためのメンターによる相談制度
  - 女性研究者ならではのケースを知ろう！
    - ・メンター(先輩研究者)に助けられたケース
    - ・メンティ(後輩研究者)との関わりで得たもの
  - メンター:メンティの効果的な関わり方
    - ・多様性の受け、相乗効果を図る etc.
  - メンタリングのキースキルを学ぶ(ミニロールプレイング)
    - ・“聴く”ことで引き出す
    - ・“認める”ことで伸ばす
    - ・“促す”ことで成長させる

**申込方法 下記までメールまたはファックスで**  
**『名前・所属・連絡先・参加場所』をお知らせください**  
**申込締切:平成23年10月21日(金)**

姫路大学 女性未来育成センター  
<http://hime.adm.hime-u.ac.jp>

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番(城北キャンパス教育学部4号館3階)  
 TEL・FAX: 089-927-8602 hime@stu.hime-u.ac.jp



## 2-1-5. 女性研究者セミナー・交流会

### 【第1回ランチ交流会】

平成23年5月20日（金）の12時～13時、校友会館2階サロンにおいて第1回ランチ交流会を開催しました。城北キャンパスだけでなく、農学部や医学部からも参加者が集まり、総勢26名の様々な分野の学生・研究者が顔をそろえました。まず小島センター長からの挨拶のあと、全員が自己紹介を行いました。その後、軽食を片手にお互いの研究分野や女性研究者ならではの話に花が咲き、すぐに打ち解けた雰囲気となりました。立食形式で、気軽に話しながらも、あっという間に時間が過ぎていき、まだまだ話し足りないといったムードのなか、お開きとなりました。

### 【第2回ランチ交流会】

平成23年9月27日（火）の12時～13時、校友会館2階サロンにおいて第2回ランチ交流会を開催しました。今回は、9月27日より女性研究者メンター制度の開始に伴い、メンターの先生も参加しました。



## 学部企画のセミナー・交流会

学部ごとに教育・研究の事情が異なるため、きめ細かく対応し、本事業の裾野を広げていくために、平成23年後期から学部企画のセミナーや交流会を開催しています。

### 【医学部企画の「女性研究者交流セミナー」】

平成23年12月10日（土）、17時～18時30分、医学部第一ゼミナール室（重信地区）において、医学部の基礎系女性研究者4人が、それぞれ研究紹介を行いました。次いで、参加者どうしの意見交換を行い、互いの親睦を深めました。

### 【研究センター企画の「理系女性研究者紹介ランチョンセミナー」】

平成24年1月13日（金）12時～13時30分、総合研究棟1増築棟4階ゼミ室（城北キャンパス理学部構内）において、理系女性研究者4人の研究を紹介する気軽なランチョンセミナーを開催しました。お昼を食べながら楽しく研究について語り合いました。

女性未来育成センター主催

## 理系女性研究者紹介 ランチョンセミナー

参加対象：学生・院生・PD・教職員  
参加費：無料

愛媛大学で活躍している理系女性研究者の研究を紹介する気軽なセミナーです。お昼を食べながら、楽しく研究について語り合しましょう。

\*ランチは各自ご持参ください。



**挨拶：**  
女性未来育成センター  
小島 秀子 センター長

**講師：**  
理学部地球科学科（准教授）  
堀 利栄 先生  
地球深部ダイナミクス研究センター（GCOE 准教授）  
松影 香子 先生  
沿岸環境科学研究センター（博士課程学生）  
中島 悦子さん  
沿岸環境科学研究センター（GCOE 准教授）  
濱村 奈津子 先生

日時：2012年1月13日（金） 12:00～13:30  
場所：愛媛大学総合研究棟1増築棟 4階ゼミ室  
（城北キャンパス 理学部構内）

お問合わせ：愛媛大学女性未来育成センター TEL: 089-927-8602  
Email: hime@stu.ehime-u.ac.jp

## 2-2. 育児支援

### 2-2-1. 学内保育所開設

平成 23 年 9 月 1 日（木）、城北キャンパスに保育所「えみかキッズ」が開設されました。本学では、重信キャンパスの医学部附属病院の院内保育所「あいあいキッズ」に次いで 2 カ所目となります。定員は 20 人で外部委託（株式会社ニチイ学館）により運営しています。平成 24 年 3 月現在、保育児数は 10 人ですが、新年度となる 4 月からは増える見込みです。

「えみかキッズ」は、キャンパス中央部の教育学部 4 号館 1 階に位置しているため、乳幼児の様子が日常的に目に触れ、キャンパスの雰囲気を変えると同時に、教職員や学生の男女共同参画の意識の変化を起こすと期待されます。

なお、平成 19 年度に開設された院内保育所「あいあいキッズ」は、看護師の多い職場のため需要が高く、保育児定員 30 人からスタートして現在は 50 人に増やしていますが、それでも需要に追いつかず、来年度は改修工事を行い、定員 80 人とする予定です。さらに来年度から重信地区では、病児保育と毎日の学童保育も始める予定です。このように、本学の育児支援に関するインフラ整備はかなり充実してきたと言えます。



## 2-2-2. 長期休み学内学童保育

長期休暇中の学童保育は、子育て中の教職員のニーズが大きいため、実施することとしました。対象は、教職員、学生の小学1年生～6年生の児童としています。当初の計画では、平成22年度は準備期間でしたが、前倒しで平成22年冬休み学童保育を、男女共同参画推進専門委員会の主催、当センターの協賛で試行しました。場所は、教育学部4号館1階で、保育業務を委託した愛媛大学生協により畳が敷き詰められた部屋で実施しました。利用した9人の小学生、保護者ともに満足度が高く、平成23年度からは本格実施することとなりました。

平成23年夏休みからは、職員会館1階和室において実施しています。学童保育は大学の運営であり、当センターは学生イベントボランティア募集などの企画・情報発信面で協力しています。今後の課題として、場所の確保とトイレなどの設備面の改善が挙げられます。

### 【学童保育実績】

- ・平成22年冬休み試行（平成23年1月6～8日）：児童9人
- ・平成23年夏休み実施（平成23年7月21日～8月31日）：児童17人
- ・平成23年冬休み実施（平成23年12月26～27日、平成24年1月4～6日）：児童8人
- ・平成23年春休み実施（平成24年3月26日～4月6日）：児童14人（予定）



## 愛媛大学長期休み学童保育 学生イベントボランティア募集

愛大城北キャンパスで小学生の長期休み限定の学童保育を実施することになりました。子どもたちに「遊び」を提供してくれるイベントボランティア学生人材バンク登録者を募集します。

**期間**  
夏休み：平成23年7月21日～8月31日  
※土・日曜、及び8月12日～16日を除く  
冬休み（予定）：平成23年12月26日～平成24年1月7日  
※土・日曜、祝日及び12月29日～1月3日を除く  
春休み（予定）：平成24年3月26日～4月7日  
※土・日曜、祝日を除く

**たしえび** いろんな出し物、読み聞かせ、出張授業  
ボール遊びの相手、ゲーム  
遠足や社会見学のつきそい など

★ **自主企画を歓迎します！**  
お気軽にお問い合わせください

申込み：  
女性未来育成センターHPより取得できます(<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>)  
(女性未来育成センターにも置いてあります)

申込み・お問い合わせ  
愛媛大学 千790-8577 愛媛県松山市文京町3番 城北キャンパス(教育学部4号館3階)  
女性未来育成センター <http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>  
TEL/FAX: 089-927-8602 (内線:8622) E-mail: hime@stu.ehime-u.ac.jp

## 2-3. 意識改革

### 2-3-1. 男女共同参画意識調査

平成 22 年度に、男女共同参画意識調査を全学の教職員と学生を対象として電子媒体で実施しました。ここでは、教職員と学生の回答傾向を比較しています。

なお、平成 24 年後期にも調査を行い、両方合わせて事業実施前と後の意識変化を検証し、「愛媛大学男女共同参画意識調査報告書」としてまとめる予定です。

- ・教職員対象：「教職員調査」
- ・学生（学部生と大学院生）対象：「学生調査」

#### 【調査方法】

教職員調査は、調査対象者に対する一斉メールで調査依頼を行い、その文面に示したウェブ入力用 URL に回答者がアクセスし、ウェブアンケートのシステム上に自ら回答を入力していただき、アンケート公開期間終了後に入力された回答を回収しました。

学生調査は、就学支援システムの「アンケート一覧」に掲載されたウェブ入力用 URL に回答者がアクセスし、ウェブアンケートのシステム上に自ら回答を入力していただき、アンケート公開期間終了後に入力された回答を回収しました。

#### 【調査実施時期】

教職員調査：平成 23 年 1 月 1 日～2 月 28 日

学生調査：平成 22 年 12 月 17 日～平成 23 年 2 月 28 日

#### 【回答率】

教職員調査：有効回答率 19.4%（調査対象教職員数 2063 人中、有効回答 400 件）

学生調査：有効回答率 5.9%（調査対象者 9742 人中、有効回答 574 件）

#### 【調査結果の概要】

学生よりも教職員の方が全体的に知識もあり、意識も高い傾向が伺われました。ただし一部の設問については、学生の方がより認知が高い場合があり、高校までの教育による効果であると推察されます。このことは、学生に対して、男女共同参画推進に向けての意識啓発が重要であることを示唆しています。

【回答者について：教職員】

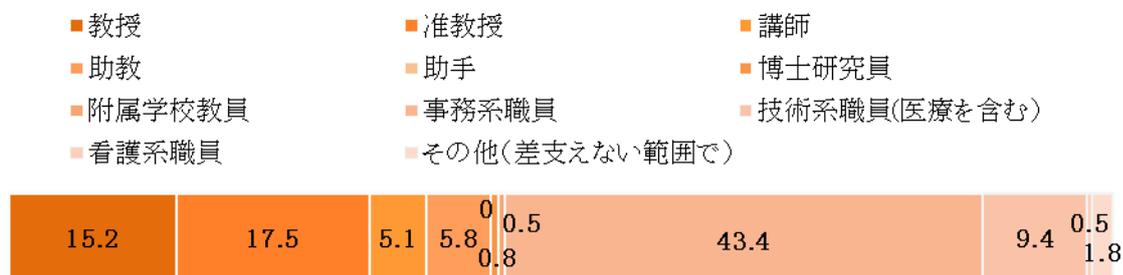
## 教職員回答者 性別



## 教職員回答者 年齢



## 教職員回答者 職階



## 教職員回答者 専任・非専任



【回答者について：学生】

### 学生回答者 性別

■ 男 ■ 女 ■ 答えたくない



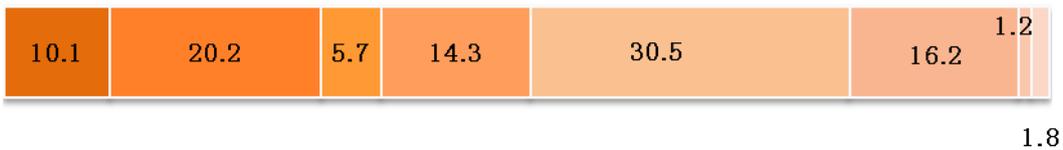
### 学生回答者 学年

■ 1回生 ■ 2回生 ■ 3回生 ■ 4回生 ■ M1・5回生 ■ M2・6回生 ■ D1-4 ■ 無回答



### 学生回答者 学部

■ 理学部 ■ 工学部 ■ 農学部・農学研究科  
■ 医学部 ■ 法文学部・法文学研究科 ■ 教育学部・教育学研究科  
■ 理工学研究科 ■ その他・不明



【資料：集計結果】

Q1 あなたは「男女共同参画」という言葉を知っていますか。

教職員、学生ともに、「よく知っている」、「知っている」を合わせると、全体の約7割を占めていました。

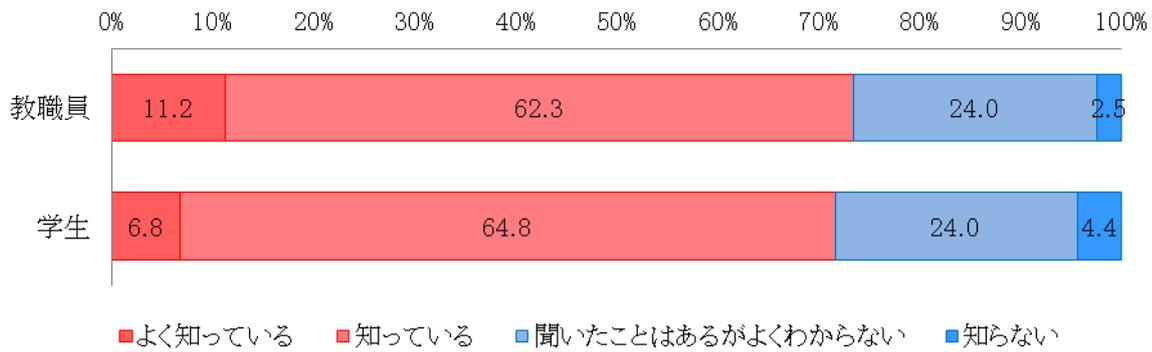


図1 「男女共同参画」の認知 (%)

**Q2 次の言葉のうちあなたが見たり聞いたりしたことがあるものをあげてください。(MA)**

教職員、学生共に「男女共同参画」「ジェンダー」の認知が高いことがわかりました。教職員については、「ワーク・ライフ・バランス」が71.0%と高かったが、学生は40.4%と低かったのは、社会人である教職員は自分の問題としてこの言葉を意識しているためだと考えられます。逆に、「女子差別撤廃条約」について、学生は73.0%と高かったが、教職員は38.0%と低かったのは、現在の大学生は高校までにこの条約について学習しているためだと考えられます。「ポジティブアクション」や「ダイバーシティ」を知らない人は、教職員で約3分の2、学生では8割を超えており、これらの言葉の認知を高めていく必要があることが示唆されました。

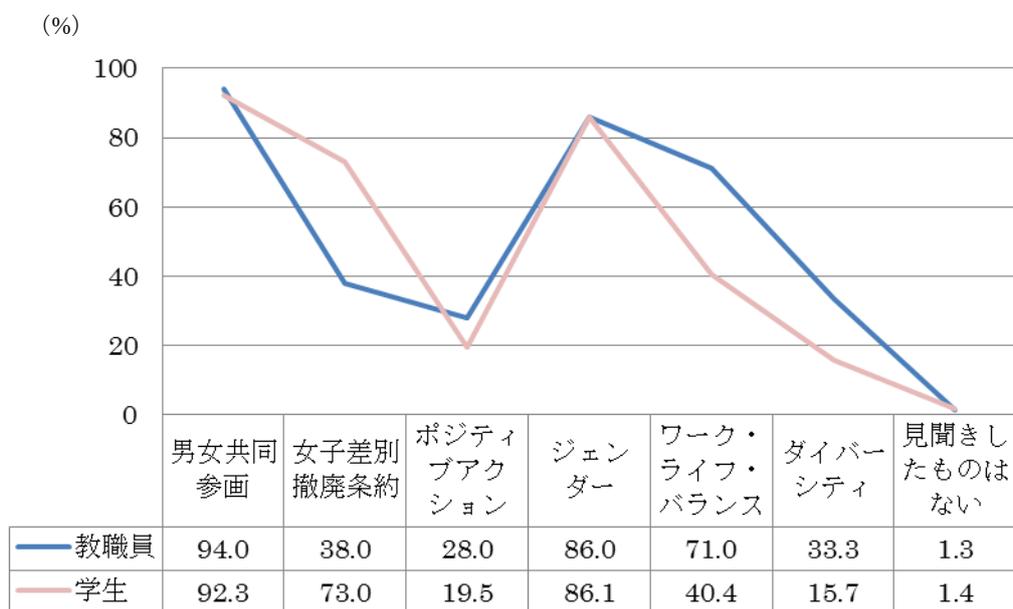


図2 見聞きしたことのある言葉

Q3 次にあげる愛媛大学において利用できる制度等のうちあなたが知っているものをあげてください。(複数回答可)

いずれの制度も、教職員のほうが学生より認知が高かったが、よく知られている制度と、知られていない制度の傾向は、教職員も学生も似ていました。

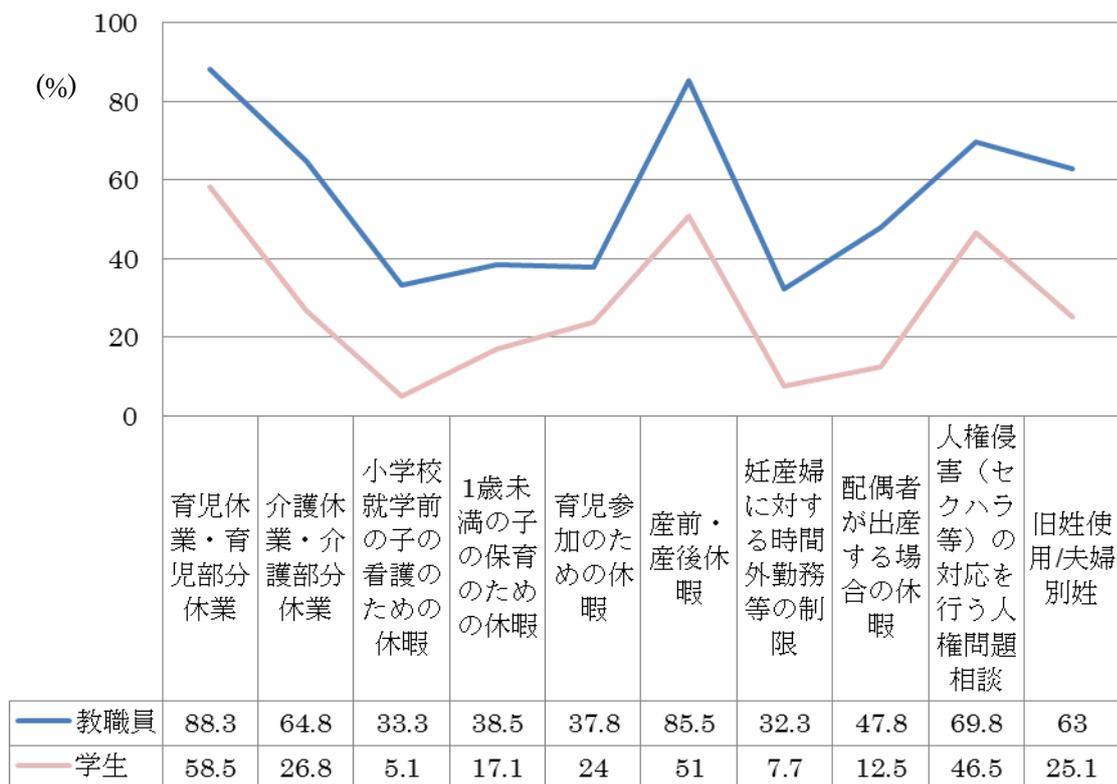


図3 知っている制度

**Q4 愛媛大学において、男女共同参画の観点から見た時、改善すべきと思われる項目についてあげてください。(MA)**

教職員、学生共に「女性教職員の採用が少ない」ことを改善すべきだと見ており、特に学生についてはこの項目を挙げた者が過半数を占めていました。逆に、「重要な仕事が女性（/女子）には与えられない」、「女性職員（/女子学生）によるお茶くみ、掃除、コピー等の慣行」といったジェンダー差別を改善すべきだと指摘する人は、学生の方が少ないことがわかりました。

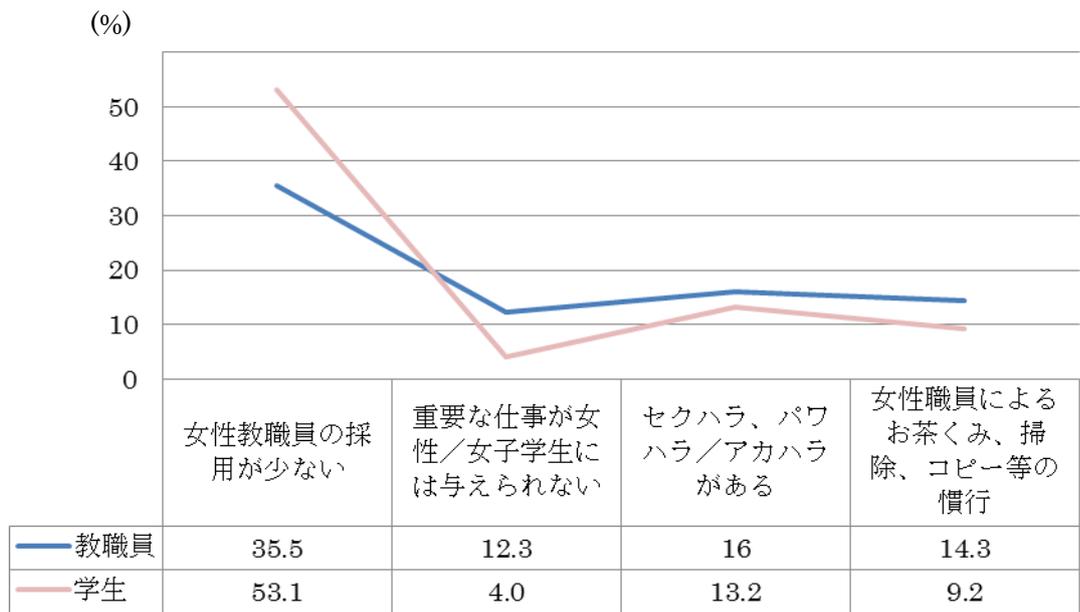


図4 改善すべき項目

Q5 現在、愛媛大学において男女共同参画がどのくらい実現されていると思いますか。

「どちらかといえば実現されていない」「まだまだ不十分である」「全くできていない」と否定的な反応を示した者は、教職員では4割弱、学生では2割未満でした。逆に、「わからない」と答えた人は、教職員では2割程度でしたが、学生は約4割と高く、「男女共同参画が実現されている」状態をイメージできていないことが伺われました。

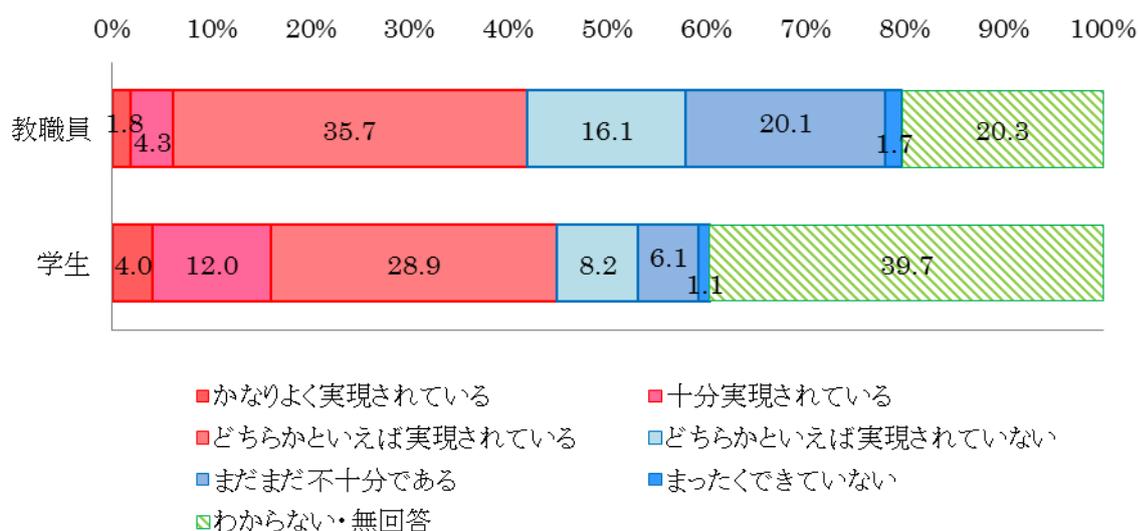


図5 これまでの学内の男女共同参画の実現度 (%)

Q6 愛媛大学に置いて男女共同参画の実現についてどう思いますか。(SA)

教職員も学生も、「できる」と「難しいができる」を合わせると、約3分の2を占めていましたが、教職員は「難しいができる」、学生は「できる」の比率が高く、学生の方が現実感がないためか、どちらかといえば楽観的でした。

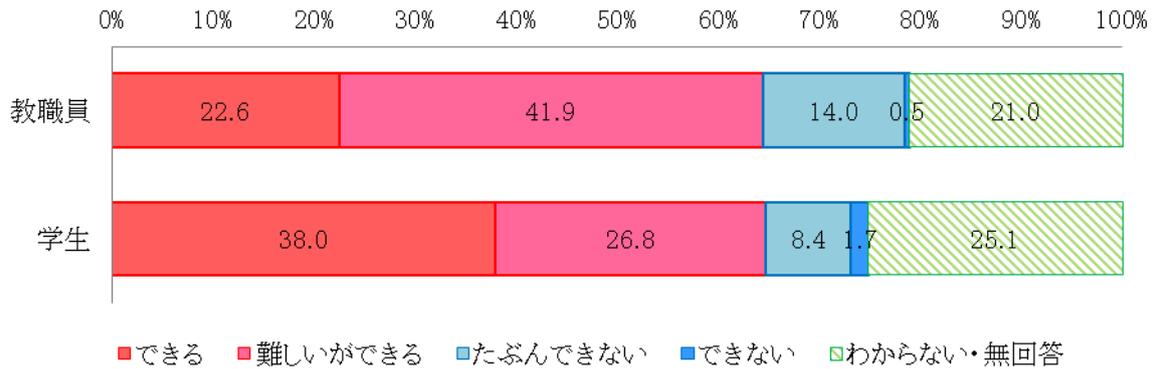


図6 今後の学内の実現可能性(%)

Q7 愛媛大学の男女共同参画の実現において、それを阻む障害があるとすれば何ですか。(複数回答可)

教職員も学生も「日本社会全体の問題」と見る傾向が強く、他にもだいたい教職員の方が問題意識を高く持っていました。一方、「わからない」と回答する比率は学生の方が高く、何が問題であるかを判断できていない様子が伺われました。

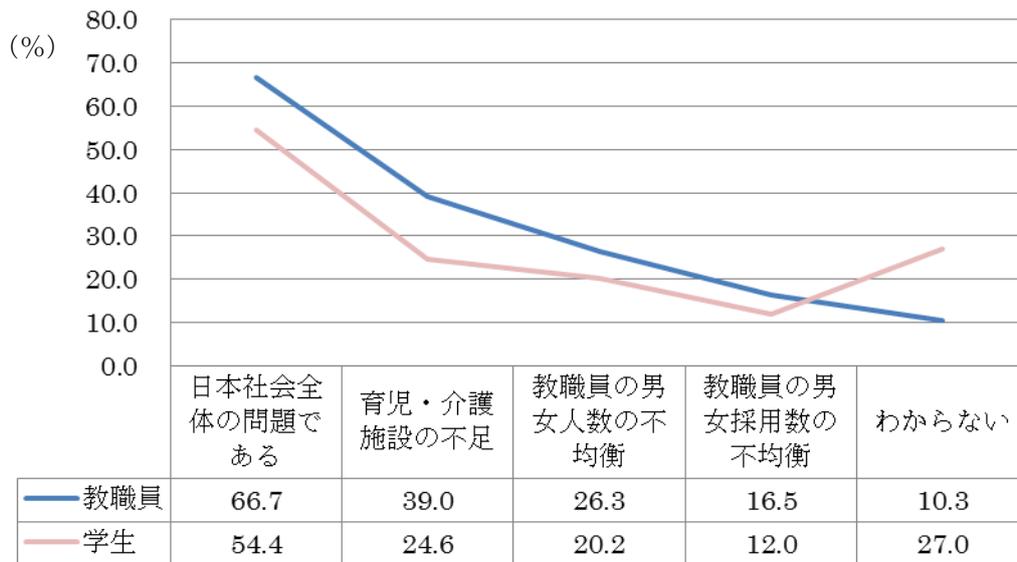


図7 実現を阻む障害 (%)

Q8 あなたは、愛媛大学における男女共同参画に関する以下の意見についてどう思いますか。(SA)

「(1)推進が必要」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と答えた教職員は7割を超えていましたが、学生は5割強に留まっていました。一方、「どちらともいえない」と答えた比率は学生に高く、判断がついていない様子が伺われました。

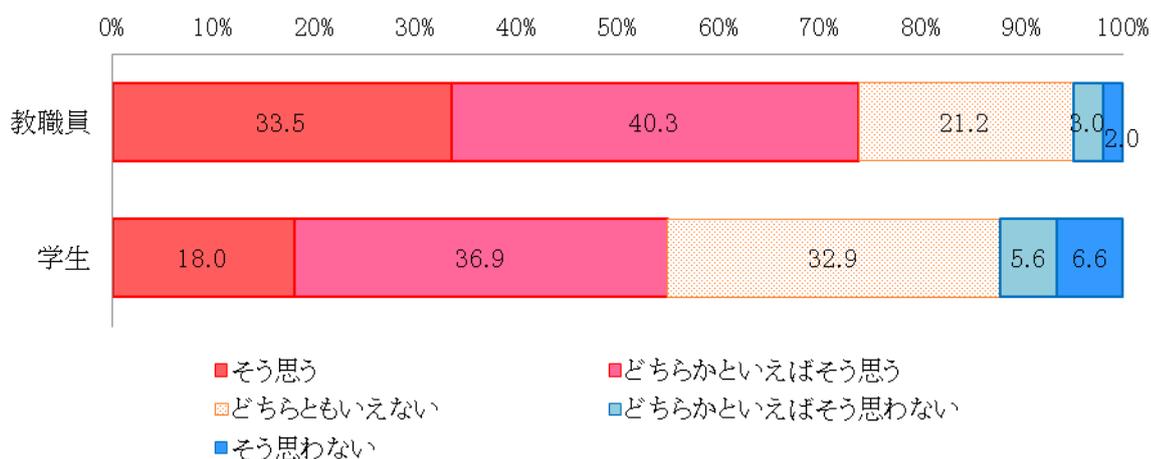


図 8(1)「愛媛大学では推進が必要」について

「(2)推進の努力を惜しまない」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と答えた人を合わせると、教職員では6割を超えていましたが、学生では4割強にとどまっていました。一方、この項目についても、「どちらともいえない」と答えた人が、学生では4割強と高く、これについても判断がついていない様子が伺われました。

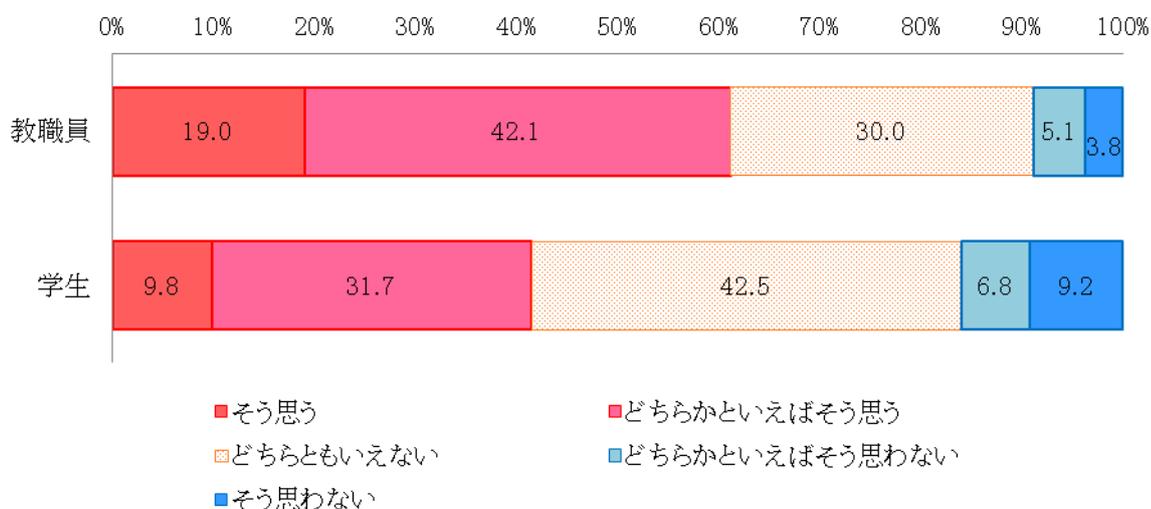


図 8(2)「私は推進の努力をおしまない」について

「(3)女子学生募集拡大は不可欠」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、教職員では3割弱でしたが、学生は3割強と若干の差が見られました。この項目については、教職員の方が「どちらともいえない」の回答率が高いことがわかりました。

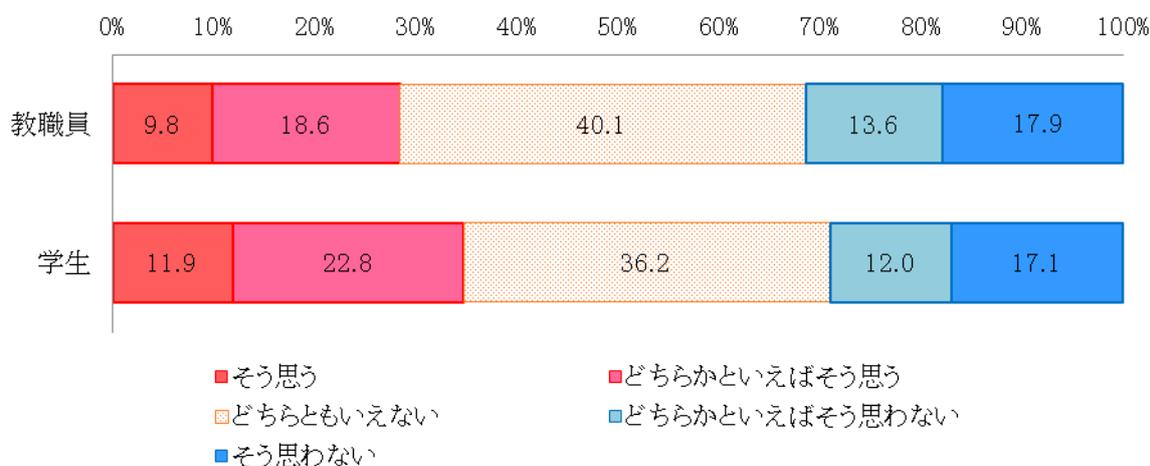


図 Q8 (3) 「女子学生募集拡大は不可欠」について

「(4)女性教員比率拡大は不可欠」については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、教職員では過半数を占めていましたが、学生は4割強でした。この項目についても、学生の方が「どちらともいえない」の回答率が高いことがわかりました。

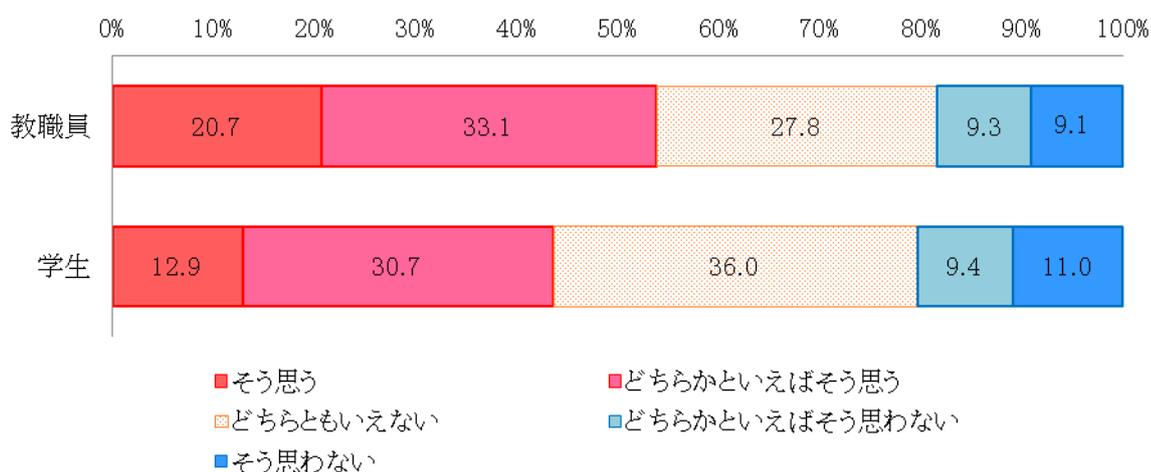


図 8 (4) 「女性教員比率拡大は不可欠」について

Q9 社会全体でみた場合に、男女の地位は平等になっていると思いますか。(SA)

この設問については、教職員の過半数、学生の半数近くが「男性の方が優遇されている」と答えており、「女性の方が優遇されている」と大きな差が見られました。

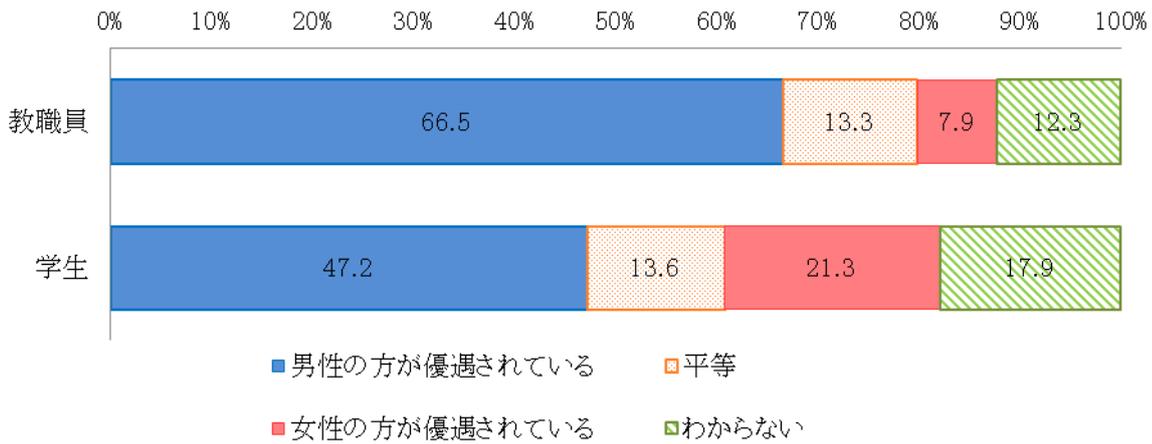


図9 社会全体の男女の地位平等

Q10 今後男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何でしょうか。(MA)

教職員では、「女性が経済力や技術を身に着けること」、「法や制度」、「偏見や通念の改め」の順で高く、学生は「偏見や通念の改め」が最も多いことがわかりました。

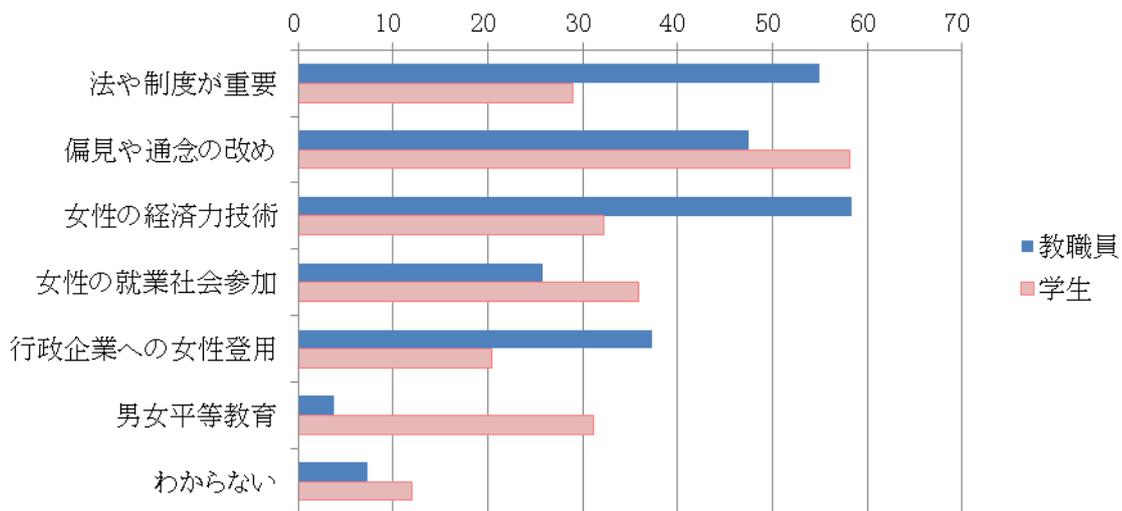


図 10 より平等になるために最も重要なこと (MA)

Q11 愛媛大学において、男女共同参画にかかわる様々な問題を解決するために、苦情処理・不服申立に関する制度を設けることについてどう思いますか。

教職員と学生のあいだに大きな差は見られませんでした。

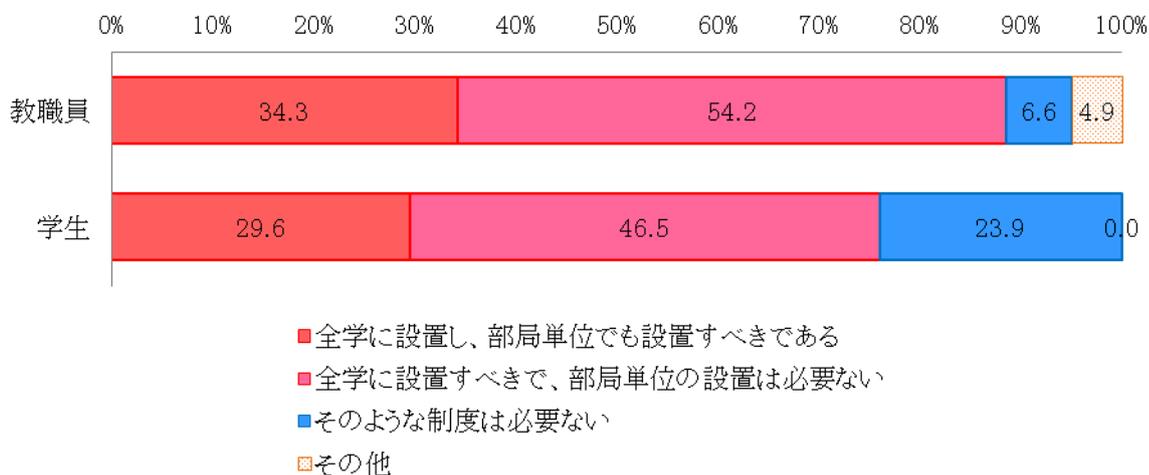


図 11 苦情処理・不服申立てに関する制度について

Q13 愛媛大学の城北地区に学内保育所が開設されたとしたら、利用したいと思いますか。(SA)

教職員の方が明確な利用意向が見られました。

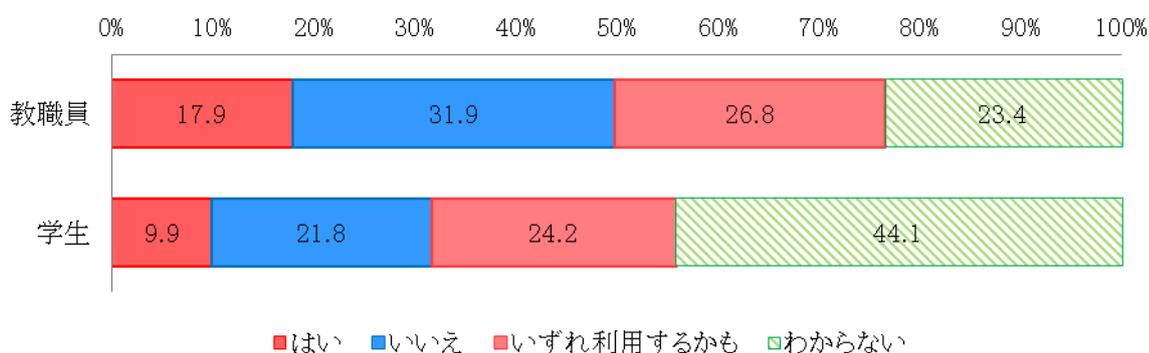


図 13 保育所利用動向 (%)

Q14 愛媛大学の城北地区に長期休暇（夏休み、冬休み、春休み）限定の学童保育所が設置されたとしたら、利用したいと思いますか。（SA）

教職員の方が明確な利用意向が見られました。

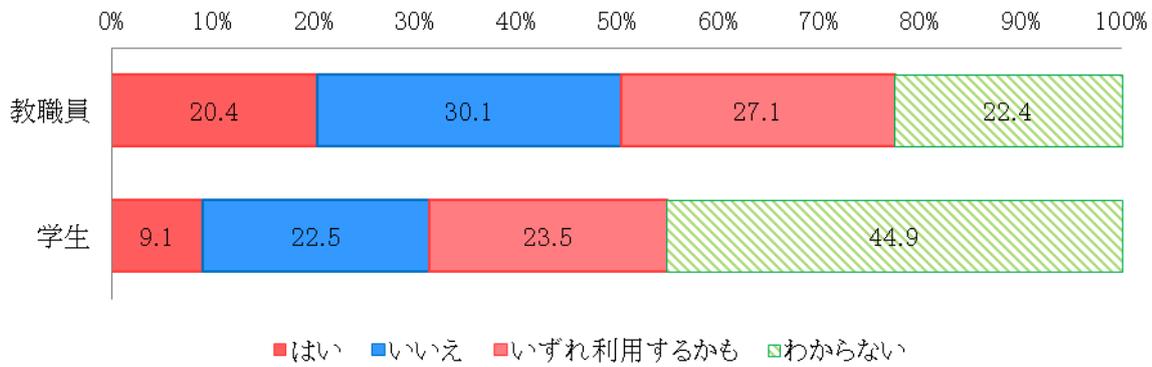


図 14 学童保育利用意向 (%)

## 2-3-2. 意識啓発シンポジウム開催

### 【キックオフシンポジウム】

平成22年11月5日(金)、本事業の開始を記念して、南加記念ホールでキックオフシンポジウムを開催しました。参加者は学内外合わせて180人を超え、盛会となりました。



平成22年度 文部科学省 科学技術振興調整費  
「女性研究者支援モデル育成」事業



愛媛大学女性研究者育成プラン  
キックオフシンポジウム

**日時** 平成22年11月5日(金) 14:00~16:40 (受付13:00~)

**会場** 愛媛大学 南加記念ホール (松山市文京町3, 城北キャンパス)

男性の教職員・研究員・学生・地域の皆様  
頑張る女性を助けるのはあなたです。是非ご参加を!!

入場無料  
事前申込み不要

— プログラム —

14:00	<b>●開会挨拶</b>	愛媛大学学長 <b>柳澤 康信</b>	
	<b>●来賓挨拶</b>	愛媛県知事 <b>加戸 守行</b>	
	<b>●特別講演</b>	文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長 <b>板倉 周一郎</b>	
14:30~15:15		— 休憩 —	
	<b>●基調講演</b>	東邦大学理学部長・日本女性科学者の会会長 <b>大島 範子</b>	
15:30~16:15		「オンリーワン：男女ともに一人ひとりが輝くために」	
	<b>●事業紹介</b>	愛媛大学女性未来育成センター長 <b>小島 秀子</b>	
16:15~16:35			
	<b>●閉会挨拶</b>	愛媛大学副学長 <b>曲田 清維</b>	
16:35			

**懇親会**

時間 17:00~19:00

会場 校友会館1F 交流スペース (参加費 2000円)



城北キャンパス

南加記念ホール

校友会館

★★お問い合わせ★★  
 国立大学法人 愛媛大学 女性未来育成センター  
 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3  
 TEL/FAX: 089-927-8602  
 E-mail: hime@stu.ehime-u.ac.jp  
 URL: http://hime.adm.ehime-u.ac.jp

柳澤康信学長は、「女性研究者支援の動きが活発化している中、今年度、文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援事業に、本学を含め四国から3大学が採択されました。この事業は女性にターゲットを当てた人材育成であり、本学の方向性に合致しています。全学を挙げて女性研究者育成に取り組む所存です。」と決意を表明しました。続いて、愛媛県知事補佐官永野英詞氏から祝辞をいただきました。

特別講演は、文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課の板倉周一郎課長により、「女性研究者の現状と愛媛大学への期待」と題して行われ、「全国55採択校プログラム全体のトリとして、先行大学の良いところを取り入れ、高い域を目指して、より良い成果を上げてほしい。」とのメッセージをいただきました。

基調講演は、東邦大学理学部長で日本女性科学者会会長の大島範子先生より、「Only One:男女ともに一人ひとりが輝くために」のタイトルで行われ、先生ご自身の経験談も交えながら、「男女一人ひとりか輝いて生きるために」、「適正な労働時間設定」と「柔軟な働き方の導入」が不可欠であり、人生様々なステージにおいて、ワーク・ライフ・バランスがとれるようにすることが重要であることをわかりやすく話されました。

小島秀子センター長は事業説明を行い、「女性研究者が活躍できる環境整備と意識改革を行い、女性教員を積極的に増員して、時代に適合した愛媛大学へと変革することは緊急の課題であり、元気に取り組みたい。教職員・学生・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。」と述べました。最後に曲田清維副学長が閉会辞を述べ、3時間に亘る意義深いシンポジウムの幕が下りました。



開会挨拶をする柳澤学長



文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 板倉課長



東邦大学理学部長・日本女性科学者の会会長 大島先生



シンポジウム会場内(南加記念ホール)

## 【第1回管理職セミナー】

平成23年1月12日（水）、女性研究者支援と女性教員増員への意識啓発のために、第1回管理職セミナーを本学本部において開催しました。幹部教職員51人の参加がありました。最初の講演では、東海大学名誉教授の佐々木政子先生より、「大学における男女共同参画を考えるー女性研究者支援とは？ー」と題して、国内外の女性研究者の現状と男女共同参画の取組について、データや実例を交えて力強くお話いただきました。続いての講演では、九州大学研究戦略企画室の上瀧恵里子准教授より、「女性が活躍できる大学を目指してー九大方式女性教員採用・養成システムー」と題して、女性研究者養成システム改革加速プログラムで全国に先駆けて実施中の、女性限定公募の仕組みや、採用後の女性教員の成果とその効果について、データや実例を挙げて詳細にお話いただきました。講演は好評で、ポイント制、女性限定公募などについて質問が寄せられました。



セミナー会場の様子



質問に答える上瀧先生



愛媛大学

平成22年度 文部科学省 科学技術振興調整費  
「女性研究者支援モデル育成」事業



振興調整費

### 第1回 管理職セミナー

日時 平成23年1月12日(水) 16:00~17:30  
会場 愛媛大学本部2階 第2会議室  
主催 愛媛大学 女性未来育成センター

— プログラム —

16:00 学長挨拶 愛媛大学長 柳澤 康信  
16:05 事業説明 愛媛大学女性未来育成センター長 小島秀子  
16:10 講演「大学における男女共同参画を考える  
ー女性研究者支援とは？ー」  
東海大学名誉教授 佐々木 政子  
16:50 講演「女性が活躍できる大学を目指して  
九大方式女性教員採用・養成システムー」  
九州大学研究戦略企画室 准教授 上瀧 恵里子

お問い合わせ

愛媛大学  
女性未来育成センター

松山市文京町3番  
城北キャンパス（教育学部4号館3階）  
E-mail: hime@stu.ehime-u.ac.jp  
TEL/FAX: 089-927-8602 (内線: 8622)

## 【第1回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム】

平成23年3月11日（金）、第1回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウムを総合情報メディアセンター・メディアホールにて開催しました。本シンポジウムは、ダイバーシティとワーク・ライフ・バランスの重要性と、実現のための環境整備の必要性について、愛媛県地域の幅広い方々への理解と意識改革を促すことを目的として、愛媛県と松山市の後援のもとで開催しました。参加者数は、年度末の忙しい時期にもかかわらず、学内54人、学外33人の計87人あり、他大学関係者だけでなく、愛媛県の地元企業や地域など幅広い層の方々の参加があり、本事業を地域連携で取組んでいることを確認できたシンポジウムとなりました。

最初の学長挨拶では、学内保育所を来年度開設予定で進めていることが初めて報告され、学内外の参加者から深い関心が寄せられました。

大阪大学大学院国際公共政策研究科長の松繁寿和教授による、「労働力基盤の変化と日本経済復興のためのダイバーシティ」と題しての、労働経済学の視点からの講演では、少子高齢化社会の現状と問題点、我が国では女性の能力が未だに生かされていない現状と、その解決に向けた取組例について紹介されました。また、女性が社会で活躍することに対して、①女性が働くための環境整備にはコストがかかる、②女性が働くと出生率が低くなると言われていることに対して、現実には逆であるということ、幾つかの事例を挙げて、女性が働くことの社会にとっての意味を経済学の視点からわかりやすく話され、好評でした。

パネルディスカッションでは、「愛媛におけるダイバーシティとワーク・ライフ・バランス実現について」と題して、愛媛県と松山市の男女共同参画の取組みについての紹介、本学の文系教員と理系教員の自身の経験談などについての話題提供がありました。会場からは他大学関係者や行政機関はじめ、地域企業や地域団体からの意見も出て、幅広い情報交換と意見交換の場となりました。

愛媛大学 平成22年度 文部科学省 科学技術振興調整費 「女性研究者支援モデル育成」事業

### 第1回 愛媛大学 女性未来育成センター 公開シンポジウム

平成23年 3月11日(金) 13:30~16:00

愛媛大学 総合情報メディアセンターメディアホール (城北キャンパス)

主催：愛媛大学女性未来育成センター 後援：愛媛県・松山市

**プログラム**

13:30~13:35 開会挨拶 愛媛大学長 柳澤 康信

13:35~14:45 講演「労働力基盤の変化と日本経済復興のためのダイバーシティ」  
大阪大学大学院国際公共政策研究科長 松繁 寿和

14:45~16:00 パネルディスカッション  
「愛媛におけるダイバーシティとワーク・ライフ・バランスの実現について」

專業説明 愛媛大学女性未来育成センター長 小島 秀子  
コメンテーター 松繁 寿和 (大阪大学大学院国際公共政策研究科長)

**パネリスト**

山本 亜紀子 (愛媛県庁県民環境部男女参画課長)  
藤田 サチ子 (松山市男女共同参画推進センター館長)  
兼平 裕子 (愛媛大学文学部総合政策学科教授)  
松永 真由美 (愛媛大学大学院理工学研究科講師)  
小島 秀子 (愛媛大学女性未来育成センター長)

司会

入場無料 事前申込み不要 一般の方もご参加下さい

愛媛大学 女性未来育成センター

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番 城北キャンパス (教育学部4号館3階)  
TEL/FAX : 089-927-8602 (内線 : 8622)  
E-mail : hime@stu.ehime-u.ac.jp



松繁先生による講演



パネルディスカッション パネラーの皆様

## 【第2回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム】

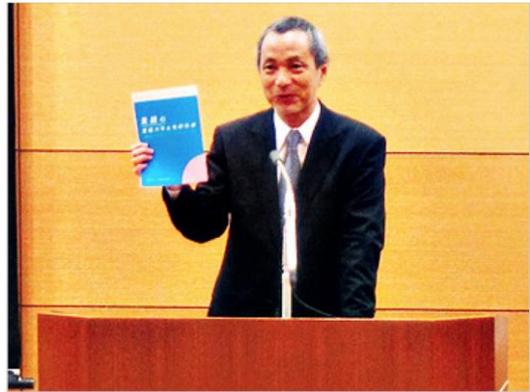
平成23年10月19日(水)、総合情報メディアセンター・メディアホールにおいて、第2回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウムを、「女性研究者の活躍促進—地域モデルを目指して—」をテーマとして、愛媛県と松山市の共催のもとに開催しました。理系にかなり特化したプログラムであった関係もあり、学内からの参加者は84人と多く、学外からは11人でしたが、様々な視点からの女性研究者の実情が報告され、今後の女性研究者支援を進めていく上での課題が提示されました。

学長の開会挨拶では、9月初めに保育所(えみかキッズ)が城北キャンパスに開設されたことが報告され、今後も継続的に教職員、学生の教育・研究と育児の両立支援に取り組む姿勢が示されました。また、女性未来育成センターが発行したロールモデル集を手にして、本学の女性研究者の活躍を広く知ってほしいと呼びかけました。

基調講演は、有賀早苗・北海道大学女性研究者支援室長により、「女性研究者の活躍促進のために大学ができること、すべきこと」と題して、女性研究者支援の豊富な経験に基づいた話をいただきました。本学と同じく北大では、人材育成の一環として女性研究者支援が行われていること、様々な負荷がかかりやすい女性研究者の抱える問題は、全研究者の諸問題が凝縮・顕在化していると捉え、「優秀な若手研究者・学生が集まる魅力的な研究・教育の場作り」を進めることで、女性が活躍しやすい環境を実現すべく、総合的な支援策を進めていることを話されました。また、北大で現在進めている文部科学省「女性研究者支援システム改革加速プログラム」では、着実に女性研究者が増加していることが報告されました。最後に、女性研究者支援の効果を本事業の短期間中に求めるのは無理で、大学として独自に長期間継続する覚悟が必要と述べられました。

小島秀子センター長は、センターが設立されてから実質的に1年経ち、今年度前期ではほぼ全てのプログラムが立ち上がったことを報告しました。

次いで、「女性研究者の実情と課題」をテーマにしたパネルディスカッションでは、まず、愛媛県産業技術研究所の鈴木貴明技術開発部長は、愛媛県では優秀な人材を公平に採用することで女性比率が伸びており、県庁職員、研究職員ともに約20%を女



柳澤学長による開会挨拶



有賀先生による講演



パネルディスカッションの様子

性が占めるようになったことが報告されました。理学部の土屋卓也先生は、本学で初めての男性の育児休暇取得について、堀利栄先生は、この夏に子連れで滞在されたスウェーデンでの子育て事情について、それぞれ体験談を話されました。工学部の八尋秀典先生は、工学部は女子学生、女性教員ともに非常に少ないことをデータを示して話し、工学部生き残りのために両方とも増やしていく必要があると述べられました。農学部の高山弘太郎先生は、学部の取組みと女性学生へのインタビューについて報告されました。杉浦美羽先生は、研究者の魅力とキャリアパスの例について話され、研究者には女性も男性もないと結論されました。このように非常に盛り沢山の内容でしたが、様々な視点から女性研究者の実情が浮き彫りになり、今後の女性研究者支援を進めていく上での課題がいくつも提示されました。最後の閉会挨拶で、曲田清維副学長は、地域のモデルとなるべく愛媛大学としての今後の抱負を述べ、閉会となりました。

愛媛大学 平成22年度 文部科学省 女性研究者研究活動支援事業  
(女性研究者支援モデル育成)

## 第2回愛媛大学女性未来育成センター 公開シンポジウム

女性研究者の活躍促進—地域のモデルを目指して—

日時 平成23年 10月19日(水) 13:00~16:00

場所 愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホール  
(城北キャンパス)

13:00~13:10  
開会挨拶 愛媛大学長 柳澤康信

13:10~14:10  
基調講演 有賀早苗 北海道大学女性研究者支援室長  
「女性研究者の活躍促進のために  
大学ができること、すべきこと」

14:10~14:40  
事業報告 小島秀子 愛媛大学女性未来育成センター長

14:40~16:00  
パネルディスカッション「女性研究者の実情と課題」

コーディネーター  
小島秀子 (愛媛大学女性未来育成センター長)

パネリスト  
鈴木貴明(愛媛県産業技術研究所 技術開発部長)  
土屋卓也(愛媛大学大学院理工学研究科 教授)  
八尋秀典(愛媛大学大学院理工学研究科 教授)  
高山弘太郎(愛媛大学農学部 講師)  
堀 利栄(愛媛大学大学院理工学研究科 准教授)  
杉浦美羽(愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター 准教授)

コメンテーター  
有賀早苗(北海道大学女性研究者支援室長)

閉会挨拶 愛媛大学副学長 曲田清維

入場無料  
参加申込み  
不要



主催: 愛媛大学 女性未来育成センター  
共催: 愛媛県、松山市

愛媛大学  
女性未来育成センター  
http://hime.adm.ehime-u.ac.jp

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番(城北キャンパス教育学部4号館3階)  
TEL・FAX: 089-927-8602 hime@stu.ehime-u.ac.jp

## 【愛媛大学女性未来育成センター・医学部ジョイントセミナー】

平成23年6月24日(金)、愛媛大学女性未来育成センター・医学部ジョイントセミナーを医学部総合教育棟第1ゼミナール室(重信地区)にて、医学部と共催で開催しました。本学の医学部と附属病院は、若手の女性研究者・女性医師の定着率が低く、上位職が育たない問題を抱えています。徳島大学でも同じ問題を抱えており、「女性研究者研究活動支援事業」の中で、その対策プログラムを実施していることから、当センターと医学部のジョイントセミナーを開催し、徳島大学AWAサポートセンター長の本仲純子先生に、「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」と題してご講演いただきました。また、女性未来育成センターで推進中の「愛媛大学女性研究者育成プラン」事業紹介、附属病院で実施中のマドンナサロンについても紹介も行き、医学部・附属病院での問題解決に向けての勉強会としました。

安川正貴医学系研究科長は、教授や運営委員会委員等の上位職に就く女性がほとんどいない状況であり、女性が働き続けることできる環境作りが重要であること、そして、その環境を整える組織作りが必要であると述べました。

これを受けて、医学部医学科と附属病院は、女性教員の定着率を上げ、上位職を増やしていく方針を打ち出し、医学部独自の女性研究者・女性医師支援組織(あいサポート)を立ち上げました。当センターはあいサポートと協力していくことになりました。

文部科学省 科学技術人材育成費補助金  
女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

参加者募集!!

### 愛媛大学女性未来育成センター・医学部 ジョイントセミナー開催

開催日時:平成23年6月24日(金)17時~19時  
開催場所:医学部総合教育棟 第1ゼミナール室(重信地区)  
主 催:愛媛大学女性未来育成センター  
共 催:愛媛大学医学部

プログラム

司会	江口真理子	愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻 准教授 女性未来育成センター 兼務センター員
17:00~17:10	開会挨拶	愛媛大学大学院医学系研究科長 安川 正貴
17:10~18:00	講演	「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」 徳島大学AWAサポートセンター長 本仲 純子
18:00~18:15	事業紹介	「愛媛大学女性研究者育成プラン」 愛媛大学女性未来育成センター長 小島 秀子
18:15~18:25	マドンナサロン紹介	愛媛大学附属病院特任講師 藤山 幹子
18:25~19:00	クエスチョンタイム	閉 会

お問い合わせ  
愛媛大学 女性未来育成センター  
城北キャンパス(教育学部4号館3階)  
TEL/FAX: 089-927-8602 (内線: 8622) E-mail: hime@stu.hime-u.ac.jp



開会挨拶をする安川研究科長



AWAサポートセンター長本仲純子先生

## 【第2回四国女性研究者フォーラム】

平成24年1月27日(金)、南加記念ホールにおいて、第2回四国女性研究者フォーラムを開催しました。本フォーラムは、四国全体で女性研究者の育成を進めようと、未来を担う「若手の活躍促進」をテーマに、「四国のマリー・キュリーを育てよう」をキャッチフレーズとして開催しました。共催は、香川大学、徳島大学、鳴門教育大学、高知大学、後援は、愛媛県、松山市、男女共同参画学協会連絡会から受けました。参加者は学内外合わせて200人を超え、盛会となりました。

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」(女性研究者支援モデル育成)

# 第2回 四国女性研究者 フォーラム

「若手の活躍促進」  
～四国のマリー・キュリーを育てよう～

**日時** 平成24年1月27日(金)13:30～16:30

**場所** 愛媛大学南加記念ホール(城北キャンパス)

**主催** 国立大学法人愛媛大学

**共催** 香川大学、徳島大学、  
鳴門教育大学、高知大学

**後援** 愛媛県、松山市、  
男女共同参画学協会連絡会

## ●イベント(愛媛大学校友会館 2階サロン)

- ◆ 11:30～ ランチ交流会受付開始
- ◆ 12:00～13:00 ランチ交流会  
ポスターセッション ※フォーラム終了後、17:30までご覧いただけます。

## ●プログラム

- ◆ 13:00～ フォーラム受付開始
- 総合司会 愛媛大学女性未来育成センター長 小島 秀子
- ◆ 13:30～13:45 **開会挨拶** 愛媛大学長 柳澤 康信
- 来賓挨拶** 前愛媛県知事 加戸 守行 氏
- ◆ 13:45～14:25 **基調講演** 「女性研究者の活躍に向けて」  
文部科学省高等教育局長 板東 久美子 氏
- ◆ 14:25～14:55 **特別講演** 「世界化学年と女性研究者」  
神戸大学特別顧問 相馬 芳枝 氏  
(世界化学年・女性化学賞受賞)
- ◆ 14:55～15:05 休憩
- ◆ 15:05～16:20 **パネルディスカッション**  
**「若手研究者が輝く大学とは」**  
□ **パネリスト**  
香川大学 西本 佳代(教育・学生支援機構 特命助教)  
徳島大学 真田 純子(大学院ソシオテクノサイエンス研究部 助教)  
鳴門教育大学 梶井 一暁(大学院学校教育研究科 准教授)  
高知大学 島村 智子(教育研究部 准教授)  
愛媛大学 濱村奈津子(沿岸環境科学研究センターグローバルCOE 准教授)
- **コメンテーター**  
文部科学省高等教育局長 板東 久美子 氏
- **コーディネーター**  
愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター 教授 土屋 卓久
- ◆ 16:20～16:30 **次回開催大学より挨拶**  
**閉会挨拶** 愛媛大学副学長 曲田 清維

フォーラムに先立ち、プレイベントとして、ポスターセッションとランチ交流会を校友会館において開催しました。ポスター発表は、地元や全国の採択大学から約30件もの参加があり、互いに情報交換が行われました。ランチ交流会も50人を超える参加者があり、立食形式で打ち解けた雰囲気の中、気軽に意見交換・情報交換が行われ、ネットワーク作りの場となりました。



ポスターセッションの様子



ランチ交流会の様子

フォーラムは午後1時半から南加記念ホールで始まり、柳澤康信学長は開会挨拶で、四国は女性研究者支援の空白地帯と言われていたが、平成22年度に四国の3大学が文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」に採択されたのを機に、四国地域全体で女性研究者の育成を進めようと、昨年、第1回目のフォーラムが香川大学主催で開催され、毎年持ち回りで開催することになった経緯について触れました。また、本学では女性研究者が活躍できるように育児等の環境整備を着々と進めていることを話しました。

続いて、前愛媛県知事の加戸守行氏による来賓挨拶では、絶妙な語り口で心温まるご祝辞をいただき、会場は一気に和やかな雰囲気に変わりました。



開会挨拶 柳澤康信学長



来賓挨拶 前愛媛県知事 加戸守行氏

板東久美子・文部科学省高等教育局長による、「女性研究者の活躍に向けて」と題しての基調講演では、男女共同参画の理念と必要性、我が国の不十分な男女共同参画の現状と課題、また、女性研究者活躍のための施策について、データに基づいて説得力ある語り口で話されました。講演の最後に板東局長から、「多様な人材育成や知的創造の中核であり、強い社会的使命を持ち、グローバルな視点が重要である大学こそ男女共同参画の推進を」という力強いメッセージがありました。

世界化学年・女性化学賞を受賞された相馬良枝・神戸大学特別顧問による、「世界化学年と女性研究者」と題した特別講演では、プエルトリコでの受賞式の様子、研究者としての経験と女性研究者支援について力を込めて話され、参加者に感動を与えました。



基調講演 文部科学省高等教育局長 板東久美子氏



特別講演 神戸大学特別顧問 相馬芳枝氏

次いでパネルディスカッションでは、「若手研究者が輝く大学とは」をテーマに、四国内国立5大学の、30代の専門分野の異なる男女5人の若手研究者がパネリストとして登場しました。最初にパネリスト5人が、研究者としてのこれまでの歩みと、これから研究者として成長していくために大学に対して望むことについて発表した後、研究、教育、育児などについてパネリストや会場の参加者と議論を交わしました。締めくくりとして、コメンテーターの板東局長は、自らの子育ての経験についてありのまま話され、会場の共感を呼びました。時間の関係上、質疑応答の時間は十分取れませんでした。若手研究者が頑張っていることを十分アピールできたパネルディスカッションとなりました。

なお、本フォーラム報告書を冊子として発行しました。



パネルディスカッションの様子



会場の様子

## 2-4. 地域連携

本事業を推進するにあたり、学内のみならず愛媛県地域と協力・連携して取組む計画を当初から立てていました。この1年半でほとんどのプログラムを立ち上げることができ、最終年度となる平成24年度は、「地域連携」を重点項目の1つとして取組む予定です。実際の地域連携の取組み方については思案を重ねてきましたが、三重大学が地域連携をテーマに推進した事業がモデルケースとして参考になると思われました。このため本年度は、男女共同参画の視点に立った地域連携についての勉強会として、社会連携推進機構とのジョイントセミナーを開催しました。

### 【愛媛大学女性未来育成センター・社会連携推進機構ジョイントセミナー】

平成24年3月1日、校友会館サロンにおいて、社会連携推進機構とのジョイントセミナーを「男女共同参画推進による地域活性化を目指して」をテーマに開催し、愛媛県、松山市及び市内の私立大学等の関係者15人を含む40人の参加がありました。開会挨拶で、小島センター長は、事業最終年度となる平成24年度は男女共同参画の視点に立った地域連携を重点項目として取組む予定であり、三重大学の成功例についての勉強会としてこのセミナーを開催したことを述べました。

講演は、三重大学男女共同参画コーディネーター・客員教授の鈴山雅子先生より、「地域の活性化と男女共同参画の推進」と題してお話いただきました。鈴山先生の豊富な実践経験に裏打ちされた講演の後、質疑応答があり、大学の男女共同参画への姿勢が地域の活性化につながることで、大学内で地域を呼び込むだけでなく、大学から地域に出向く双方向の交流が大切であることなどが、参加者との間で活発に討論されました。男女共同参画の推進において、これからは大学と地域自治体等の連携が重要であることが認識され、意義深いセミナーとなりました。

文部科学省 科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業

## 男女共同参画推進による 地域活性化を目指して

愛媛大学女性未来育成センター・社会連携推進機構  
ジョイントセミナー開催

日時:平成24年3月1日(木)15:00~16:30  
場所:愛媛大学校友会館2階サロン(城北地区)  
主催:愛媛大学女性未来育成センター  
共催:愛媛大学社会連携推進機構  
後援:愛媛県、松山市

幹部教職員、関係教職員、学外関係者の皆さまご参加ください

 講演「地域活性化と男女共同参画」  
三重大学  
男女共同参画コーディネーター  
客員教授  
鈴山雅子氏

プログラム

15:00~15:10 開会挨拶・趣旨説明  
女性未来育成センター長 小島秀子

15:10~16:00 講演「地域活性化と男女共同参画」  
三重大学男女共同参画コーディネーター 鈴山雅子氏

16:00~16:25 質疑・討論

16:25~16:30 閉会挨拶 社会連携推進機構副機構長 土居修身

愛媛大学 〒790-8577  
女性未来育成センター 愛媛県松山市文京町3番(城北キャンパス教育学部4号館3階)  
TEL・FAX:089-927-8602 hime@stu.ehime-u.ac.jp http://hime.adm.ehime-u.ac.jp



鈴山雅子先生による講演



セミナー会場の様子

### 3. 次世代育成支援

#### 3-1. 女子学生へのキャリアパス支援

##### 3-1-1. 女子学生のキャリアパスセミナー・交流会開催

###### 【学生・若手研究者キャリアパスセミナー】

平成22年12月22日(水)、学生・若手研究者キャリアパスセミナーを「100人の女性、100通りのキャリアパス・・・女性活躍のためのステージについて一緒に考えませんか?」をキャッチフレーズに、樽味、城北両キャンパスにおいて開催しました。年末の忙しい時期にもかかわらず、学生や若手教員を中心にそれぞれ30人近くの参加がありました。樽味キャンパス(農学部)では女子学生の参加が多く、城北キャンパスでは理工系男子学生の参加が多くありました。

講演では、京都大学女性研究者支援センター・特任教授の犬塚典子先生より、「女子力が創るイノベーション」のタイトルでお話いただきました。国際社会において女性活躍が遅れている日本の現状を指摘され、男女共同参画における日本の政策の歩みをご自身のキャリアを交えて紹介いただきました。また、これまで携わった九州大学と京都大学での女性研究者支援モデル育成事業について、女性のキャリアパス支援方法や推進体制の事例を話され、参加者からは女性限定公募や研究支援員制度等について様々な質問が寄せられました。

最後にクエスチョンタイムが設けられ、女性研究者がキャリアを継続するために自身に何か必要か、どのような環境であればキャリアが継続できるか、また博士の学位を取得して研究者になって良かったと思うこと等についての質問に、犬塚先生は事例や経験を交えて答えられ、意見交換が行われました。キャリア継続には自身の努力が重要なのは当然であるが、人とのネットワークが活躍の場を広げ、周囲の理解や支えがあったから継続できたという意見に参加者の多くが賛同していました。

どうする?  
どうなる?  
私の未来

## 学生・若手研究者 キャリアパスセミナー

100人の女性、100通りのキャリアパス・・・  
女性活躍のためのステージについて、一緒に考えませんか?

**平成22年12月22日(水)**

時間：10:30~12:00  
場所：樽味キャンパス内 多目的ホール(本館3階中棟)  
対象：愛媛大学 学部学生・大学院生・博士研究員・教員  
(男性の方もご参加ください)

主催：愛媛大学女性未来育成センター

**プログラム**

10:30~10:35  
学部長挨拶 愛媛大学農学部長 林 和男

10:35~10:45  
事業紹介 愛媛大学女性未来育成センター長 小島 秀子

10:45~11:30  
講演「女子力が創るイノベーション」  
京都大学女性研究者支援センター 特任教授 犬塚 典子

11:30~12:00  
クエスチョンタイム  
武山 絵美(農学部地域環境工学コース准教授)  
高山 弘太郎(農学部施設生産システム学コース講師)

お問い合わせ  
愛媛大学  
女性未来育成センター

松山市文京町3番  
城北キャンパス(教育学部4号館3階)  
E-mail: hime@stu.ehime-u.ac.jp  
TEL/FAX: 089-927-8602 (内線: 8622)



質問に答える犬塚先生



樽味キャンパスにてセミナー風景

## 【学部企画のセミナー・交流会】

学部ごとに学生の教育・研究の環境が異なるため、きめ細かく対応するために、また学生に本事業をもっと身近に感じていただき、裾野を広げるために、平成 23 年後期から学部企画のセミナーや交流会を開催していくことになりました。企画は、各学部の兼務センター員が行いました。

理学部企画として、平成 23 年 12 月 22 日（木）、「女子の生き方応援セミナー」を開催しました。第 1 部は、理学部の女性教員 2 人がそれぞれ、「研究職にはどんなカタチがあるの？男女で有利不利があるの？」、「企業の開発現場を経験して思うこと」と題してスピーチし、話題提供を行いました。第 2 部では、みんなでココロのうちはき出そう！の座談会を行い、自由に話を楽しみました。また、将来の進路についての相談もありました。

農学部企画として、平成 24 年 1 月 18 日（水）の 12 時から 13 時まで、樽味キャンパスの農学部集会室において、「キャリア形成を考えるランチ会」を開催しました。男女の学生・教員合わせて約 40 人集まり、立食形式の昼食をとりながら、気軽に楽しく話しをし、さまざまな意見交換・交流を行いました。

### 「女子の生き方応援セミナー」のお知らせ

男子もだけれど、女子の生き方には選択肢が色々あって、大学を卒業してからどうやって生きていこうか迷うもの。理科が好きで理学部で 4 年間勉強して卒業研究もすごく頑張った、更には大学院にも進んで毎日遅くまで研究。できればそれを生かせる仕事に就きたい・・・とは思っている。結婚したら、子供ができたら仕事を続けられるのかどうか不安。それに、結婚しなかったら自立する以外に生きていく道がない！でも、男子だってこの不景気の中、妻を養うなんてなかなか言えない。協力しあって生きていかなきゃ。そのためには、男子も女子の大変なことや色んな制度を知って、何をできるか知っておかなきゃね。

男女雇用機会均等法が施行されてから 25 年。男女で協力しあって社会に貢献できるシステムができあがっています。育児休暇制度、介護休暇制度などなど。そう、自分の思い描く人生を切り拓ける社会基盤はできているのだから、自分のしたいように色んなシステムを使って悔いの無い人生を設計しませんか？

このセミナーは、みんなが幸せに生きられるように、研究に関わる仕事に就くにはどうしたらいいか、プライベートと仕事を両立するにはどんな制度を利用できるのかなど、色んな生き方をしてきた女性の先生が苦労したことや良かったことを交えて話します。その後は、自由に話せる座談会をしますので、将来や進路について不安な人、迷っている人、興味のある人は、男女問わず、是非参加してくださいね。私たちはみんなを応援しています！

日時：2011 年 12 月 22 日（木） 16:15～（理学部就職ガイダンスの後）  
場所：共通教育講義棟 講 11 番教室  
対象：学部、学科、学年、性別問わず誰でも

プログラム：  
はじめに

16:15 - 16:20 小島 秀子（女性未来育成センター長）

第 1 部 女子の生き方応援セミナー

16:20 - 16:40 「研究職にはどんなカタチがあるの？男女で有利不利があるの？」  
杉浦 美羽（化学科/無細胞生命科学工学研究センター）

16:40 - 17:00 「企業の開発現場を経験して思うこと」  
佐藤 久子（化学科）

第 2 部 座談会：みんなでココロのうちはき出そう！

17:00 - 17:50 対面スタイルでの座談会。お茶でも飲みながら、ざっくばらんに話しましょう。

①企業での研究職とはどんな仕事？女子は不利？ ②大学院へ進学 or 就職？ ③結婚したら、出産したら、仕事は辞める？ ④パートナーには何ができる？ などなど。

主催 愛媛大学 女性未来育成センター  
（理学部兼務センター員：佐藤久子、堀利久、杉浦美羽）

【日時】  
1月18日(水)  
12～13時

【場所】  
農学部 集会室  
(生協2F)

【参加費】  
無料  
※後援会からの援助により  
参加費は無料です

【問合せ先】  
柿原文香 [089-946-9856]  
高山弘太郎 [089-946-9821]

## キャリア形成を 考えるランチ会

主催：愛媛大学女性未来育成センター

学生のみなさん！

立食形式のランチをとりながら農  
学部の教員・職員とキャリア形成  
についてお話ししましょう

※男女問わずご参加ください

After your  
graduation...



### 3-1-2. 学生への男女共同参画講義

大学は、男女共同参画意識を持った学生を育て、社会に送り出す責任があるため、全学の学生に対して、男女共同参画に関する基本的な講義を受講させることを当初から計画していました。実施可能な方策について、関係する先生方と話し合いを持つなど、検討を進めているところです。

### 3-1-3. 全世代育成システム「えみかキャリアサイクル」の構築

学生の支援への参加は、研究支援制度の支援員、学童保育のイベントボランティア、女子中高生の理工系進路選択支援事業での講演、研究室見学、交流会、オープンキャンパスの理系女子コーナーなど、単発的には行われていますが、継続的な参加の仕組み作りはこれから進める予定です。

### 3-2. 女子中高生への理系進路選択支援

#### 3-2-1. 女子中高生への理工系進路選択支援イベント開催

愛媛県男女参画課が、平成21年と22年に実施した「女子高校生の理工系チャレンジ支援事業」を引き継ぎ、平成23年度に女子中高生への理工系進路選択支援イベントを実施しました。工学系コース（10月1日（土））と理学系コース（10月29日（土））の2回実施しました。参加者募集は愛媛県教育委員会を通じて行いました。

工学系コース（10月1日（土））：女子中高生24人、保護者3人、教員2人 計29人  
理学系コース（10月29日（土））：女子中高生44人、保護者10人、教員1人 計55人

両コースともに、女子学生や卒業生の講演と、女子院生との交流会が好評でした。特に、工学系コースで実施された研究室見学ツアーについては、ほとんどの参加者が高い満足度を示し、保護者からこれまで工学部に抱いていたイメージが変わったとの意見をいただきました。参加者は、パンフレットやホームページでは得られない知識や、体験学習を楽しみにしていることがわかりました。

聞いて話して体感してみよう！  
そうだったのか理系女子への道

## 平成23年度愛媛大学 女子中高生の 理工系進路選択支援事業

中学3年生から  
高校3年生まで  
参加者  
募集

工学系コース 平成23年10月1日（土）  
理学系コース 平成23年10月29日（土）  
両日とも10:00～10:30（受付）、17:00（解散予定）

**募集人数** 各コース  
女子中高生50人  
(保護者同伴・中学高校教員引率歓迎)  
最大総定員90人まで

**参加費** 無料(交通費は参加者負担)

### プログラム

大学生が紹介する「私の理工系女子選択」  
卒業生が紹介する「理工系女子の働き方」  
企業の女性研究者が語る「自分の活かし方」  
研究室訪問と施設見学

午後  
理工系女子大学生・大学院生との交流会（女子中高生対象）  
理工系学部の就職・大学院進学状況（保護者対象）  
理工系学部の最新研究紹介（中学高校教員対象）

**参加申込書を学校に提出してください**

**受付期間 6月10日（金）～6月27日（月）**  
FAX:089-927-8602  
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番 女性未来育成センター

主催：愛媛大学 女性未来育成センター  
後援：愛媛県、愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会

お問い合わせ：〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番 女性未来育成センター TEL/FAX:089-927-8602  
E-mail:hime@stu.ehime-u.ac.jp URL:http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/

## 工学系コース（10月1日（土））プログラム

### 午前の部 10:30~12:00（講演）

10:30~10:40 開講式

10:40~11:00 大学生が紹介する「私の理工系女子選択」

愛媛大学理工学研究科博士前期課程生産環境工学専攻1回生

講師：渡部 桂子

11:00~11:20 卒業生が紹介する「理工系女子の働き方」

愛媛大学理工学研究科博士前期課程生産環境工学専攻 平成20年3月修了

日立GEニュークリア・エナジー(株) 勤務

講師：松岡 ちひろ

11:20~12:00 企業の女性研究者が語る「自分の活かし方」～仕事紹介～

東レ株式会社 複合材料研究所

講師：成松 香織

12:00~13:00 昼食（生協食堂が利用できます）

### 午後の部 13:00~17:00

13:00~14:00 講演「東日本大震災の実態と今後に必要な科学と社会技術」

愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻

講師：森脇 亮 准教授

グループに分かれて行動します。

14:10~16:10 工学部研究室見学ツアー 会場：工学部6学科各1研究室（計6研究室）

機械工学科：液中プラズマによるダイヤモンドの形成実験

環境建設工学科：熱・水・力・化学相互作用場の岩盤の研究

機能材料工学科：透過型電子顕微鏡で見る物質の世界

応用化学科：金属のような性質をもつ有機分子材料に関する研究

電気電子工学科：太陽電池の仕組みと太陽電池を使った簡単な工作

情報工学科：画像処理・バーチャルリアリティ

対象者別に分かれて行います。

16:20~17:00 【女子中高生】 工学部女子大学生・大学院生との交流会

【保護者】 工学部の就職・大学院進学状況説明会

【中学高校教員】 工学部の最新研究紹介

## 理学系コース（10月29日（土））プログラム

午前の部 10:30~12:00（講演）

10:30~10:40 開講式

10:40~11:00 大学生が紹介する「私の理工系女子選択」

愛媛大学理学部地球科学科3回生

講師：山口 桐奈

11:00~11:20 卒業生が紹介する「理工系女子の働き方」

愛媛大学理工学研究科生物地球圏科学専攻 平成19年3月修了

三浦工業株式会社 RDセンター生活科学研究室 勤務

講師：巻田 優花

11:20~12:00 企業の女性研究者が語る「自分の活かし方」

パナソニックヘルスケア株式会社

講師：吉岡 永吏子、水岡 直子

12:00~13:00 昼食（生協食堂が利用できます）

午後の部 13:00~17:00

13:00~14:00 愛媛大学ミュージアム見学

参加者全て対象のプログラムです。

14:15~16:00 理学部紹介

数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科の学科長による学科紹介

対象者別に分かれて行います。

16:10~17:00 【女子中高生】女子大学院生との交流会

【保護者】【中学高校教員】理工系学部の就職・大学院進学状況説明会

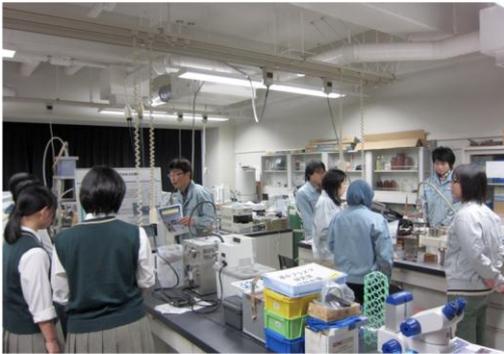
## 女子中高生の理工系進路選択支援イベント

### 実施後アンケート（女子中高生）

- ★とても楽しかったです。初めて見る道具がいっぱいあって、すごすぎました。もっと色々な話を聞いてみたかったです。
- ★大学生、卒業生の話もだったけど、企業の女性研究者のお話がとても良かったです。研究室訪問や施設見学をもっとしてみたい。
- ★難しかったけど、楽しかった。
- ★今回自分の進路について考えるいい機会になったと思います。
- ★時間配分をちゃんとしてほしい。理系科目が得意だから理系に進んだが、理系科目が好きになれません。
- ★もっと実験の観察や体験をしたかった。
- ★交流会が役に立った。パンフレットやホームページに載っていない事を知ることができた。施設見学の時間がもう少しほしい。
- ★大学院生との交流で色々な話を聞けたのでためになった。

### 実施後アンケート（保護者）

- ★世界的にもよく知られた有名な最先端技術が、松山の地で開発・応用されていることに驚いた。また、このことをこれまで全く知らなかったことにも驚かされた。
- ★娘が理系にゆきたいと先生に相談すると、農学部を薦められるのはなぜか？
- ★女子は結婚・出産を機に退職させられることがこれまではよくあったが、今はどうなのか？ また、これからはどうなるのか？
- ★想像以上に女性支援に力を入れていることが分かった。自分が理系に対する理解が育児を通して初めて学んだのですが、社会変化と共に女性の進出が目覚ましいものであると改めて感じました。
- ★資料をただ読んでいくだけで、大学生が受けているような風景が写真でもほしかった。もう少し現実的なものが見たかった。



### 3-2-2. オープンキャンパス理系女子コーナー参加

平成 23 年 8 月 8 日～9 日、オープンキャンパスに参加し、女子中高生の理工系進学を応援する活動の紹介や、現役の理工系分野の女子学生と話す、「理系女性チャレンジ！！」コーナーを設けました。愛媛県内外の女子中高生や保護者が訪れ、受験科目の勉強法や志望学科の授業内容などについて多くの質問が寄せられ、女子学生が質問に答えました。



#### 4. 女性教員増員

平成 22 年 5 月 1 日現在、愛媛大学の専任教員 846 人に対して、女性教員比率は 11.8% (100 人) と低く、理系学部に限ると、理学部・工学部・農学部合わせた教員 270 人に対して、女性教員はわずか 4.8% (13 人) の極端に低い比率にとどまっています。これに対して、学部生は 4 割、大学院生はほぼ 4 分の 1 を女性が占めています。

教員の女性割合は、職階が上位になるに連れて低くなっており、教育研究評議会 (32 人) には女性の評議員が 1 人いるのみで、管理・運営に携わる女性教員はほとんどいない状況となっています。

全学の女性教員比率は漸増傾向にあるものの、平成 16 年 (10.8%) から 23 年 (11.6%) の 7 年間でわずか 1% 増加したにすぎません (図 4.1)。毎年平均 66 人の教員が新規採用されており、そのうち女性教員は 12 人 (採用女性割合 19%) です (図 4.2)。すなわち、全学レベルでは新規採用教員 5 人のうち 1 人は女性となっています。一方、理工農系学部については、この 7 年間に採用された教員総数 96 人中、女性はわずか 4 人 (採用女性割合 4%) しかいません (図 4.3)。

とくに、工学部は深刻で、女子学部生は 1 割に満たず、女性教員もわずか 2.3% (3 人) しかいない状況です。さらに、工学部はこの 10 年間、新規採用の女性教員はゼロという厳しい現実があります。また、農学部の女子学部生は 5 割近を占めるにも拘わらず、女性教員は 6.1% (5 人) と一桁低い比率となっています。医学部医学科と附属病院も、若手の女性研究者と女性医師の定着率が低く、上位職が育たない問題を抱えています。

本学は、地域に立脚する大学として知的創造の中核的役割を担っており、多様な人材を必要としています。女子学生にとって身近なロールモデルとなる女性教員を増やすことは、女子学生の拡充と女性研究者数の増加につながります。女性教員の比率拡大は、愛媛大学の生き残りのための最重要課題です。

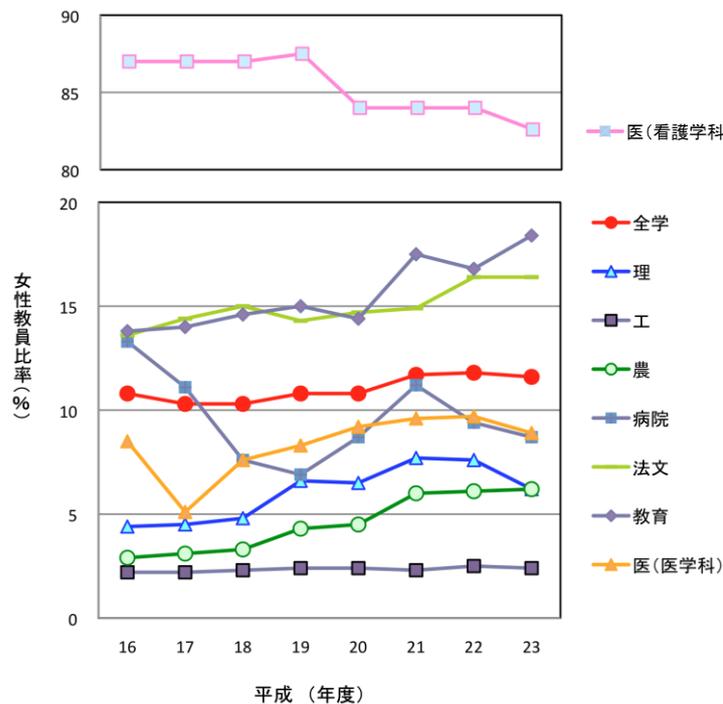


図 4.1 全学と学部別の女性教員比率の経年変化

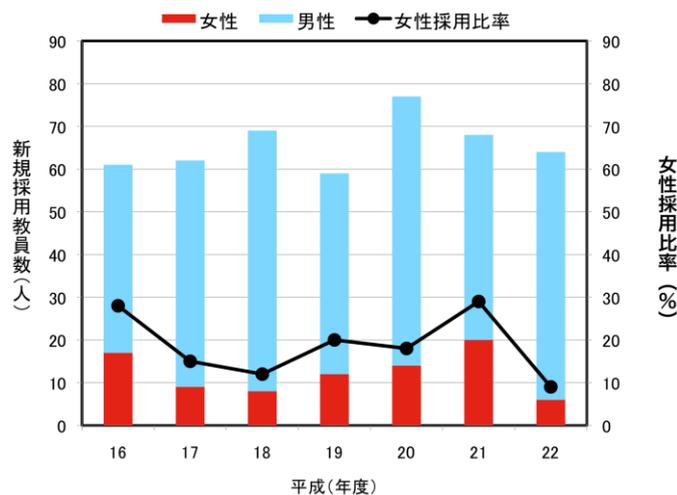


図 4.2 全学の新規採用教員数と女性採用比率

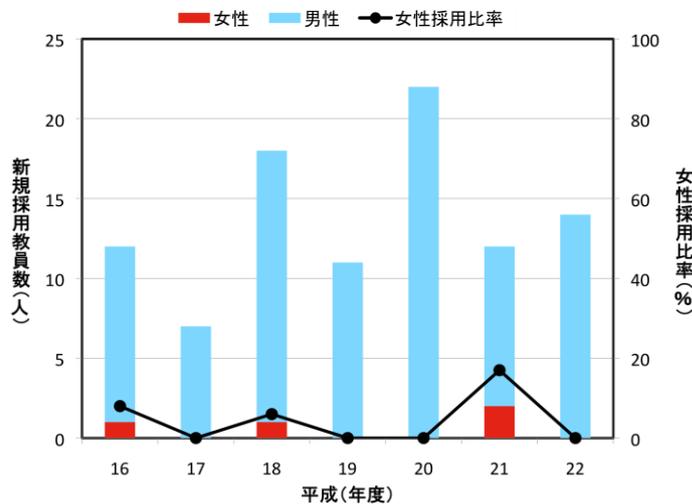


図 4.3 理工農系学部の新規採用教員数と女性採用比率

#### 4-1. 女性教員増員の具体策

最重要課題である「女性教員増員」は、具体策として、2020年までの数値目標を設定し、「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」を実施して積極的に進めています。

##### (1) 女性教員の比率拡大の数値目標設定

①全学の専任女性教員を2020年までに現在の12%から20%に引き上げる。当面の目標として、3年以内に14%以上に増加させる。

②理工農系部局の専任女性教員の比率を2020年までに現在の5%から15%に引き上げる。当面の目標として、3年以内に8%以上に増加させる。

##### (2) 「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」実施による女性教員の採用促進

数値目標を達成するための積極的措置として、専任女性教員を採用した場合、助教人件費の2分の1分を、全学経費から当該学科に支給する。ただし、前任者が男性教員のポスト、あるいは新規ポストに女性教員を採用した場合に限る。支給期間は1年限りとする。

#### 4-2. 経過と実績

平成 22 年度は、女性教員増員の数値目標と愛大式ポジティブアクションについて、部局長との面談、意識啓発セミナー開催、ホームページ、ニューズレターなどの広報誌により全学周知に努めました。また、平成 23 年 1 月には第 1 回管理職セミナーを開催し、九州大学研究戦略企画室准教授の上瀧恵里子先生より、「女性が活躍できる大学を目指して一九大方式女性教員採用・養成システム」と題して、全国に先駆けて実施している女性限定公募の仕組みや、採用後の女性教員の成果とその効果について、データや実例を挙げて詳細にお話いただき、幹部教職員に対して、女性限定公募は女性教員増員に不可欠であるとの認識を促しました。

平成 22 年度は、全学の新規採用教員数を 64 人のうちで、女性の採用は 6 人(女性採用比率 9.4%)と例年よりも少なく(図 4.2)、女性比率は、21 年度の 11.8%から変化しませんでした。理工農系学部については、平成 22 年度の新規採用の女性教員はゼロであり、逆に、理学部の准教授 1 人が退職したため、理工農合わせた女性教員は、13 人から 12 人に減少しました。ただし、これまで理系の女性教授は工学部に 1 人居るのみでしたが、平成 22 年度に理学部の女性准教授が教授に昇進し、理系の女性教授は 2 人に増えました。

教員人事は各部局で行われるため、数値目標を設定しても実際に目標を達成することは容易ではありません。このため学長は、平成 23 年 6 月開催の教育研究評議会において、「愛媛大学女性教員の積極的増員に関する趣意書」を提出し、各部局長に女性教員の積極的採用を促しました。

平成 23 年度は、まだ数値には表れていませんが、変化の兆しは現れてきており、工学部では今年度、本学で初めての女性限定公募を行い、平成 24 年度には女性教員 1 人が着任することになりました。農学部でも女性教員の昇進と新規採用の方向で検討を始めています。また、医学部医学科と附属病院は、女性教員の定着率を上げ、上位職を増やしていく方針を今年度から打ち出し、医学部独自の女性研究者支援組織(あいサポート)を立ち上げるなど、女性教員増員に向けての部局ごとの対応が始まっています。

「愛大式ポジティブアクション 1 プラス 0.5」については、平成 22 年 10 月から 23 年 9 月までに新規採用された女性教員に対する各部局からの申請を経て、2 人の新任女性教員に適用されました。

## 5. 情報発信

### 5-1. ホームページ

愛媛大学女性未来育成センターのホームページを平成 23 年 2 月 23 日に開設しました。愛媛大学ホームページのトップページにバナーを貼り、多くの方にアクセスしていただけるようにしています。ホームページでは、センターでの取り組み内容、活動報告、各種イベントなどの情報の発信に努めています。ホームページの色彩は、明るいブルーとピンクに限定し、イメージの統一を図っています。



### 5-2. リーフレット、ニュースレター、メールマガジン等

#### 【リーフレット】

女性未来育成センターの役割と活動を紹介するリーフレットを平成 23 年 3 月に作成しました。全教職員へ配布するとともに、研究室所属の学生、大学院生には指導教員を通じて配布しました。新入生にはガイダンスで全員に配布しました。また、学生支援センター、ミュージアムなどの学内施設に置かせていただくとともに、セミナー等の各種行事の際にも配布しています。

#### 【ニュースレター】

ニュースレター創刊号を平成 23 年 2 月に発行し、6 号まで発行しました。セミナー、イベントなどの報告記事を中心に掲載しています。学内の各部局、全国の採択大学に配布しています。

リーフレット、ニュースレターの PDF 版は、ホームページからダウンロード可能としています。

# 【リーフレット】



## 〈センター長あいさつ〉 Message

### 女性のみなさま 表舞台で活躍しましょう。

このたび愛媛大学は、平成22年度文部科学省「女性研究者支援モデル育成」事業の採択を受け、女性未来育成センターが開設されたことを大変嬉しく思います。本学の女子学生比率は40%と低くないのに対して、女性教員は12%の非常に低い比率にとどまっています。この事業は女性にターゲットをあてた人材育成であり、本センターを中心として、女性研究者活躍のための環境整備、次世代育成、女性教員増員に一体的に取り組む、優れた女性研究者を積極的に育成する基盤を作ります。

当センターは3年間の事業終了後も運営し、時代に合わせた愛媛大学へと変革するために活動を続けます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

#### 女性未来育成センター長

小島 秀子 Hidako Koshima



センター前にて、柳澤学長と小島センター長

## センター員名簿

センター長	小島 秀子	女性未来育成センター 大学院理工学研究科物質生命工学専攻	教授
スタッフ	前野 豊美	女性未来育成センター	助教(特任助教)
	塚野 久美	女性未来育成センター	助教(特任助教)
	藤原 三紀	女性未来育成センター	技術補佐員
業務センター員	山本 穂香	女性未来育成センター	技術補佐員
	兼平 裕子	法文学部総合政策学科	教授
	井上 彰	法文学部人文学科	准教授
	川崎 久美子	教育学部社会科教育地理学	准教授
	兼 穂子	大学院医学系研究科看護学専攻	教授
	佐藤 久子	大学院理工学研究科環境情報科学専攻	教授
	堀 利実	大学院理工学研究科物理工学専攻	准教授
	松本 真由美	大学院理工学研究科電子情報工学専攻	講師
	高 尚	大学院理工学研究科生産環境工学専攻	講師
	結城 文恵	農学部生物資源学科	准教授
	高山 太太郎	農学部生物資源学科	講師
	野本 ひさ	教育学部学生支援機構 学生支援センター	教授
杉浦 美羽	農獣生命科学工学研究センター	准教授	



### 国立大学法人 愛媛大学 女性未来育成センター

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番  
(愛媛大学城北地区教育学部4号館3階) Tel/Fax:089-927-8602  
E-mail:hime@stu.ehime-u.ac.jp  
http://hime.adm.ehime-u.ac.jp

ひめセンターとよんでください。

## 愛媛大学 女性未来育成センター

未来をひらくのは  
あなたです  
表舞台で輝いて  
活躍しましょう

平成22年度 文部科学省 女性研究者研究活動支援事業  
(女性研究者支援モデル育成)

## 女性未来育成センター (ひめセンター)の役割

持続的に女性研究者を育成する  
仕組みを作るため、全世代に対応した  
プログラムを一体的に実施します。

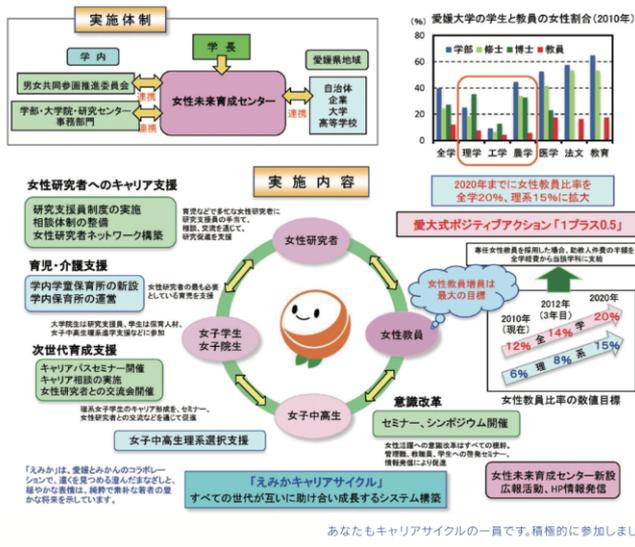
女性研究者活躍のための環境整備として、育児中も女性研究者が研究を続けることができるように、研究支援員制度・長期休暇中の学内学童保育などの実施と、意識改革のためのセミナーなどのイベントも行います。さらに、次世代育成のために、女子学生へのキャリアパス支援、女子中高生の理系進路選択支援も行います。本事業の最大の目標である女性教員の比率拡大は、2020年までの数値目標を20%と設定し、「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」を実施して積極的に進める予定です。

### 女性研究者活躍のための環境整備

- ◆女性研究者ネットワークの構築
- ◆育児・介護で多忙な女性研究者への研究支援員制度の実施
- ◆相談体制の整備
- ◆長期休暇中の学内学童保育の実施
- ◆ダイバーシティ(多様性)やワーク・ライフ・バランス等に関する意識改革

### 次世代育成

- ◆女子学生へのキャリアパス支援  
「5年後の私って？」将来の仕事を考えはじめた女子学生のみなさんに、女性の研究者や院生との交流の場を作ります。セミナーなどで先輩たちに不安や疑問をぶつけて、具体的なイメージ作りの参考にしてください。
- ◆女子中高生への理系進路選択支援  
「自分は理系？文系？」そんな風に迷っている女子中高生の皆さんを対象に、進路選択のきっかけになるイベントを行います。理系の分野で働く地元企業の方との交流会や職場見学も行う予定なので、将来の仕事を考えるきっかけにしてください。



あなたもキャリアサイクルの一員です。積極的に参加しましょう!

### 女性研究者増員の具体的取組み

- ◆女性教員の比率拡大の数値目標設定  
2020年までに12%→20%へ拡大  
全学の専任女性教員の比率を2020年までに現在の12%から20%に引き上げることを目標とします。理工農医部については、専任女性教員の比率を2020年までに現在の6%から15%へ拡大を目標とします。また本事業が終了するまでの3年以内に、女性教員比率を全学で14%以上、理工農医部で8%以上にそれぞれ拡大することを目指します。
- ◆「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」の実施による女性教員の採用促進  
専任女性教員採用で助教人員費1/2を支給  
数値目標を達成するための措置として、専任女性教員(教授・准教授・講師・助教)を採用した場合、助教人員費の2分の1分を、全学経費から当該学科に支給する「愛大式ポジティブアクション1プラス0.5」を実施します。

### 学長あいさつ



愛媛大学 学長  
柳澤 康信

このたび、本学は、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業の採択を受けました。本学は地域に根差した大学として、教育・研究・社会貢献の面で多様な人材を必要としています。この事業は女性にターゲットをあてた人材育成であり、男女共同参画の推進と人材の多様化に取組む本学の方向性に合致しています。女性未来育成センターは、本事業を全学的に推進するために新設されました。本センターを中心として全学的に女性研究者活躍のための環境整備、女性教員増員に取組み、優れた女性研究者を持続的に育成する基盤を作って参ります。本センターは3年間の事業終了後も運営し、時代に適合した愛媛大学へと変革するために活動を続けます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### センター長メッセージ



女性未来育成センター長  
小島 秀子

このたび、女性未来育成センターが開設されたことを大変嬉しく思います。名前が少し大袈裟で気恥ずかしい気もしますが、女性研究者や女子学生への支援が最終目的ではなく、女性人材の育成を目標とするところに思いを込めました。「ひめセンター」と呼んでいただければ幸いです。

女性が研究を続けるについて特別な理由はありません。自分が研究をしたいからするのです。研究能力に男女の違いはありません。しかし、本学の女子学生比率は40%と低くないのに対して、女性教員は12%の非常に低い比率にとどまっており、女性教員の増員は本学が将来も発展を続ける上で緊急の課題となっています。本センターは、女性研究者が表舞台で活躍できる環境を整備するとともに、愛大式ポジティブアクションを実施することにより女性教員の積極的増員に取組んで参ります。

実際の取組みは、男性の参加のもとに元気に進めたいと思います。学生にも参加していただき、その中で次世代育成も進めるつもりです。地域の方々のご協力も仰ぎたいと思います。女性が活躍できる環境が実現すれば、男性にとっても働きやすい環境となると信じます。スタッフ一同「チームひめ」として力を合わせて取組みますので、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

### 【メールマガジン】

メールマガジン「ひめーる創刊号」を平成23年8月に配信し、5号まで配信しています。配信対象者は、学内外の登録者と本学の女性研究者としています。配信登録は、センターホームページのトップページのメールサービス登録窓口から行うことができます。平成24年3月現在、登録者数は18人です。

### 【両立支援 BOOK】

子育てや介護と仕事の両立を支援するための冊子を平成24年3月に発行しました。

### 5-3. ロールモデル集

女性教員の少ない本学は、女子学生・若手女性研究者にとっては身近にロールモデル（お手本）が少ない環境にあるため、将来の指針の一助にさせていただくために、ロールモデル集「素顔の愛媛大学女性研究者」を平成23年9月に発行しました。本学の各分野で活躍している女性研究者に、自分の書きたいことを、ありのまま率直に自由にとお願いして執筆いただきました。幸い、装丁、内容ともに好評のため、平成24年度はロールモデル集第2巻の発行を計画しています。PDF版はホームページからダウンロード可能です。



## CONTENTS

### 愛媛大学ロールモデル集

センター長あいさつ	3
杉浦美羽 Miwa Sugiura	5
石野智子 Tomoko Ishino	6
土屋 旬 Jun Tsuchiya	7
センター長対談 [濱村奈津子]	8
佐藤久子 Hisako Sato	10
江口真理子 Mariko Eguchi	11
川瀬久美子 Kumiko Kawase	12
松永真由美 Mayumi Matsunaga	13
センター長対談 [堀 利栄 / 榎原正幸]	14
藤山幹子 Mikiko Touyama	16
伊地知紀子 Noriko Ijichi	17
江上園子 Sonoko Egami	18
土屋由香 Yuka Tsuchiya	19
高橋憲子 Noriko Takahashi	20
卒業生インタビュー [富川千恵]	21
事業説明	22





[ ごあいさつ ]

## 若い世代へのエール

愛媛大学女性未来育成センター長 小島 秀子

# Hideko Koshima

Women's Future Development Center, Ehime University

愛媛大学は、平成22年度文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」(平成23年度からは「女性研究者研究活動支援事業」に名称変更)に採択され、実施母体として女性未来育成センターが設立されました。本学はこの事業を女性にターゲットをあてた人材育成としてとらえており、女性未来育成センターでは、女性研究者活躍のための環境整備、次世代育成、女性教員増員に一体的に取り組んでいます。最終目的は、優れた女性研究者を持続的に育成する大学のシステムを作ることにあります。

愛媛大学は学生約1万人の四国最大の総合大学であり、地域に根ざした大学として教育・研究・社会貢献の面で多様な人材を必要としています。しかし、大学全体の女性教員比率は12%と低く、なかでも、理学部・工学部・農学部の女性教員は全部で12人にしか過ぎず、5%の極端に低い比率にとどまっています。これに対して、全学の女子学生は40%と低くはなく、また後期博士課程の女子院生は25%に達しており、しかも年々増加しています。

このような女子学生・若手研究者にとっては身近にロールモデル(お手本)が少ない環境にあって、将来の指針にいただくために、事業の一環として女性研究者のロールモデル集を発行することに

なりました。本学の各分野で活躍されている女性研究者に、自分の書きたいことをありのまま率直に自由にとお願いしてご執筆いただきました。

ところで、今年の世界化学年(International Year of Chemistry: IYC2011)です。キュリー夫人のノーベル化学賞受賞(ラジウム、ポロニウムの発見)100周年を記念して定められました。子供の頃にキュリー夫人の伝記を読んで感激したのを覚えています。女性であっても認められる時代になったのです。私は化学を一生の仕事と決め、研究を続けるために職場を何度か変わり、研究分野を変えたこともありますが、お蔭で私の化学の世界は広がり、これまで何とか第一線で研究を続けることができました。しかしこれも自分の力だけでは到底無理で、周りの助けがあったからに他なりません。

生物の世界では多様性が大原則で、ある条件に過剰適応すると環境の変化に対応できず、生き残ることができないそうです。数十年前の学生時代に研究室の先生(女性)は、「これからの社会は女性をどう活かすかで決まる」と言われました。最近の研究室の現場では、女子学生は大変元気です。彼女達の将来の活躍が楽しみです。女性研究者が周りにいるのが普通になり、真の男女共同参画が実現する日の来ることを願っています。

# 「どうやったら研究者になれるの？」 「仕事と家庭の両立は？」

それは今回ご紹介している15人の先生方も抱えていた想いかもしれません。

この冊子では愛媛大学で活躍する女性研究者のみなさんが  
歩んできた道のりをご紹介します。



## 愛媛大学で活躍する女性研究者たちの声

Miwa Sugiura / Tomoko Ishino / Jun Tsuchiya / Natsuko Hamamura / Hisako Sato / Mariko Eguchi / Kumiko Kawase / Mayumi Matsunaga / Rie Hori / Masayuki Sakakibara / Mikiko Touyama / Noriko Ijichi / Sonoko Egami / Yuka Tsuchiya / Noriko Takahashi / Chie Tomikawa

幅広い人生経験が、

現在の自由な研究活動に

還元されています。

杉浦 美羽

すぎうら みわ

◎ 所属：愛媛大学 無細胞生命科学工学研究センター

グリーン環境エネルギー部門

◎ 役職：准教授



01

Miwa Sugijura

女性研究者からのメッセージ

自由でエレガントな科学者が  
私の永遠のテーマ

私の生き方のテーマは「エレガントで自由奔放」。友人には「ぶっ飛んでいて次に何をするか楽しみ」と言われるくらいです。とても皆さんの生き方のモデルになるとは思えません。これから研究者になろうと思っている、迷っている人に、必ずしも小さい頃から勉強ばかりしていた人や、実験体験をしてきた人が研究者になつていていいのではない、参考になればと思います。

私は小さい頃から研究者になろうと思つていただけではありません。何にでも興味を持ち、始めたことにはある程度極めないと気の済まない性格で、バンド活動、茶道、華道、料理、フェンシング、アーチェリー、ウインドサーフィンなど、色んなことをやってきました。意外かもしれませんが、これらへの興味と真剣な取り組みは研究を進める上でとても役に立っています、むしろ、これらの経験の集大成が研究のサイクルは「研究計画↓実験↓学会

発表↓論文執筆」、バンド活動は「曲作り↓アレンジ・練習↓ライブ↓レコーディング」で同じパターンです。また、電子楽器を使う音楽やフェンシングは、どちらも電気回路を利用して、修理や作業は日常です。この経験は実験で使う機器の作業や修理にとっても役に立っています。

研究活動では、研究成果を伝えるために学会発表や講演を行い、様々なバックグラウンドを持つ研究者と討論しますが、これに役立っているのが音楽活動で得た「パフォーマンスタ」と、茶道や華道で得た「エレガントさ」です。聴衆の興味を引くノウハウは数十年に渡るライブ活動で獲得しました。そこにエレガントさをプラスすることによって、スムーズな討論や人間関係を築いてきました。お蔭で国内外の研究者と共同研究を行うことができ、一人ではできない研究成果を出すことができています。そう、私の研究者としてのテーマの二つは「エレガントさ」なんです。

もう一つのテーマは「自由」です。私は縛られるのが嫌いで、自分で決めたことを突き進める性格です。両親にすら相談し

ません。いつも事後報告だけです。私にとって研究は、博士号を取って念願の光合成研究を始めた理研時代からのライフワークで最優先事項です。研究を広げるチャンスがあれば、大切な人と離ればなれになつても研究拠点を変えてきましたし、睡眠時間が一日に二時間になる超ハードスケジュールでも出張をこなし、夜中までのお酒を伴う研究者との付き合いもこなしてきました。こんな生き方を貫くには常に自由に動ける身軽さが必要で、結婚や出産を犠牲にしてきました。

辛いことも沢山ありましたが、幼い頃からの色んな経験から得た「仲間作り」を得意とする私は、多くの人に助けってもらつてやつてくることができました。私のような生き方をしたいと思う人は希だと思えますが、研究者になりたいと思っているなら研究以外の色んなことを経験し、女性の利点であるエレガントさを身につけることをお勧めします。また、研究者になれるか不安に思っている人には、決して幼い頃からの研究に関する経験が必要というわけでは無いことを伝えたいと思います。

### Profile

略歴 / 1997年、神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了(農学博士)。同年、理化学研究所基礎科学特別研究員、1999年、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科助教を経て、2008年より現職(大学院理工学研究科理学系化学部門を併任)。この間、1999年東京農工大学工学部非常勤講師、2002-2004年フランス原子力研究所(CEA Saclay)にて共同研究員、2010年放送大学非常勤講師、2010年より科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業「さがけ」研究員。2011年日本女性科学者の会奨励賞受賞。



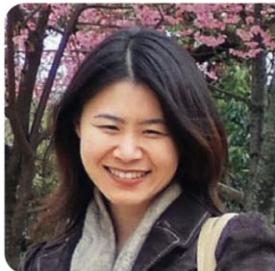
## 女性研究者として

## 好きな研究で

## 輝き続けましょう。

## 石野 智子

いしのともこ

◎ 所属…愛媛大学大学院 医学系研究科 寄生虫病原体学分野  
◎ 役職…准教授

02

## マラリアに魅せられて

博士課程の終了を目前に控え、研究への想いはあれど勇気がなかった当時、頭から離れない笑顔がありました。それは、第三国の子供たちのもので、その笑顔を増やしたいという気持ちと研究者になるという夢の間で迷っていました。2つの「好き」を結びつけるべく、私は熱帯病を研究するという可能性を探り始め、幸運と人々の好意に恵まれ、マラリア研究者として新たな一歩を踏み出すことができました。

マラリア原虫の持つ複雑さ狡猾さに、私はすぐに魅了されてしまいました。単細胞のちいさな生き物が、蚊とほ乳類という2つの宿主を渡り歩き、宿主細胞に適応していく様にはただ感嘆するのみです。私はあまり多くの手が付けられていない、肝臓への感染ステージを標的として、遺伝子組み換え原虫の作出という切れ味鋭い鉈を用いて、肝臓感染に関わる原虫分子を複数同定することに成功しました。最近では、寄生戦略の包括的な

理解に少しでも近づくために、サイエンスの基本に立ち戻り原虫の動きを直接観察することに力を注いでいます。

一方で、期待されていることと同義だったのかもありませんが、担うべき責任も増え、試行錯誤する心の余裕も持てなくなる時期がありました。自分の能力を超える仕事を完成度高く仕上げなくてはならないという思い込みと、地方大学においてはまだまだ珍しかった女性研究者としての孤独感が、閉塞感に繋がっていたのかもしれない。もう一度だけ、研究が本当に好きかどうかを自分に問いかけるつもりで、遠いフランスへと旅立つことにしたのです。

日本学術振興会および日本パスツール協会にサポートして頂き三年弱フランスに研究留学することができました。言葉も通じず、思想も異なる仲間たちと、ただ研究をよくしたい一心で協力して仕事をを行う上で、改めて研究への向き合い方を考えるよい機会になりました。フランスでは、20〜30年前に全分野で女性の進出が成功しており、女性が働くのが当たり前、

魅力的であるのも、子供を産むのも、一年に5週間のバカンスを取るもの当たり前。そんなシステムが構築されていました。出産・育児に関しては、手厚い保護があるのももちろんですが、無痛分娩、粉ミルクの活用など、早期の仕事復帰に向けての工夫も多く見られました。良いことばかりあるはずもなく、収入が低い、事務処理の速度が遅いなどの問題もあります。私自身は、ワインとチーズを片手に、快適にのびのびとサイエンスと向き合うことができ、再びサイエンスで生計を立てる勇氣と覚悟を得て帰国致しました。

この手記を書いている現在、なでしこ JAPANの熱狂が日本中を席巻しています。一生懸命な女性たちは、お化粧をしていなくとも、素敵な洋服をまとってなくても、とても美しいものでした。私たちが学ぶことのできることは、「成果を挙げれば必ず認められる」ということでしょうか。私も、まずは私たち女性研究者に何ができるのか、どうやって人を感動させられるのかを真剣に考えてみたいと思います。

## Tomoko Ishino

## Profile

略歴／1996年3月、東京大学卒業。1998年3月、東京大学薬学系研究科修士課程修了。2001年3月、東京大学薬学系研究科博士課程修了。2001年3月、薬学博士(東京大学生物系薬学)。2001年4月、三重大学大学院医学系研究科助手。2006年3月、医学博士(三重大学寄生虫学(含衛生動物学))。2006年7月、パスツール研究所ポストドク。(2007年2月-2009年2月、日本学術振興会海外特別研究員)。2009年3月より現職。

### 研究者になるまで

徳島の田舎で生まれ、子供の頃は魚や虫などを捕ったり、山菜を採集したりして育ちました。家の片隅に、他の家族の誰も見向きしない世界の変った動植物や宇宙の写真を集めたライフネイチャーライブラリーという30巻くらいの本があり、暇なときはそれを眺めるのも好きでした。中学生くらいからは従姉から借りた天体望遠鏡で、一人夜な夜な星雲や惑星を探して過ごしました。特に宇宙の謎を明らかにしたいとかいう問題意識があるわけではなく、単に不思議なものを見るのが好きなかただけであったと思います。ただ、どうせ大学に行くなら宇宙や地球の不思議について勉強したいと思いい、得意な教科でもなかったのですが物理系の学科を選択しました。修士課程ではデータの持つ意味を考察してまとめ、論文発表するという一連の研究過程が楽しくなり、特に就職や将来のことを深く考えずに博士課程まで進みました。幸運

もあり、博士課程、ポスドク時代と学振の研究者に採用されたため、そのまま研究者へのレールに乗ったような状態でした。ポスドク二万人時代とか言われて将来に不安はなくなかったけれども、行き詰まったときはそれはそれでなんとかなるだろうという持ち前の気楽さでここまでやってきました。

### 研究者になって

博士課程のときに結婚し、ポスドク時代は、夫婦でアメリカのミネソタ大学で研究員として働きました。その時に妊娠し、アメリカで出産する予定でしたが、妊娠後期になって主人の就職先が愛媛大学に決まり、私一人アメリカに残って出産、子育ては無理だろうということので、ポスドクを辞めて帰国しました。いきなり無職になってしまい、特に縁もゆかりもない愛媛で子育てをすることに不安はありましたが、DPOの入船センター長からも時機を見て研究に復帰することを勧めてください、感謝しています。その当

時、ちょうど学振から子育てで一時研究を中断した人の復帰をサポートする特別研究員(DPO)という制度が始まり、幸運にも第一目に採用されて研究に復帰できました。子育てしながら研究を続けることは、ときに大変なこともありませんが、夫婦の協力と周りのサポートのおかげで何とかなってきました。海外出張も工夫次第でこなせますし、子育て研究者を取り巻く状況は急激に良くなってきていると感じています。

### 現在二人の娘がいます

下の娘は生後7カ月で、テニアトラック教員という立場にありながら出張もままなりません。でも、今はじっと耐えて出来ることを精一杯やりたいと思っています。子供の成長を見ることは純粋に喜びですし、ここで焦っても何も良いことはありません。愛媛の自然環境豊かな中で育ち、子供たちも自然界の不思議が大好きようです。何事も、気持ちに余裕をもたせて楽しみながらやるのがコツなのかな、と思っています。

### Profile

略歴 / 1998年3月、大阪大学理学部宇宙・地球科学卒業。2000年3月、大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻修士課程修了。修士(理学)の学位取得。2001年4月-2003年3月、日本学術振興会特別研究員(DC2)(大阪大学)。2003年3月、大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻博士課程修了。博士(理学)の学位取得。2003年4月-2005年2月、日本学術振興会特別研究員(PD)(東京大学・米国ミネソタ大学)。2005年2月-4月、米国ミネソタ大学Postdoctoral Fellow。2006年1月-3月、愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター研究推進研究員。2006年4月-2006年12月、愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター学術創成研究員。2007年1月-2008年9月、日本学術振興会特別研究員(RPD)(愛媛大学)。2008年10月より現職。

女性研究者からのメッセージ

Jun Tsuchiya



03

### 土屋 旬

つちや じゅん

◎ 所属・愛媛大学上級研究員センター  
(地球深部ダイナミクス研究センター(GRC)関連)  
◎ 役職・上級研究員(講師)

自然体で、  
がんばっています。



## 微生物が語る、 わたしたちの多様性

小島 まずはこの度の最先端・次世代研究開発支援プログラムの採択おめでとうございます。飛躍へのステップになりますね。

濱村 ありがとうございます。ようやく第1歩、という感じでしょうか。

—これまでの経歴について

濱村 大学は地元だったこともあり、千葉大学園芸学部に入りました。その後アメリカの大学院へ進みますが、きっかけは大学三年の夏に語学留学をした時に感じた、向こうの大学設備の良さでした。その後学部を変えて博士をとり、いくつかの大学で研究員として勤務していました。

—想いを持って日本へ帰国

小島 日本へ戻り、沿岸センターへ変わったきっかけは？

濱村 アメリカでの研究も長くなり、楽しかったのですが、将来を考えた時に、国際貢献をしたいと思いついた。研究している環境分野では、今後アジアの環境問題が大きくなるのではと考えました。その時リーダーシップをとるだろう日本で、女性の

教育に力を入れたいと思ったのがきっかけです。ちょうど日本でも、女性研究者の支援に力を入れていると知りました。

小島 なぜ女性の教育に注目されたのですか？

濱村 間接的ですが、世界的な課題である貧困や食糧不足、環境問題を考えた時に、まず女性の教育が必要だと考えたからです。きっかけは、アメリカでバキスタン・アフガニスタンの女性の教育に力を入れている団体の話。そこによると、女性は教育するとコミュニティに帰って、属する地域社会のために働くのだそうです。貧困問題や公衆衛生問題を解決するには、コミュニティの女性を教育するのが重要だという話に感銘を受けました。

—環境汚染の奥深さ

小島 研究の中で「これは面白い」と思ったことはありますか？

濱村 汚染環境中にいる微生物の代謝について研究していますが、実は研究室で培養できる菌は、環境中にいる菌の1%にしか過ぎないんです。残りの99%は、これまで育てられなかったのですが、現在は次世代シーケンサーという大量のDNA配列を読める機械が、ここ数年で素晴らしい発展して、環境中の遺伝子を網羅的に読んで、自分でもそう思う反面、なんだかくやし気が出ていました。でも、日本の女性研究者が何を必要としているかは、外から見ただけでは分からない。日本で実際に使える貢献をしたいと思いました。

—沿岸センターの魅力

濱村 特にアジア地域において、長年のデータと経験の蓄積もあり、実績がある点で魅力的です。世界中の環境・生体サンプルを保存するeS-BANK（生物環境試料バンク）や、分析機器なども充実していることが、優秀な若手が集まる理由になっていると思います。

—技術の発展で分かってきた

小島 研究の中で「これは面白い」と思ったことはありますか？

濱村 汚染環境中にいる微生物の代謝について研究していますが、実は研究室で培養できる菌は、環境中にいる菌の1%にしか過ぎないんです。残りの99%は、これまで育てられなかったのですが、現在は次世代シーケンサーという大量のDNA配列を読める機械が、ここ数年で素晴らしい発展して、環境中の遺伝子を網羅的に読んで、自分でもそう思う反面、なんだかくやし気が出ていました。でも、日本の女性研究者が何を必要としているかは、外から見ただけでは分からない。日本で実際に使える貢献をしたいと思いました。

でいく世代になってきました。環境中の菌が全部見られるということはこの分野としてはすごいことなんです。

小島 自然界の本当の姿が分かるんですね。

濱村 はい。微生物とえば、「バイ菌」のイメージがあるかもしれませんが、実はとても大事なものです。自然が自然の形なのも、微生物のおかげなんです。

人間にとって毒だから「汚染」と言っていますが、微生物にとっては栄養源の場合もあります。重金属やヒ素を代謝して育つ微生物も研究しています。

小島 一つの目線だけで見ているのはダメ。全体を見なくてはいいですね。

— 多様性をもつことの重要性 —

濱村 人間の活動も環境に影響しています。人間も生態系の一部分であることを認識しないとけないと思います。私としては微生物生態系の多様性と、女性やマイノリティの活躍などの社会の多様性は、とても似ていると思っています。微生物も一つの種だけ突出しているような状態はほとんどなく、自然では多様性が重要です。微生物の多様性を通して、人間社会の多様性を理解できるような気がしています。

小島 多様性は生物の世界の大原則ですね。生物はいかに新しい環境に対応できるかで生き残りが決まっていますね。

濱村 その通りで、ある条件に特化したコミュニティになると、振り幅が少なからず、環境の変動に適応できないんです。でも興味深いのは、そんなコミュニティも少し時間を置くと、もとの多様性のあるコミュニティに戻っていくんです。それは生き残るための必然だと感じています。日本もその必然として、多様化に向かってきているのではないのでしょうか。世界を見ても、二国の大國

だけでは無く、これからはアジアが中心にもなっていくのではないかと思っています。

— 最後に、女性研究者と研究者を指す皆さんへ —

濱村 自分の世界を限定せず、広い視点を持って、可能性のある所はどこでも行ってほしいと思います。自分を限定するのは自分ですし、自分の考えを限定するのも自分。いろんな可能性を持つてほしいです。これは研究者だけでなく、若者全体へ向け

てのメッセージでもあります。若い人たちは今、内向きになってしまっている気がします。それは自分の可能性を限定してしまうのではないのでしょうか。

生物を勉強していると、多様性がないと生態系は生き残れないと感じます。社会も日本人だから、女性だからと限定しないようにしてほしいです。

小島 自分ではどうしようもできないことがほとんどですが、元気にやっていくのが一番大事ですね。

濱村 どんな状況でも自分の可能性

を広げておく必要はあると思います。たとえば、英語を勉強できる時にしておくとか。そうしないとチャンスがあった時に対応できなくなりますよね。

私はアメリカの大学院で生態学に興味を持つようになりましたが、日本にいた頃はあまり知識もありませんでした。様々な知識を持つておいてこそ、何かに特化できるし、何が重要かがわかる芽が育つのだと思います。

小島 理系の世界では境界領域こそ、新しいことがあると言われています。研究は自分の個性が表れる世界なので、あまり理系・文系と分げずに興味のあることをいろいろ学んだ方がいいですね。



#### 濱村 奈津子先生 Profile

略歴 / 1994年、千葉大学園芸学部卒業。2001年、オレゴン州立大学院修了、PhD。2001年～、海洋バイオ研究所、モンタナ州立大、ポートランド州立大研究員。2009年～、先端研究推進支援機構 沿岸環境科学研究センター勤務(グローバルCOE准教授)。2011年、最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択。

#### 参考URL

- 最先端・次世代研究開発支援プログラム  
<http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/index.html>
- 愛媛大学グローバルCOEプログラム  
<http://ehime-u.cyber-earth.jp/g-coe2007/jp/index.aspx>
- 愛媛大学沿岸環境科学研究センター  
<http://www.ehime-u.ac.jp/~cmes/>

## 若い世代へのメッセージ

私は、修士課程を修了してから企業で19年間にわたってシリコン電子デバイス開発の最先端分野に携わってきました。45歳にして研究への夢を忘れることができず、研究員としてアカデミックの世界にはいりました。開発の傍ら研究の最初の第一歩を踏み出してから紆余曲折を経てちょうど20年目に、愛媛大学大学院理工学研究科の准教授に採用されました。独立した自分の研究室がもてたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、幸運なことにその一年後には教授に昇進させていただきました。研究を自由にできるチャンスを与えていただけただけでも大変ありがたい喜びとともに責任感を感じます。

## 研究への夢のために、

## 自分を信じて

## 地道な努力をする。

## 佐藤 久子

さとう ひさこ

◎ 所属・愛媛大学大学院理工学研究科(理学部化学科)  
◎ 役職・教授

企業に入社したときは、まだ男女雇用機会均等法のない時代でした。女性は残業を制限されておりましたが、大企業でしたので、自由にいろいろな経験はさせてもらえました。しかしながら、企業での開発に携わっていると、研究者の道をどうしてもあきらめることができなっていました。入社六年目に、学会で知り合ったばかりの山岸皓彦先生に私の現状と研究への思いを手紙に託しました。その鉛筆書きの手紙から、私の研究生生活は始まりました。今では社会人博士課程などありますが、その当時はそのような制度はありませんでした。平日は会社での開発の仕事、土日は別のテーマで研究を続け、35歳のときに理学の博士号を取得しました。

企業に入社したときは、まだ男女雇用機会均等法のない時代でした。女性は残業を制限されておりましたが、大企業でしたので、自由にいろいろな経験はさせてもらえました。しかしながら、企業での開発に携わっていると、研究者の道をどうしてもあきらめることができなっていました。入社六年目に、学会で知り合ったばかりの山岸皓彦先生に私の現状と研究への思いを手紙に託しました。その鉛筆書きの手紙から、私の研究生生活は始まりました。今では社会人博士課程などありますが、その当時はそのような制度はありませんでした。平日は会社での開発の仕事、土日は別のテーマで研究を続け、35歳のときに理学の博士号を取得しました。

企業に入社したときは、まだ男女雇用機会均等法のない時代でした。女性は残業を制限されておりましたが、大企業でしたので、自由にいろいろな経験はさせてもらえました。しかしながら、企業での開発に携わっていると、研究者の道をどうしてもあきらめることができなっていました。入社六年目に、学会で知り合ったばかりの山岸皓彦先生に私の現状と研究への思いを手紙に託しました。その鉛筆書きの手紙から、私の研究生生活は始まりました。今では社会人博士課程などありますが、その当時はそのような制度はありませんでした。平日は会社での開発の仕事、土日は別のテーマで研究を続け、35歳のときに理学の博士号を取得しました。



04

## Profile

略歴／1981年、早稲田大学理工学部応用化学科卒。1983年、東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程終了。1983-2002年 株式会社製作所勤務。1992年、博士(理学)北海道大学。1999年、博士(工学)東京大学。2002-2003年、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻学術研究支援員。2003-2006年、科学技術振興機構CREST研究員(研究場所:東京大学)。2006-2009年、科学技術振興機構さきかけ専任研究者(研究場所:東京大学、お茶の水女子大学)。2009年4月-2010年3月、愛媛大学大学院理工学研究科(理学系)准教授、2010年4月より現職。

## 大切な出会い

生まれてはじめて真っ赤なバラの花束をもらったのは、研修医二年目の冬、担当していた急性リンパ性白血病の男の子からでした。その日は、年間つらい抗がん剤の治療に耐えてきたその子がやっと家族のもとに帰り、兄や妹と一緒に遊べるようになった記念すべき日でした。同時に私にとっても大切な思い出の日となりました。その後白血病が再発、その子はたくさん治療を、その小さな体で頑張って頑張って、そして天国にいつてしまいました。

当時は今ほど白血病の遺伝子異常について分かっておらず、治療成績も現在ほど良くありませんでした。大切な命を救うためには、がんの個性(染色体・遺伝子変異)に合わせた新しい治療法の開発が必須だということを知らされる毎日でした。生きることをあきらめざるを得なかった子供たちに、研究して、がんを治してといわ

れている気がして、研究の道に入りました。

それから何年も経ち、私も2人の子供を持つ身となりました。「病気の子供たちに役立つ研究をする」という当時の約束を果たせたととても言えませんが、研究をあきらめなかったことだけは約束を守れたたでしょう。かどんに頑張ってもデータが出なかつたり、診療に時間をとられ研究に打ち込めなかつたり、何カ月も続く我が子の夜泣きに疲れきって、もう無理かなと思うことが何度もありました。でもその度に理解ある上司や同僚に支えられ、家族に守られ、今も研究を続けることができ、心から感謝しています。

### すてきな女性たち

私は広島大学医学部を卒業し、同大学の小児科に入局して、病気の子供たちの診療にあたりました。その後白血病のことがもつと知りたくて、広島大学原爆放射能医学研究所、国立小児病院小児医療研究

センターで勤務後、ロンドンのInstitute of Cancer Research(ICR)に渡りました。

ICRには小児白血病のetiology(病態)を明らかにしようとする、心優しいボスマン教授と共に、当たり前のようには子供を産み、すばらしい仕事をし、ゆつくり家族との時間を楽しむ女性たちが何人もいました。もちろん彼女たちは仕事でも家庭でも人一倍頑張っていました。が、なにより育児をしながら働き、生活も楽しむということが周囲の女性にも男性にも当たり前のこととして受け入れられていることが、それまで自分がいた環境と大きく違っていました。男女の差を意識しないことはこんなに働きやすいことなのだ、ということも実感しました。

### 欲張りに生きて！

愛媛大学には家族で三年前にまいりました。ここは子供を育てる女性が働きやすい環境がよく整っていると思います。一方でこんなにもいい環境なのに、もつとがんばろうよ、

女性たち！と思っこともありません。

私はあまり男女を意識しないように育てられ、小さい頃はよく男の子たちとサッカーや野球をしていました。夫は、出産だけは代わってもらったことはできませんでしたが、それ以外の子育てや家事は同じように関わってくれています。あまり女性であることを意識しすぎないで、女性だからってあきらめないで、仕事も家庭も、研究も、趣味も、したいことをとんとんして輝いていたら、きっと周りに理解し、協力してくれる人が現れると思います。自分を支えてくれる多くの人たちに感謝しながら、欲張りに生きてみて下さい！

## 多くの出会いに、

## 感謝して。

## 江口 真理子

えぐち まりこ

◎ 所属：愛媛大学大学院 医学系研究科小児医学  
◎ 役職：准教授

Mariko Eguchi

女性研究者からのメッセージ



05

### Profile

略歴 / 広島大学医学部医学科卒業、同大学小児科入局。広島大学大学院医学系研究科病理系専攻にて学位取得。広島大学医学部附属病院小児科、広島大学原爆放射能医学研究所、国立小児病院小児医療研究センターに勤務後、ロンドン大学Institute of Cancer Research, postdoctoral fellow。帰国後、獨協医科大学血液内科を経て、2008年より愛媛大学医学部小児医学勤務。

迷ったり反対されても、  
自然地理学

私の研究テーマは、「自然地理学」のなかでも、過去数万〜数千年間の平野地形の変化「地形発達史」を説明するといふものです。いわば地学（地球科学）に近いのですが、文理融合の総合科学としての地理学に、私はとても愛着と誇りを抱いています。とはいえ、学部卒業後の進路を決める段階になって、大学院進学を逡巡する気持ちもありました。また、大学院へ進学しようと心を決めると、「女の子は学歴があると結婚しにくい」と考えていた両親から反対されました。しかし、そのたびに「でも、やっぱりもっと地理学を追究したい！」という気持ちがむくむくとわき上がってきたものです。そういう衝動が私の研究生活の原動力になっているのだと思います。

研究生活の中で、  
あれば幸せな能力

研究生活では多くの人に支えられてきました。大学院時代には指導教員は

Kumiko  
Kawase



06

でも、やっぱり追究したい！  
やってみたら？

川瀬 久美子

かわせ くみこ

◎ 所属：愛媛大学教育学部  
◎ 役職：准教授

勿論、先輩・同輩から、研究の組み立て方、分析手法、研究への姿勢など色々なことを学びました。現在では、学会発表や共同研究の場で、ほかの研究者と議論しながら研究を進めています。また、大学に就職した場合は、同僚教員や事務の方々と学内の運営を行う一方で、教育活動として様々な学生と接することになるでしょう。今日の大学の研究者には、柔軟なコミュニケーション能力が求められています。研究者に求められる第一の資質はやはり「研究能力」（+研究への熱意）なので、コミュニケーション能力が「不可欠」とまでは言い切りません。しかし、それがあれば様々な局面で事がスムーズに運ぶでしょうし、なければ苦労することがあるかもしれません。はい、（外からどう見えるかは判りませんが）私は苦労しています。

家庭生活、うちの場合は

どのようなライフスタイルに満足できるかは、その人と家族（配偶者・子ども）の性格や価値観次第なので、悩むよりやってみたら？ というのは無責任でしょう。

うか。とりあえずやってみよううちの場合は、以下の通りです。

我が家は5歳の子と、普段は母子二人暮らしで、子の父親とは離れて暮らしています（同居したのは半年の産休・育休中だけ）。やってみてわかったのは、事前に子育ての大変さを覚悟していたが、想像以上のものだったこと。そして、「やってみただけで無理でした」と放り出せないのが育児でした。4歳を過ぎたら子の心身の成長によって私のストレスが激減したので、3歳までは育児休暇を取ると良かったかもしれません。

現在の大学の状況は、女性ばかりか男性においても仕事と家庭生活が両立できるとは言い難いかもしれません。しかし、女性が自立して働ける職業の選択肢の一つとして、研究職は今以上に認められないものでしょうか。私のように「もっと○○を追究したい」という衝動に駆られていてる人を、男女関係なく心から応援したいと思います。

Profile

略歴 / 1994年、名古屋大学文学部卒業。1994年、名古屋大学大学院文学研究科入学。1999年、日本学術振興会特別研究員。2000年、名古屋大学大学院文学研究科博士課程（後期）満期退学。2000年、愛媛大学教育学部講師。2004年より現職。

## Profile

略歴／1995年3月、九州大学工学部情報工学科卒業。1997年3月、九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学専攻修士課程修了。1998年1月、University of Wisconsin-Madison, Dept. of Electrical Computer Engineering 留学。2000年3月、九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)。2000年4月、愛媛大学工学部電気電子工学科助手。2005年2月、University of Washington, Dept. of Electrical Engineering 客員教員。2007年4月、愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻電気電子工学コース助教。2008年2月より現職。2008年5月、社団法人電子情報通信学会評議員。2009年1月 総務省情報通信審議会専門委員等を歴任。

女性研究者からのメッセージ



07

Mayumi  
Matsunaga

13

私の人生テーマは、「ひとを幸せにする」

です。きつと、どんな人も、何らかの形でひとを幸せにしようと日々努力しているのではないのでしょうか。例えば、家族や恋人、友人を大切にしたいという思いは、誰もが自然に持つと思います。また、災害時に、被災地のボランティアをしている人々も、困っている人をなんとか幸せにしたいという思いでボランティア活動に励んでいるのでしょうか。つまり、みな何かしら、ひとを幸せにしようと努力しています。私もそのひとりです。

大学教員をしている私には、研究者として科学技術をもって、「ひとを幸せにする役割と、教員として学生をはじめ関わる多くの人々を幸せにする役割と」があります。

### 大学の教員とは

なぜ大学の教員になったのでしょうか。実は、貧乏暇無しで損ばかりしています。もっと色々な職業が選べたのに…。安月給で、残業しても、休日出勤しても二銭にもありません。授業や実験・研究指導、学生や研究員の世話、大学の運営に関わる雑務で

日中忙殺され、夜や、休日、移動中の電車

やバスの中で、自分の研究をしたり論文を書いたり…。それなのに、世間からは、良い暮らしをし、夏休みは学生並みに二ヶ月あり、授業時間以外仕事はなく、社会的に通用しない落伍者だから大学教員になったのだらうと誤解されることも。なんの因果でこんな商売しているのでしょうか。

それでも、大学の教員になって本当によかったです。なぜなら、研究者として、ひとの役に立つ科学技術を生み出すことができ、そして、教員として人材の育成ができます。これが、大学の教員として、「ひとを幸せにする」ということです。

### 研究者として

研究者として、あるときは最先端の技術を生み、またあるときは科学の基礎を築いています。生み出した技術は時間と様々な人の手を経て、人々の生活を豊かにする身近な技術となります。ですから、私は、生み出した技術が、他の技術と融合し進化した先には、必ず人々の笑顔があふ

“ひと”を幸せにする

ということ。

松永 真由美

まつなが まゆみ

◎ 所属：愛媛大学理工学研究科

電子情報工学専攻 電気電子工学コース

◎ 役職：講師

れていることを信じて研究をしています。

### 教員として

教員として育てた人材が未来の社会を築きます。ですから、鬼になって叱咤激励する時も、母となり成長を見守る時も、友人として共に新しい技術に挑戦する時もあります。どんな時も、それぞれの学生がその能力を開花させ、笑顔で歩む人生を願うことです。時として、この気持ちを分かってもらえず、辛い思いをすることもありませんが、単立した学生の多くが、独特の研究姿勢と指導法で最初は圧倒されたが、世の中に出て、私の言葉の意味が分かり、今は指導をつけて本当によかったと言ってくれた時、大学の教員で本当に良かったと思います。

大学の教員とは、誰にでもなれる職業ではありません。それだけに、担っている役割も重要です。しかし、自分の生み出した技術を手にした人や、単立した学生の笑顔を見たとき、何にもまして自分自身が「しあわせになれる職業」でもあります。



## 夫婦であり、 “同志”のわたしたち

小島 この度は愛媛大学で活躍する研究者のご夫婦ということでお話を聞かせて頂きます。

### —これまでの経歴について

堀 博士課程を修了して日本学術振興会特別研究員となった後、半年ほど愛媛大学で研究生をやっていました。その後、愛媛大学教養部の非常勤講師をしていましたが、教養部が無くなることになり、講師職からも外れることになりました。他大学の非常勤講師などでなんとか繋ぐうとしていた時に、愛媛大学で助手ポストに採ってもらいました。

小島 とにかく続けないとダメですね。いくらでも(研究職に就く)チャンスはあるはず。機会が来た時に行動できるように準備しておくことが大事ですね。

堀 女性が研究者としてやっていく大変さは、先輩たちを見てわかっていたので、「研究が続けられれば、別に一生結婚しなくてもいいかな」とも思っていました。でも学振の特別研究員に運よく通って、二年ほど他大学の研

究所などに行っていた時、「あまり深刻に考えなくてもいいかな」と、ふっと開き直って結婚することにしました。

### —研究活動と子育ての両立について

榊原 小学三年生までは学童保育に預けていました。ただ、毎日時間通りに迎えに行くのが大変でした。二人一緒の学会だと、一緒に連れて行っていました。平日の学会はあきらめていました。

小島 愛媛大学には、単身赴任で子育てをしている研究者もいますが、それだと余計大変ですよ。

堀 以前単身赴任で子育てをされていた先生が、「子育てはたくさん人の目がある方が楽だ。」とおっしゃっていて、すごく納得しました。なにが手伝わってもらうわけではなくても、人の目がちゃんとあるというのは、すごく安心できると思います。

小島 良い人材を育てるためにもカップルの研究者へのフォローを考えると、いけませんね。

堀 子どもを育てていると、人間として豊かになれますよね。人間にとっ

て一番大事なものは何か認識させられるので、研究者としての考え方の幅も出てくるし、研究一辺倒に偏らなくて良かったと思っています。幸せそうに寝ているのを見るだけで、こちらも幸せになります。

小島 職場での生活と、家の生活の両立はいかがでしたか？

榊原 男性の心得ならあります。「毎日掃除しなくても人間死ぬわけじゃない。」

### 一同笑

とにかくあまり気にしないことです。細かく気にしてしまうと、キャパシティーオーバーになってしまいます。

それと、僕たちは会議も一緒です。だいたいの男性は、同じ会議に奥さんがいるとやりづらいのではないのでしょうか。家での関係を持ち込んでしまうと仕事がつらくなるので、意識しないようにしています。

### —地球の記憶が教えてくれること

小島 これまでの研究の中で、面白いと思ったアイデアや出来事はありますか？

堀 二つあります。私は生命の進化と環境変動、地球の生命がどう風に進化してきたかを地層や微化

大学院理工学研究科 数理物質科学専攻・地球進化学コース 准教授 堀 利栄先生

大学院理工学研究科 数理物質科学専攻・地球進化学コース 教授 榊原 正幸先生

石を使って調べていますが、学生さんたちと一緒に研究しているあるグループの小さな化石について、今まで世界で一番古いとされてきたものよりも、古い2億2千万年前のものを発見しました。ワールドレコードをうちの研究室が持っているんです。

もう一つは、地球生物の80%ほどの生物が絶滅したといわれている時代のことで、この頃の記録はあまり無いのですが、今年三月に行ってきたニュージーランドの調査で、まさにその時代の大量絶滅の記録が残っているであろう堆積物を発見することができました。

小島 榊原先生はどうでしょう。

榊原 実はうちの学生を火星に行かせたいと思っているんです。ぼくは「生命の発見」が大きなテーマの一つですが、実際に研究しているのは過去の地球の岩石中に住んでいた、岩石を分解して食べる微生物についてです。

きっかけは10年位前に、火星からの隕石が「生命の化石じゃないか」と話題になったことです。地表から10kmくらい下には大量のバクテリアが住んでいるのですが、地球の全体が凍った時代も、バクテリアは生き残っていました。火星は地球が凍った時代と環

境が似ているので、火星の地下にもそういう生物がいると信じています。そんなわけで学生には「火星に愛大の旗を立ててこい。」なんて言っています。

—学生たちに思うこと—

小島 先生方が壮大な夢を語ってらっしゃると、学生は面白いと思うのではないのでしょうか。

榊原 でも、今の学生を見てみるとあまりに本などがたくさん出すぎていて、知識に囚われ過ぎていて感じます。新しい発見は教科書には書いていないし、教科書を勉強しても新しい発見はできないんです。そのことを先生方は教えないといけないと思います。身近なところにある新しい発見に気付くには、感性が必要になると思います。

小島 その通りで、面接などで進化する学生の動機を聞いても、大体が「知識を深めたい」とか「知識をたくさん増やしたい」という答えがほとんどで、違和感を持っています。

実際の研究室では、難しいことですが誰もやらないことを発想したり



堀 利栄先生 Profile

略歴 / 1990年、大阪市立大学理学研究科地質学博士課程修了。1990年4月-1992年3月、日本学術振興会特別研究員。1992年4月-1992年9月、愛媛大学理学研究科研究生。1992年10-1994年3月、愛媛大学教養部非常勤講師。1994年4月-1997年3月、東雲短期大学非常勤講師。1994年4月-2005年11月、愛媛大学理学部生物地球園科学科助手。2005年12月-2007年3月、愛媛大学大学院理工学研究科助教。2007年4月より現職。2011年4月-2011年12月、スウェーデンルンド大学客員教授。

榊原 正幸先生 Profile

略歴 / 1982-1984年、北海道大学理学研究科地質学鉱物学修士課程修了。1984-1987年、北海道大学理学研究科地質学鉱物学博士後期課程修了。1988年4月-1988年7月、日本学術振興会特別研究員。1988年8月-1993年10月、愛媛大学理学部地球科学科助手。1993年11月-1996年3月、愛媛大学理学部地球科学科助教。1996年4月-2002年3月、愛媛大学理学部生物地球園科学科助教。2002年4月-2005年3月、愛媛大学理学部生物地球園科学科助教。2005年4月-2006年3月、愛媛大学理学部生物地球園科学科助教。2006年4月より現職。

発見したりすることが大事だと思えます。そのためには、絶えず考える力を磨いていかなければいけない。ニュートンがリンゴの落下を見た時も、それまで絶えず研究をしていたから万有引力の連想につながったのでしょしね。

—これから研究者をめざす人たちに—

堀 女性が欲張っても良い時代になつているので、いろいろなことに果敢に挑戦してもらいたいと思います。

そのためには理解のある男性を見つけて下さい。それと、先輩研究者たちの言葉ですが、女性研究者の卵の頃に「とりあえず続けて下さい。続けていれば見てくれる人はいる。続けているのが大事」と言ってくれました。

—それぞれにとってパートナーとは？—

榊原 ある意味では人生の中で一番長くいる相手ですよね。「同志」だと思っています。

堀 お互いのよき理解者なんだと思います。お互い空気みたいな存在：無いと生きていけない、ということ。



## 限られた環境でも

## 研究を始め、

## 継続することが大切です。

## 藤山 幹子

とうやま みきこ

◎ 所属：愛媛大学大学院 医学系研究科感覚皮膚医学  
◎ 役職：特任講師

08

Mikiko Touyama

## 手の届く範囲での研究の話

私は臨床医で、大学院にも入りませんでした。研究は、臨床の中から始まりました。医師になって七年目の頃、ある患者さんとの出会いをきっかけに、薬剤性過敏症候群という新しい疾患概念の立ち上げから関わることになりました。この疾患にウイルスが関与することを見いだしたのが始まりですが、それが普遍的な事象であることを証明するために、多数の症例検体を全国から送っていた

き、検討することになりました。このため、ウイルス抗体価の測定、血液からのウイルスRNAの検出といった手技をから学ぶことになったのです。全く興味なかった「研究」という分野でしたが、自分の推測を自分で証明するという面白さを知ることになり、この臨床研究と平行して、皮膚の培養細胞を用いた基礎研究も行うようになり、現在に至ります。

私には3人の子供があり、出産は、医師になって四年目、八年目、十年目のとき

でした。ちょうど研究を始めたころに、二人目、三人目の子が生まれたことにな

ります。研究に使える時間は常に非常に限られていましたが、私自身の年齢が上がって臨床にとられる時間が減ってきたことと、無認可でしたが信頼できる保育所に子供たちを預かってもらえたこと、私自身の実家が近くで頼りやすい状況であったことなどの要因により、臨床医と研究を続けることができました。

研究というと、国内や国外留学をしなければならぬような印象があります。私自身は実験手技のほとんどを愛媛大学内で習得しました。同じ科で研究を続けていた先輩や同僚、あるいは他科の研究者に、全く知識のない状態から教えていただき、実験を組み立てていきました。その後ずっと、自分の持っているテクニックで勝負するという方針で研究してきました。ただ実際は、ひとつの手技を身につけると、それを応用して新たな手技を習得することができます。もちろん、同じ研究室のその実験に慣れた仲間

をお願いすることも多々あります。

さらに、研究には情報の収集が必要で、論文を読むことが欠かせません。大学にいる間の決して多くはない時間をできるだけ実験にあて、論文は持って帰って読むことにしていました。実際に論文を読むのは、夜、布団の中でした。子供に本を読み聞かせ、その後子供が寝るまで横で文献を読みあれこれ考えるのですが、この時間がとても貴重でした。もちろん、そのまま寝てしまうことも多かったのですが。

限られた時間で、自分のペースで研究をしていますので、ひとつの結果を得るまでには、大変時間がかかります。どんな成果を出す大きなラボを見ると落ち込むこともあります。ここにいるからこそ自分の筋道にそって研究できるのだと思うようにしています。たとえば一歩目から大きく羽ばたかなくとも、手の届く範囲から研究を始め、手の届く範囲で続けることはできるのです。

## Profile

略歴 / 1989年、愛媛大学医学部卒業、同皮膚科入局。1991年、松山市民病院皮膚科副医長。1994年、愛媛大学医学部皮膚科助教。2011年より現職。

## 女性研究者が

### 安心して子育てできる

### 環境を。

## 伊地知 紀子

いちちのりこ

◎ 所属・愛媛大学法文学部人文学科  
◎ 役職・准教授



これが私の生きる道？

愛媛大学に33歳で赴任し、今年ちょうど11年目を迎えました。私は最初から研究者を目指していたわけではありません。学部三年後学期、周囲が就職活動に走り出すなか、私は以前から「女性」というだけの賃金格差への疑問から就活になかなか踏み出せず、かといって公務員試験や教職科目には関心が向かない。好奇心旺盛というだけで大学院に入りました。そのあとは、心強い人の縁や研究チャンス、仲間たちに恵まれ、今日までやってくることができました。

私の専門は社会学・人類学・朝鮮地域研究です。フィールドは韓国・済州島および在日済州島出身者のいる地域です。研究を進めるなかで「面白いことは、やはりフィールドワークから生まれます。そして、文献でさらに知見を深め、研究仲間と共有したり、授業を通して学生へ伝えるなかで、さらに新たな学びが生まれます。こうした小さな発見の積み重ねの

日々はとても楽しいものです。

研究生活のなかで一番大変だったことは、育児と仕事の両立です。両立の問題は、妊娠時から始まります。入試試験監督が決まったときは妊娠2カ月目、まだ流産の可能性もあるこの時期に、丸二日の立ち仕事はやめたほうがいいと思いますが、学内の誰に相談すればいいのだろうと困りました。結局、体調不良を理由に休みましたが、違和感が残りました。少子化が叫ばれる時代に、なぜ産む側が気を回さなければならぬのだろう。子供が3歳を過ぎるまでは保護者を土日の試験監督から一切外すという基準が必要でしょう。産後は4カ月目から職場復帰しました。復帰後の疑問は、夜間主授業担当になること、その時の延長保育費についてでした。担当がやむを得ない場合、仕事に関わる出費は雇用側が負担すべきなのではないだろうか。「産み損」と感じる社会では、ますます女性は産まなくなると実感しました。

出産後、育児は休みと終わりのない仕

事となります。それまで授業や会議以外は自分で100%采配できた日々が、「私の時間」は一日二時間あればよいほう。もちろん、子供の成長とともに「私の時間」は少しずつ増えますが、それも5歳を過ぎてから。しかし、授業の準備も学生の指導も、子供の成長を待つてはくれません。そんなに大変なら育児を十分とつたらよいでしょう、という声が聞こえそうですが、あいにくシングルインカムの私の家庭にはそんな余裕はないのです。

このたび、女性未来教育センターができ、とても期待しています。持ち女性研究者が仕事を続けるコツは、最近流行の自己努力（自己責任）には決して還元できません。私の場合は、母が何度も兵庫から通い、同僚の配慮で何とかやって来ることができました。しかし、こうした環境は誰にでも用意されていません。女性研究者・職員・院生・学生のメンタル・就業環境などについて誰にでも対応できるセンターへ、愛媛大学が女性研究者の希望の星となるよう願っています。

Noriko Jichi

女性研究者からのメッセージ

### Profile

略歴／1989年、神戸市外国語大学英米学科卒業。1993年、大阪市立大学文学研究科社会学専攻前期博士課程修了。1997年、大阪市立大学文学研究科社会学専攻後期博士課程単位取得満期退学。1999年、博士(文学)(大阪市立大学)の学位取得。2000年、愛媛大学法文学部人文学科助教授。2007年より現職。

## 母親としての自分

「ロールモデル」と言われたとき、正直、少し違和感を覚えました。私は現在、妊娠中で、育児は未経験だからです（写真は友人の子どもです）。具体的なウハウウなどは何も言えません。ですので、母親を対象としたこれまでの研究の中で出会った女性の声から学んだこと、そしてこれから直面する子育てについて考えることを、お伝えしたいと思います。

母親研究は、大学院の修士課程から続いています。我が国では虐待のケースがあるたびに母親が責められます。その事態に至ってしまった原因はどこにあるのか、本当に母親だけが悪者なのか、母親だけを犯人扱いすることで重要なことが覆い隠されている気持ち悪さ、が研究をはじめたきっかけでした。実際には、いわゆる三歳児神話に代表される「母性愛神話」を女性がどのように受け入れながら、もしくは拒絶しながら子どもと向き合っているのか、アンケートならびにインタビューを併用して調査しています。アンケート調査では千人程度の対象者の傾

向をベースラインとして描くのですが、インタビュー調査では、直接、ひとりひとりの女性にお会いして、個人的なお話やご意見を聞くことになりました。

『仕事するよりきついですよね。そういう意味では、主人は、自分のやりたい仕事をずつと突き進んでやってきているじゃないですか。同じ、それぞれの自分のレベルで勉強してきて、ある程度の自分がやりたいことがやれて、なのに女性は出産でそれを閉ざされるじゃないですか。それがちよつと納得いかなくなってきた。主人は好きなだけ例えば学会で発表したりとか、外国行ったり、あちこち行って、自分の何かこう、ものを勝ち取っているけども、（それと同時に）子どものお父さんじゃないですか。私もお母さんなんだけど、そっち（仕事）の部分は、子育てにはまってる分、できない自分が悔しい。』

この声は、看護師として勤務されつつ看護学の研究を続けたいという希望を持つておられる女性のもので（括弧内は筆者の補足）。どんなに大変なときでもこの声に駆り立てられ、研究を進めることができました。そしてついに私自身も

母親としての自分に近づこうとしていきます。もちろん研究と実生活では異なることも多いでしょう。しかし、これまで多くの女性が悩みながら模索してこられた道にひとりの女性として立つことで、いろいろとリアルに見えてきたこともありま。これから続く後輩女性のためにも、微力ながらこの道をできる限りなだらかにかつ広く大きいものとしていくことが自分の役割だと考えております。

仕事と家庭との両立を目指すにしても、仕事か家庭かを選ぶ人生を生きるにしても、良いも悪いもありません。大切なことは、世間や周囲の思惑や雑音に惑わされない強さを持つこと、ある程度固太い神経を持つこと、自分を助けてくれる家族や職場の方々への感謝を忘れないこと、そして何より自分は何を望んでいるのかということを自覚しそれに基づき行動できる。agentつまりは主体的な行為責任者となることではないでしょうか。蛇足として、両立を選択する場合は、パートナーがどれだけ家庭役割に積極的な男性なのか、結婚前に見定めしておくことも必要かもしれません（笑）。

たくさん女性の声に  
支えられながら、母親としての  
自分に出会うまで。

江上 園子

えがみ そのこ

◎ 所属：愛媛大学教育学部  
◎ 役職：准教授

## Sonoko Egami



10

## Profile

略歴／2000年3月、早稲田大学卒業。2002年3月、九州大学大学院修士課程修了、修士（人間環境学）。2005年3月、お茶の水女子大学大学院博士後期課程単位取得退学、博士（人文科学）。2005年4月-2007年3月、科学技術振興機構（京都大学）研究員。2007年4月-2009年3月、北海道教育大学講師。2009年4月-2010年3月、北海道教育大学准教授。2010年4月より現職。

研究にワクワクする

気持ちを、

持ち続けてください。

土屋 由香

つちや ゆか

◎ 所属…愛媛大学法文学部 総合政策学科  
◎ 役職…教授



11

### Profile

略歴 / 大阪外国語大学卒業後、企業勤務を経て1992年、米国メリーランド大学歴史学部・修士課程修了(M.A)。広島大学・総合科学部助手を経て、2004年、米国ミネソタ大学アメリカ研究学部・博士課程修了(Ph. D.)。2004年4月より現職。

研究者(その他の専門職)を  
目指す女性に、伝えたいこと

研究者になりたいと思ったきっかけは、はじめて留学した米国メリーランド大学大学院で、一次史料を使った研究の面白さに触れたことです。メリーランド州に隣接する首都ワシントンDCには「国立公文書館」があります。米国では情報公開が進んでおり、「一定期間(現在では25年)」が過ぎた政府文書は、安全保障上や人権上の問題が無いと判断されれば公開されます。会議の議事録から大統領の書簡まで「え！こんなものも？」と思うものまで公開されています。身分証明書を出してカードを作れば、外国人でも自由に閲覧することができるようです。これらの史料を使って、外交政策がどのように立案・決定されたのか、誰がどのような役割を果たしたのか、大学院生でも「誰も知らなかったこと」を発見することが可能です。それは本当にワクワクする経験でした。

私の専門はアメリカ外交、とくに冷戦

期の広報文化外交です。最近の発見で特に興味を引かれたのは、1950〜60年代にかけて米国政府が「原子力の平和利用キャンペーン」の「環」として、何十本もの「原子力映画」を作って世界中で上映していたことです。2009年からこれらの映画とその背景について調査してきましたが、その上で福島原発の事故が起きました。ショックでしたが、いっそう研究しなくてはならないという使命感も感じています。

研究生活で大変だったことは、研究者になる決心が遅かったためにスタートが遅れ、しかも結婚・出産・博士号取得・就職という転機が次々に訪れ、なかなか落ち着いた研究環境を得られなかったことです。しかも修士・博士ともアメリカの大学だったために、先輩・後輩・恩師といった人間関係が大切な日本の学界で、コネも研究仲間も無く、最初はとて孤独でした。しかし、自分に「無い」ものについて、いくら嘆いても仕方ありません。嘆く暇があつたら少しでも良い研究をして前進あるのみ、と割り切ったら楽になりました。

研究者やその他の専門職を目指す後輩女性に伝えたいのは、辛抱強く良い仕事を続けていけば、きっと見てくれる人がいるということです。また多少回り道にしても、人生の軌跡を合わすことは可能です。スムーズに就職した人でも、途中で行き詰まることだってあります。昨今の就職事情は厳しいですが、あきらめないで頑張ってください。そして、研究にワクワクする気持ちが研究生活を続けるコツだと思います。(これらは、研究者を目指す女性でなくても当てはまると思います。)

最後に子育てについて。子どもはすぐ大きくなってしまうので、思いきり可愛がって楽しんでください！子どもを介した人間関係も貴重です。私は3歳前の子どもを連れて留学しましたが、子どもが友だちを作ってくれるので、大学関係者以外の人たちとの付き合いが広がり、アメリカ社会の色々な面を体験できました。それから「イクメンパパ」の協力はやはり大切ですので、パパの教育も忘れずに！



これから研究者になる

皆さんのご活躍を

期待しています。

高橋 憲子

たかはしのりこ

◎ 所属… 愛媛大学農学部 施設生産システム学コース  
◎ 役職… 助教



12

Noriko Takahashi

今までを振り返って

研究者になりたいと思っただけじゃなく、植物工場という研究分野で砂漠での農業や宇宙農業といった未来の農業に携わる研究ができると思ったことです。実際に携わってきた研究は、現場レベルの植物工場の基礎研究ですが、いつかはと思っております。博士課程に進学する際、将来に不安もありましたが、とにかく頑張れるところまで頑張ってみようと思えました。博士号取得後にアメリカでポストドクをしていたのですが、その間にたくさんの方と女性研究者と出会うことができました。同じ農学部内で、異なる研究分野のペルー人とインド人のポストドクの女性とルームシェアをしていたのですが、研究のことだけでなく、それぞれの国の文化や習慣を学ぶことができました。また、大

学の女性教員の数の多さにびっくりしました。アメリカでは博士課程の学生、ポストドクの女性の数も多かったです。

私が感じた日本とアメリカの大学の女性教員の環境の違いは、社会全体の家族に対する価値観の違いです。アメリカでは、女性教員も男性教員も家族との時間を大切にするという理由で、特別な場合を除き、ほとんどの教員は、17時には帰宅されます（大体、夜遅くまで残っているのはアジア人です）。また、休日も家族と過ごす時間を大切にされています。そういった面で、アメリカは女性教員にとって恵まれた環境だと感じました。日本の大学は、女性教員が少ないと言われていますが、博士課程に進学する女性も少ないのが大きな原因だと考えられます。女性研究者を育てる環境作りが重要になってくると思います。

後輩へのメッセージは、女性研究者になるには、不安な面もあると思いますが、大学に併設されている女性未来育成センター等には、アドバイスを頂ける先輩の方々がいらっしゃいます。このような機関を活用しながら、一人でも多くの女性研究者が活躍されることを期待しております。

Profile

略歴 / 2000年3月、近畿大学生物理工学部卒業。2002年3月、大阪府立大学大学院農学生命科学博士前期課程修了。2006年3月、東京大学大学院農学生命科学博士後期課程修了。2006年4月、オハイオ州立大学博士研究員。2008年10月、京都大学大学院農学研究科産官学連携研究員。2010年3月、日本植生株式会社研究員。大阪府立大学生命科学研究科客員研究員。2011年4月より現職。

# 卒業生インタビュー

Chie Tomikawa

## 研究者への道を歩みはじめた 愛媛大学卒業生にお話を伺いました。

### 研究内容について

研究室の大きなテーマは「生きて  
いるとはどういうことか？」です。

私が扱っているのはタンパク質の酵  
素で、その酵素がどう反応するの  
かメカニズムを見たり、酵素遺伝子が  
欠損したら生き物にどう影響が  
あるのかを研究したりしています。

「見」何の役に立つの？ 無くても良  
いんじゃないか？」と思ってしまうよ  
うなものでも、それが無いだけで生  
物の生育などに大きな影響を及ぼ  
すことがあるということが分かってき  
ました。調べ尽くされたように思わ  
れるものに関しても、まだまだ分か  
らないことがたくさんあって、のめり  
込んでしまいます。

### 研究の魅力は？

一つ解明できたように思えても、そ  
れの上でさらに次の疑問が派生する  
ので、終わりがありません。次から次へ  
と分からないこと、知りたいことが現  
れ、探っていきたいくなります。

私が扱っているのはバクテリアです  
が、我々ヒトに至るまでの多くの生  
物を系統的に見渡したとき、「この  
あたりで進化したのでは？」と思わ  
ず仮説を巡らせることがあります。  
空想や自分の中の仮説は自由な

ので、そういう瞬間が最近一番面白  
いと感じています。

### 大学時代に 成長したと感じること

成長なかどつかかりませんが、  
周りを気にしなくなったところだ  
と思います。学生時代は、どうしても他  
人からどう思われているかを気にして  
しまうことが多いと思いますが、周  
りを気にしなくなったおかげでやりたい  
ことをやれていると思っています。

あと、人見知りをしなくなった点が  
成長かもしれません。人見知りをして  
いるのは、他の研究者とのディスカッショ  
ンのチャンス逃してしまいます。興味  
があるなら、相手が同じような立場の  
研究者であれ、肩書きのある偉い先生  
であれ、こちらから積極的にコミュニ  
ケーションをとりにいく。そんな風にし  
ていると、興味の対象を発端に話題が  
広がり、思わぬアイデアや情報を得る  
ことができます。まだ研究経験は浅い  
ですが、人としても、科学者としても  
尊敬できる方々と出会えたことが、私  
の大きな財産となっています。

### 進路決定のきっかけは？

もともと「動物に関する仕事」に興  
味を持っていましたが、その時一番やり  
たかったのは料理だったので、高校卒



フランス国立科学研究センター研究員  
**富川 千恵** とみかわ ちえ

### Profile

略歴 / 鳥取県生まれ。高校卒業後、調理師専門学校を  
経て就職。その後一念発起し、愛媛大学応用化学科へ  
入学。2010年、理工学研究科物質生命工学修了 博士  
(工学)。2010年、The 9th Annual Meeting of  
Structural-Biological Whole Cell Project of  
Thermus thermophilus HB8 Whole Cell賞 受賞。

### 後輩たちへアドバイス

高校・大学受験などを控えている  
人にとっては、目の前のことを一つず  
つやるというのは一見気楽なようで、  
とても重要なことだと思います。何  
故、何のためにこれをしているのか、  
何がやりたいのか、ときどき立ち止  
まって考えてみるのもいいかもしれま  
せん。計画どおりにいかず、無駄なこ  
とをやっていると思うことがあるか  
もしれませんが、無駄だらけの人生  
も悪くないと思います。

### これからの目標・夢

十年先を考えるというより、今は  
目の前のことをやっつけていこうと思

## 5-4. アウトリーチ活動

### 他機関シンポジウム参加・発表

年度	月 日 曜日	内 容	備考
平成二十二年度	10月5日(火)	文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム参加(京都大学)	小島・前野・塚原
	10月8日(金)	第8回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加(和光・理研)	小島・前野
	11月14日(日)	大阪府立大学キックオフシンポジウムロールモデル講演	小島
	12月1日(水)	第2回中国四国男女共同参画シンポジウム参加(島根大学)	前野
	2月23日(水)	第1回四国女性研究者フォーラム共催・参加(香川大学)	小島・前野・山本
	3月2日(水)	日本学術会議主催公開講演会参加(東京)	塚原
	3月17日(木)	「広大システム改革による女性研究者活躍促進」シンポジウム参加(広島大学)	前野
平成二十三年度	10月22日(土)	男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム参加(国立女性教育会館)	前野
	11月1日(火)	女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム参加(筑波大学東京キャンパス)	小島・前野
	11月11日(金)	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム参加(岡山大学)	小島・前野・人事課職員
	11月12日(土)	男女共同参画シンポジウムin徳島大学参加	小島
	12月8日(木)	平成23年度「大学職員のための男女共同参画推進研修」参加(国立女性教育会館)	人事課職員

### 先行大学等訪問

年度	月 日 曜日	内 容	備考
平成二十二年度	10月4日(月)	京都大学女性研究者支援センター訪問	小島
	11月18日(木)	九州大学女性研究者キャリア開発センター、研究戦略企画室訪問	小島・前野
	12月2日(木)	岡山大学ダイバーシティ推進本部訪問、かいのき児童クラブ視察	前野・塚原・藤原
	12月6日(月)	広島大学男女共同参画室訪問、学童保育実施講義室視察	塚原
	3月3日(木)	東京農工大学女性未来育成機構訪問	小島
平成二十三年度	4月26日(火)	徳島大学AWAサポートセンター訪問	小島
	5月13日(金)	香川大学男女共同参画推進室訪問	小島
	8月4日(木)	北海道大学女性研究者支援室訪問	小島
	11月14日(月)	鳴門教育大学訪問	小島
	11月28日(月)	三重大学男女共同参画室訪問	小島
	12月8日(木)	名古屋大学男女共同参画室訪問	小島
	12月12日(月)	新居浜工業高等専門学校訪問	小島
	12月15日(木)	佐賀大学女性研究者支援室かささぎサポート・ラボ訪問	小島
1月12日(木)	愛媛県総合科学博物館訪問	小島	

### Ⅲ. 事業評価

愛媛大学女性研究者育成プランの事業評価は、当初は事業計画の中には入れていませんでしたが、評価委員により客観的に検証・評価、提言をいただき、本事業を実りあるものとするために、平成 23 年度に設置しました。評価委員会は設置要項に基づき、学外委員 2 人、学内委員 1 人から構成されます。

平成 24 年 3 月 6 日（火）10：00～12：30、第 1 回事業評価委員会を開催し、本事業に関する平成 22～23 年度の評価、提言を受けました。

#### 【総合評価・提言】

地域の大学に適合したプログラムを隙間無く実施していることが評価されました。今後は、研究支援員制度や女性教員増員策等の実効性を検証することや、事業の継続に向けて、一部学内経費による実績づくりを進めることも必要である等の提言を受けました。

## 今後に向けて

女性未来育成センターは、平成 22 年度後期から 23 年度の実質 1 年半で、当初計画していたほとんどのプログラムを立ち上げることができました。本事業が進むに連れて学内の理解は得られるようになってきたと思います。この間、本学で 2 つ目となる保育所「えみかキッズ」が城北メインキャンパスに開設され、長期休暇中の学童保育も始めるなど、育児に関するインフラ整備はかなり進みました。子育て中の女性・男性研究者への研究支援制度は、利用者から大変好評で、事業終了後も継続できるように努力する必要があります。今まで孤立しがちであった理系女性研究者は、セミナー・交流会などを通じて互いに会話を交わし、情報交換できるネットワークが形成されました。女子中高生の理工系選択イベントは、生徒、保護者双方の満足度が高く、今後も継続して行う予定です。今後は出張イベントも実施して理工系に興味を持つ女子中高生を増やしていき、理工系女子学生の拡充につなげたいと思います。また、女子中高生の理工系選択イベントを核として、学生・大学院生の自主的参加を進め、全世代育成システム「えみかキャリアサイクル」の構築を進める予定です。

女性教員増員は、数値にはまだ表れていませんが、工学部では今年度、本学で初めての女性限定公募を行い、平成 24 年度からは 10 年ぶりに女性教員が 1 人増える予定など、変化の兆しは現れ始めています。今後は、なぜ女性教員を採用するのが難しいのかについての理由の検証や、学部ごとの目標設定など、きめ細かい実質的な増員策を講じる必要があると思われまます。

平成 24 年 3 月に開催した事業評価委員会では、「地域の大学に適合したプログラムを隙間無く実施している。」との評価をいただきました。また、事業開始直後の平成 22 年 10 月に採点したお茶大インデックス(女性が働きやすい雇用環境を構築するためのチェック)は、点数 24 点(100 点満点)、総合評価 D (A～E) と低かったのですが、1 年後にはそれぞれ 50 点、C に向上しています。

事業最終年度となる平成 24 年度は、これまで立ち上げたプログラムを検証し、より実効性を高めるとともに、地域連携、学生への裾野拡大などについて重点的に取組み、本事業を全体的に充実させていく予定です。

**【地域連携】**

**【学生への男女共同参画講義の実施に向けての検討】**

**【全世代育成システム「えみかキャリアサイクル」構築】**

**【女性教員増員】**

#### IV. 資料

- 1) 事業参加者リスト
- 2) 女性未来育成センター活動年表
- 3) 女性未来育成センター運営委員会議事
- 4) 女性未来育成センター員打合せ会議事
- 5) 事業評価委員会議事
- 6) 新聞掲載記事
- 7) 愛媛大学の教員・学生数
- 8) 愛媛大学の女性教員・女子学生の状況
- 9) 規程

## 事業参加者

	氏名	所属部局	職名	役割
統括責任者	柳澤 康信		学長	統括責任
実施責任者	曲田 清維		副学長	実施責任
センター長	小島 秀子	女性未来育成センター 理工学研究科（工学系）	教授	センター運営
副センター長	佐藤 久子	理工学研究科（理学系）	教授	センター長補佐
スタッフ	前野 恵美	女性未来育成センター	特定助教	企画・推進
	塚原 久美	女性未来育成センター	特定助教	企画・推進
	藤原 三紀	女性未来育成センター	技術補佐員	事務全般
	山本 綾香	女性未来育成センター	技術補佐員	情報発信、広報
兼務センター員	兼平 裕子	法文学部	教授	運営の協力
	井上 彰	法文学部	准教授	運営の協力
	川瀬 久美子	教育学部	准教授	運営の協力
	堀 利栄	理工学研究科（理学系）	准教授	運営の協力
	松永 真由美	理工学研究科（工学系）	講師	運営の協力
	朱 霞	理工学研究科（工学系）	講師	運営の協力
	濱 耕子	医学系研究科	教授	運営の協力
	江口 真理子	医学系研究科	准教授	運営の協力
	柿原 文香	農学部	准教授	運営の協力
	高山 弘太郎	農学部	講師	運営の協力
	野本 ひさ	学生支援センター	教授	運営の協力
杉浦 美羽	無細胞生命科学工学研究センター	准教授	運営の協力	
事務局	上甲 克和	総務部	部長	事務体制の支援
	吉田 一恵	総務部人事課	課長	事務体制の支援
	武智 和康	総務部人事課	副課長	事務体制の支援

女性未来育成センター活動年表

年度	月 日 曜日	内 容	備考
平成二十二年 度	5月21日(金)	平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択	
	8月3日(火)	JST来学	
	7月13日(火)	愛媛大学女性未来育成センター発足	
	10月4日(月)	京都大学女性研究者支援センター訪問	小島
	10月5日(火)	文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム参加(京都大学)	小島・前野・塚原
	10月8日(金)	第8回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加(和光・理研)	小島・前野
	11月1日(月)	研究支援員制度・保育ニーズ調査(面談)開始	前野・塚原
	11月5日(金)	女性未来育成センター開所式	
	11月5日(金)	女性未来育成センターキックオフシンポジウム開催	
	11月14日(日)	大阪府立大学キックオフシンポジウムロールモデル講演	小島
	11月18日(木)	九州大学女性研究者キャリア開発センター、研究戦略企画室訪問	小島・前野
	11月30日(火)	第1回センター員顔合わせランチミーティング	
	12月1日(水)	第2回中国四国男女共同参画シンポジウム参加(島根大学)	前野
	12月2日(木)	岡山大学ダイバーシティ推進本部訪問、かいのき児童クラブ視察	前野・塚原・藤原
	12月6日(月)	広島大学男女共同参画室訪問、学童保育実施講義室視察	塚原
	12月22日(水)	第1回学生・若手研究者キャリアパスセミナー開催(城北地区・樽味地区)	
	1月4日(火)	平成22年度男女共同参画推進意識調査アンケート実施	
	1月5日(水)	冬休み学内学童保育試行(1月7日まで)	
	1月12日(水)	第1回管理職セミナー開催	
	2月10日(木)	ニューズレター創刊	
	2月15日(火)	愛媛大学沿岸環境科学研究センター第3回グローバルCOEキャリアパス講座共催	
	2月22日(火)	四国内国立5大学長による男女共同参画推進共同宣言発表	
	2月23日(水)	第1回四国女性研究者フォーラム共催・参加(香川大学)	小島・前野・山本
	2月23日(水)	HP開設	
	3月2日(水)	日本学術会議主催公開講演会参加(東京)	塚原
	3月3日(木)	東京農工大学女性未来育成機構訪問	小島
3月10日(木)	ニューズレター2号発行		

年度	月 日 曜日	内 容	備考
平成二十二年 度	3月11日(金)	岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室来室	
	3月11日(金)	第1回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム開催	
	3月17日(木)	「広大システム改革による女性研究者活躍促進」シンポジウム参加(広島大学)	前野
	3月23日(水)	第2回女性未来育成センター員打合せ会開催	
	3月29日(火)	女性未来育成センターリーフレット発行	
	3月29日(火)	ニューズレター3号発行	
平成二十三 年度	4月26日(火)	徳島大学AWAサポートセンター訪問	小島
	5月12日(木)	平成23年度研究支援員制度研究支援員募集	
	5月12日(木)	平成23年度前期研究支援員制度申請受付開始	
	5月13日(金)	香川大学男女共同参画推進室訪問	小島
	5月20日(金)	第1回ランチ交流会開催	
	6月1日(水)	長期休み学生イベントボランティア募集	
	6月2日(木)	女性未来育成センターひめルーム相談室開設	
	6月10日(金)	平成23年度愛媛大学女子中高生の理工系進路選択支援事業参加者募集	
	6月24日(金)	愛媛大学女性未来育成センター・医学部ジョイントセミナー開催	
	6月27日(月)	第1回メンタリング研修実施	
	7月14日(木)	ひめルーム相談室および交流スペース開設	
	7月21日(木)	夏休み学内学童保育開始(8月31日まで)	
	8月1日(月)	平成23年度後期研究支援員制度申請受付開始	
	8月2日(火)	メールマガジン「ひめーる創刊号」配信	
	8月4日(木)	ニューズレター4号発行	
	8月4日(木)	北海道大学女性研究者支援室訪問	小島
	8月8日(月)	愛媛大学オープンキャンパス「理系女子チャレンジ！」開催	
	8月11日(木)	ひめルーム相談室プチ講座開催	
	8月24日(水)	ひめルーム相談室プチ講座開催	
	8月26日(金)	第3回女性未来育成センター員打合せ会開催	
9月1日(木)	愛媛大学城北保育所「えみかキッズ」開設		

年度	月 日 曜日	内 容	備考
平成二十三年 度	9月1日(木)	第1回女性未来育成センター運営委員会開催	
	9月12日(月)	愛媛大学女性研究者ネットワーク運用開始	
	9月15日(木)	第2回女性未来育成センター運営委員会開催	
	9月15日(木)	愛媛県総合科学博物館来室	
	9月16日(金)	メールマガジン「ひめーる2号」配信	
	9月26日(月)	平成23年度後期研究支援員制度利用申請者再募集	
	9月27日(火)	第2回ランチ交流会開催	
	9月29日(木)	ロールモデル集「素顔の愛媛大学女性研究者」発行	
	9月30日(金)	女性研究者メンター制度開始	
	10月1日(土)	平成23年度愛媛大学女子中高生の理工系進路選択支援事業(工学系コース)開催	
	10月13日(木)	第4回女性未来育成センター員打合せ会開催	
	10月19日(水)	第2回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム開催	
	10月22日(土)	男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム参加(国立女性教育会館)	前野
	10月29日(土)	平成23年度愛媛大学女子中高生の理工系進路選択支援事業(理学系コース)開催	
	11月1日(火)	女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム参加(筑波大学東京キャンパス)	小島・前野
	11月4日(金)	第2回メンタリング研修実施	
	11月10日(木)	第3回女性未来育成センター運営委員会開催	
	11月11日(金)	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム参加(岡山大学)	小島・前野・人事課職員
	11月12日(土)	「あいだい博2011」出展	
	11月12日(土)	男女共同参画シンポジウムin徳島大学参加	小島
	11月14日(月)	鳴門教育大学訪問	小島
	11月25日(金)	メールマガジン「ひめーる3号」配信	
	11月28日(月)	三重大学男女共同参画室訪問	小島
	12月7日(水)	第4回女性未来育成センター運営委員会開催	
	12月8日(木)	名古屋大学男女共同参画室訪問	小島
	12月8日(木)	平成23年度「大学職員のための男女共同参画推進研修」参加(国立女性教育会館)	人事課職員
12月10日(土)	医学部「女性研究者交流セミナー」開催		
12月12日(月)	新居浜工業高等専門学校訪問	小島	
12月13日(火)	メールマガジン「ひめーる4号」配信		

年度	月 日 曜日	内 容	備考
平成二十三年 年度	12月15日(木)	佐賀大学女性研究者支援室かささぎサポート・ラボ訪問	小島
	12月19日(月)	ニューズレター5号発行	
	12月22日(木)	理学部「女子の生き方応援セミナー」開催	
	12月23日(木)	HP電子掲示板開設	
	12月26日(月)	冬休み学内学童保育実施(平成24年1月6日まで)	
	1月11日(水)	第5回女性未来育成センター運営委員会開催	
	1月12日(木)	愛媛県総合科学博物館訪問	小島
	1月13日(金)	理系研究者紹介「ランチョンセミナー」開催	
	1月18日(水)	農学部「キャリア形成を考えるランチ会」開催	
	1月19日(木)	ビデオdeランチ@ひめルーム開催	
	1月23日(月)	平成24年度前期研究支援員制度申請受付開始	
	1月26日(木)	弘前大学理工学研究科 教育研究支援室来室	
	1月26日(木)	長崎大学男女共同参画推進センター来室	
	1月27日(金)	第2回四国女性研究者フォーラム開催	
	2月16日(木)	第5回女性未来育成センター員打合せ会開催	
	2月22日(水)	メールマガジン「ひめーる5号」配信	
	3月1日(木)	愛媛大学女性未来育成センター・社会連携推進機構ジョイントセミナー開催	
	3月5日(月)	平成24年度女子中高生の理系進路選択支援事業学生連絡会顔合わせ会開催	
	3月6日(火)	第1回事業評価委員会開催	
	3月17日(土)	愛媛大学沿岸環境科学センターサイエンス女子会共催	
	3月19日(月)	第6回女性未来育成センター運営委員会開催	
	3月22日(木)	JST来学	
	3月26日(月)	春休み学内学童保育実施(4月6日まで)	
	3月28日(水)	岩手大学男女共同参画推進室来室	
	3月29日(木)	両立支援BOOK発行	
	3月29日(木)	第2回四国女性研究者フォーラム報告書発行	
	3月29日(木)	ニューズレター6号発行	
	3月29日(木)	愛媛大学女性未来育成センター平成22～23年度報告書発行	

## 女性未来育成センター運営委員会議事

### 第1回運営委員会 平成23年9月1日(木)

#### 【議題】

1. 平成23年度後期事業計画について
2. 第2回女性未来育成センター公開シンポジウムについて
3. 第2回四国女性研究者フォーラムについて
4. 女子中高生の理工系進路選択支援事業連絡会立ち上げについて
5. 外部評価委員会について

#### 【報告】

1. 平成23年度前期進事業捗報告
2. 女性未来育成センター規程改正について
3. 女性未来育成センター運営委員会名簿

#### 【資料】

1. 事業計画概要案
2. 第2回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム開催要領案
3. 第2回四国女性研究者フォーラム開催要領案
4. 評価委員名簿案
5. 平成23年度事業進捗報告
6. 国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター規程
7. 運営委員会名簿案

### 第2回運営委員会 平成23年9月15日(木)

#### 【議題】

1. 女性研究者の研究活動支援促進について
2. 第2回女性未来育成センター公開シンポジウムについて

#### 【資料】

1. 女性研究者研究活動支援促進
2. 愛大女性研究者育成プラン図
3. 第2回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム開催要領案

### 第3回運営委員会 平成23年11月10日(木)

#### 【議題】

1. 第2回四国女性研究者フォーラムについて
2. 事業評価委員会設置要領案について

#### 【報告】

1. 女性研究者の研究活動支援促進及び女子学生キャリアパス支援促進について
2. その他

#### 【資料】

1. 第2回四国女性研究者フォーラム案

## 2. 女性研究者育成プラン事業評価委員会要項

### 第4回運営委員会 平成23年12月7日(水)

#### 【報告】

1. キャリアパス支援(理学部・沿岸センター・医学部)
2. 第2回四国女性研究者フォーラムについて
3. その他

#### 【資料】

1. 企画案1:女子の生き方応援セミナー
2. 企画案2:女性研究者紹介ランチセミナー
3. 企画案3:医学部女性研究者セミナー

### 第5回運営委員会 平成24年1月11日(水)

#### 【議題】

1. 愛媛大学女性未来育成センター・社会連携推進機構ジョイントセミナーについて

#### 【報告】

1. 第2回四国女性研究者フォーラム
2. キャリアパスセミナーについて(医学部・理学部・沿岸・農学部)

### 第6回運営委員会 平成24年3月19日(月)

#### 【議題】

1. センター運営について
2. 平成24年度事業計画について

#### 【報告】

1. 第2回女性研究者フォーラムについて
2. 愛媛大学女性未来育成センター・社会連携推進機構ジョイントセミナーについて
3. 第1回事業評価委員会について

#### 【資料】

1. 平成24年度事業計画

## 女性未来育成センター員打合せ会議事

### 第1回センター員打合せ会 平成22年11月30日(火)

#### 【議題】

1. 今年度実施予定事業
2. 今年度開催予定セミナー
3. 来年度実施予定事業

#### 【報告】

1. 女性未来育成センター発足について
2. 開所式について
3. キックオフシンポジウムについて

#### 【資料】

1. 女性未来育成センター構成員名簿
2. 国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター規程
3. 愛媛大学女性研究者育成プラン要旨
4. 愛媛大学女性研究者育成プランポスター
5. 開所式報告記事
6. キックオフシンポジウムのパンフレット
7. キックオフシンポジウム報告記事
8. 女性未来育成センター紹介、キックオフシンポジウム新聞記事
9. アンケート案2種
10. 研究支援員制度支援対象者案

### 第2回センター員打合せ会 平成23年3月23日(水)

#### 【議題】

1. 兼務センター員の職務等について
2. 平成23年度事業計画について

#### 【報告】

1. 平成22年度事業報告について

#### 【資料】

1. 兼務センター員の職務等に関する申合せ案
2. 平成23年度愛媛大学女性未来育成センター事業計画案
3. 研究支援員制度改正
4. 女子中高生の理系進路選択支援事業
5. 平成22年度事業報告
6. 四国内国立5大学宣言

### 第3回センター員打合せ会 平成23年8月26日(金)

#### 【議題】

1. 平成23年度後期事業計画について

2. 第2回女性未来育成センター公開シンポジウムについて
3. 第2回四国女性研究者フォーラムについて
4. メンター制の運用について
5. 女性研究者ネットワーク構築について

【報告】

1. 平成23年度前期進捗報告
2. 女性未来育成センター規程改正について
3. 運営委員会設置について
4. 外部評価委員会設置について

【資料】

1. 事業計画概要案
2. 第2回愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム開催要領案
3. 第2回四国女性研究者フォーラム開催要領案
4. 第1回四国女性研究者フォーラムチラシ
5. メンター制度案
6. 女性研究者ネットワーク構築
7. 他大学女性研究者ネットワーク例
8. 平成23年度事業進捗報告
9. 国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター規程
10. 運営委員会名簿
11. 評価委員名簿

**第4回センター員打合せ会**          平成23年10月13日（木）

【議題】

1. 女性研究者研究活動支援促進について
2. 学生男女共同参画講座について

【資料】

1. 女性研究者研究活動支援促進他大学例
2. 学生男女参画講座案

**第5回センター員打合せ会**          平成24年2月16日（木）

【議題】

1. 来年度事業計画について

【報告】

1. 第2回四国女性研究者フォーラムについて
2. 愛媛大学女性未来育成センター・社会連携推進機構ジョイントセミナー について
3. 医学科女性支援組織について

【資料】

1. 平成24年度事業計画修正案
2. 平成24年度事業計画カレンダー修正案

3. 事業年次計画概要案
4. 地域連携イメージ図
5. 女性未来育成センター相談業務の改善について
6. 男女共同参画入門
7. 女性研究者環境改善素案
8. 愛媛大学女性未来育成センター・社会連携機構ジョイントセミナー趣旨
9. 愛媛大学女性未来育成センター・社会連携機構ジョイントセミナーチラシ
10. 医学科女性研究者支援組織

## 事業評価委員会議事

第1回事業評価委員会 平成24年3月6日(火) 10:00~12:30

### 【議事に先立ち】

1. 事業評価委員会開催の趣旨説明
2. 委員の紹介
3. 委員長の選出

### 【議題】

1. 「愛媛大学女性研究者育成プラン事業」の説明と質疑応答
2. 「愛媛大学女性研究者育成プラン事業」に対する評価・提言

### 【資料】

1. 国立大学法人愛媛大学女性研究者育成プラン事業評価委員会設置要項
2. 委員名簿
3. 活動報告書

## 愛媛大の女性研究者育成プラン

**キャリア支援**  
研究支援員制度の実施  
相談体制の整備  
女性研究者ネットワーク構築

**育児・介護支援**  
学内学童保育所の新設  
学内保育所の運用  
研究支援員 保育人材

**次世代支援**  
キャリアパスセミナー開催  
キャリア相談の実施  
女性研究者との交流会開催

女子中高生理系選択支援

女性研究者  
女性教員  
女子学生  
女子院生  
女子中高生

愛媛大マスコット「えみか」

2020年までに20%に女性教員を積極的に拡大

女性教員採用で学科に300万円支給

意識改革  
セミナー、シンポジウム開催

女性未来育成センター新設  
ホームページ情報発信

「えみかキャリアサイクル」  
すべての世代が互いに助け合い成長するシステム構成

### 学童保育所や補助員設置 学生や院生対象も

愛媛大では、学生約8千人中、女子学生が40%を占めるのに対し、教員のうち女性は12%。理系の理・工・農学部に限れば、女性教員の比率は、5・6%にとどまり低い数字にとどまっている(2009年5月現在)。

こうした状況は、女子学生の学業への意欲に影響するほか、男女共同参画時代に対応できず、大学全体の活力をそそぐことになると懸念。10年度の文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の採択を受け、女性未来育成センターを中心に、キャリア形成や育児サポート、採用支援を推進する。

専任女性教員を新規に採用した場合には、その学科に別途、助教人件費の2分の1(約300万円)を支給する制度を導入。育児などで研究時間の確保が困難な教員を大学院生が補助する「研究支援員」制度や、夏休み中に教職員の手もが通える学童保育所の城北キャンパスへの設置も計画している。

ほかにも女子学生や大学院生を対象にしたキャリア相談などで次世代研究者を育成するなど「すべての世代が助け合い、成長するシステム」を構築し、20年度までに女性教員比率を20%に上げることを目指す。

小島センター長は「女性研究者が、一番大変なのは育児。研究の進捗は早く、1年休んだら研究者として復帰できない」とし「男性でも女性でもずっと働けるよう、社会全体でバックアップしていくことも、国の将来にとって大きな問題。3年間で下地をこすり、大学を変えていきたい」と語り、5日には、女性未来育成センターの事業開始を記念したシンポジウムを松山市文京町の愛媛大南加ホールで開催。一般の参加も可能で無料。問い合わせは同センターへ電話089(927)8602。(坂本敦志)



愛媛大の女性研究者育成シンポジウムで講演する東邦大理学部の大島範子学部長  
11月5日午後、松山市文京町

## 女性研究者育成策探る 愛媛大でシンポ

女性研究者の支援や採用拡大を目指す「愛媛大女性未来育成センター」の事業開始を記念したシンポジウムが5日、松山市文京町の同大であり、学生や教職員ら約180人が講演を通じ、男女が共に輝く社会のあり方を探った。

愛媛大では、学生約8千人中、女子学生が40%を占めるのに対し、教員のうち女性は12%にとどまっている。こうした状況を問題視し、2010年度の文部科学省モデル育成事業の採択を受け、女性未来育成センターを中心に、女性のキャリア形成や育児サポートを推進。20年度までに女性教員比率を20%に上げることを目指す。

シンポでは、文科省科学技術・学術政策局基盤政策課の板倉周一郎課長が講演。国や全

国の大学での女性研究者支援策を紹介し「男性の意識改革を進め、地域を支え、リードし、世界と闘う大学になることを期待する」と激励した。

また、「日本女性科学者の会」会長で東邦大理学部(千葉)の大島範子学部長が研究生活を振り返りながら「女性の社会参加は多様性をもたらす、新しい価値を生み出すきっかけになる」と社会の幅広い支援の必要性を説いた。(坂本敦志)

愛媛新聞社掲載了承済み

## 女子も理工系に興味を

理工系分野で活躍する女性研究者が女子中高生に仕事や研究の魅力などを紹介した愛媛大のイベント

11日午前、松山市文京町



愛媛大(松山市文京町)は1日、女子中高生に理工系分野への関心を高めるため、講演や施設見学を通じて、研究や仕事の魅力を伝えた。

愛媛大女性未来育成センターが初めて開催。センターによると、愛媛大の女子学生の割合は全体では40%だが、工学部ではわずかに9%という。

イベントでは、愛媛大大学院1年で、生産環境工学専攻の渡部桂子さん(22)が、文系科目の方が得意だったが、人生で何をやりたかを考え理工系を選んだと説明。「物理などが苦手だが、自分のやりたい道だからこそ頑張ることができた」と強調した。

参加者らは、機械や環境建設、応用化学など工学部6学科の研究室なども見学。現役学生とも交流した。(杉本賢司)

女性研究者2人が仕事のやりがいなどを紹介。仕事の内容に男女差がないことや、女性ならではの視点や評価された経験を語った。建築などに関心があるという松山西中等教育学校3年の田村まりなさん(15)は「工学でもいろんな分野がある」と分かった。文系科目の方が得意だけど、少し苦手を数学を頑張りたい」と話していた。

## 女性研究者育成 支援へ

松山で四国の280人が議論

四国女性研究者フォーラムのパネルディスカッションで話し合う若手研究者

12.1.28(土) 27日午後、愛媛大



女性研究者の育成を地域で支援しようと、四国女性研究者フォーラムが27日、松山市文京町の愛媛大であり、四国4県の大学や企業関係者、市民ら約280人が参加。若手研究者の活躍促進などをテーマに議論した。

文部科学省生涯学習政策局の板東久美子局長が講演。先進国の中で女性研究者の割合が低いとされる日本について、家庭と仕事の両方の困難さや男性優先の評価意識などを指摘し、「多様な人材の育成や知的創造の中核である大学こそ男女共同

参画の推進を」と呼び掛けた。

神戸大の相馬芳枝特別顧問も、科学技術の発展に多様性が必要として「女性の参加は多様性の指標」と強調。育児中の研究者への支援員配置や女性教員数の増計画など同大の取り組みを紹介した。

男女の若手研究者5人によるパネルディスカッションもあり、大学に望む環境整備などを話し合った。

フォーラムは愛媛大、鳴門教育の四国国立大学で昨年開催している。(杉本賢司)

『注』 「文部科学省生涯学習政策局の板東局長」とあるのは、「文部科学省高等教育局の板東局長」

愛媛新聞社掲載了承済み

愛媛大学教員数と女性比率

(平成22年5月1日現在)

部 局	専任教員											専任女性教員 比率(%)
	教授		准教授		講師		助教		合計			
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計	
法文学部	6	55	9	31	3	5	0	1	18	92	110	16.4%
教育学部	5	45	7	31	5	8	0	0	17	84	101	16.8%
理工学研究科(理学系)	1	25	2	22	0	0	2	14	5	61	66	7.6%
医学系研究科(医学専攻)	0	30	1	32	0	5	11	45	12	112	124	9.7%
(看護学専攻)	7	3	2	0	2	0	10	1	21	4	25	84.0%
附属病院	0	2	0	15	1	28	9	51	10	96	106	9.4%
理工学研究科(工学系)	1	43	0	40	0	8	2	28	3	119	122	2.5%
農学部	0	38	3	28	0	1	2	10	5	77	82	6.1%
スーパーサイエンス特別コース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
連合農学研究科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
連合法務研究科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
教育・学生支援機構	1	2	1	12	0	2	1	0	3	16	19	15.8%
社会連携推進機構	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
知的財産本部	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
地域創成研究センター	0	1	1	1	0	0	0	0	1	2	3	33.3%
防災情報研究センター	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
南予水産研究センター	0	3	0	3	0	0	1	0	1	6	7	14.3%
先端研究推進支援機構	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2	0.0%
沿岸環境科学研究センター	0	5	0	4	0	0	0	5	0	14	14	0.0%
地球深部ダイナミクス研究センター	0	3	0	2	0	0	0	6	0	11	11	0.0%
無細胞生命科学工学研究センター	0	4	1	2	0	1	0	1	1	8	9	11.1%
総合科学研究支援センター	0	0	0	6	0	0	0	4	0	10	10	0.0%
東アジア古代鉄文化研究センター	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0.0%
宇宙進化研究センター	0	2	0	1	0	0	0	1	0	4	4	0.0%
プロテオ医学研究センター	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0.0%
国際連携推進機構	0	3	3	1	0	1	0	0	3	5	8	37.5%
総合情報メディアセンター	0	1	0	3	0	0	0	1	0	5	5	0.0%
ミュージアム	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3	3	0.0%
総合健康センター	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3	3	0.0%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	21	277	30	239	11	61	38	169	100	746	846	11.8%

\* 専任教員：パーマネントポジション、任期を付さない安定的な職。但し、機関全体で教員に対し再任可能な任期を付している場合はパーマネントポジションとする。再任可能な任期制の適用を受ける特定教員、特任教員、客員教員、特命教員、グローバルCOE教員等は含まない。

愛媛大学教員数と女性比率(テンポラルポジション)

(平成22年5月1日現在)

部 局	テンポラルポジション													女性教員 比率(%)	
	教授		准教授		講師		助教		研究員		合計				
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	計		
法文学部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	100.0%	
教育学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	100.0%
理工学研究科(理学系)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0.0%
医学系研究科(医学専攻)	0	5	1	3	0	1	3	6	2	1	6	16	22	27.3%	
(看護学専攻)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
附属病院	0	0	0	0	1	0	5	13	0	0	6	13	19	31.6%	
理工学研究科(工学系)	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	4	4	0.0%	
農学部	0	2	1	2	0	0	0	3	0	4	1	11	12	8.3%	
スーパーサイエンス特別コース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
連合農学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
連合法務研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
教育・学生支援機構	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	3	5	40.0%	
社会連携推進機構	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0.0%	
知的財産本部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
地域創成研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
防災情報研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
南予水産研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	50.0%	
先端研究推進支援機構	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
沿岸環境科学研究センター	0	1	1	4	0	0	1	2	5	16	7	23	30	23.3%	
地球深部ダイナミクス研究センター	1	1	1	0	0	0	0	1	1	12	3	14	17	17.6%	
無細胞生命科学工学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	2	7	9	22.2%	
総合科学研究支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東アジア古代鉄文化研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0.0%	
宇宙進化研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0.0%	
プロテオ医学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	0.0%	
国際連携推進機構	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.0%	
総合情報メディアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
ミュージアム	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%	
総合健康センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他	0	1	0	0	0	0	0	1	0	6	0	8	8	0.0%	
合計	1	17	5	12	1	1	9	27	14	57	30	114	144	20.8%	

\* テンポラルポジション: 任期の適用がある職。再任の可、不可に拘わらず任期制の適用を受ける特定教員、特任教員、客員教員、特命教員、グローバルCOE教員、上級研究員、特定研究員、グローバルCOE研究員等。

愛媛大学における学生数と女性比率

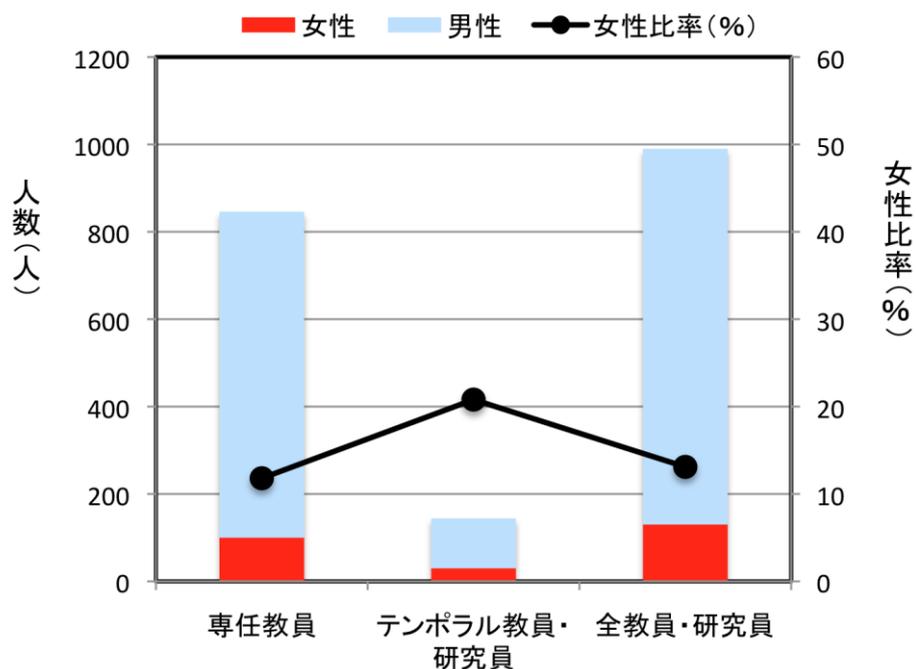
(平成22年5月1日現在)

平成22年度(学生:2010年5月1日現在)	学部学生			大学院生						合計		総合計	女子学生比率(%)
				修士課程			博士課程						
	女	男	女比率%	女	男	女比率%	女	男	女比率%	女	男		
部局													
法文学部	1,396	995	58.4%	31	28	52.5%	-	-	-	1,427	1,023	2,450	58.2%
教育学部	642	356	64.3%	52	37	58.4%	-	-	-	694	393	1,087	63.8%
理工学研究科(理学系)	263	756	25.8%	32	131	19.6%	17	33	34.0%	312	920	1,232	25.3%
医学系研究科(医学専攻)	217	389	35.8%	-	-	-	27	89	23.3%	244	478	722	33.8%
(看護学専攻)	247	17	93.6%	36	5	87.8%	-	-	-	283	22	305	92.8%
附属病院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
理工学研究科(工学系)	217	2,064	9.5%	19	445	4.1%	7	39	15.2%	243	2,548	2,791	8.7%
農学部	365	433	45.7%	59	118	33.3%	-	-	-	424	551	975	43.5%
スーパーサイエンス特別コース	20	29	40.8%	-	-	-	-	-	-	20	29	49	40.8%
連合農学研究科	-	-	-	-	-	-	38	90	29.7%	38	90	128	29.7%
合計	3,367	5,039	40.1%	229	764	23.1%	89	251	26.2%	3,685	6,054	9,739	37.8%

## 愛媛大学の女性教員・女子学生の状況

愛媛大学の専任教員（パーマネントポジション）は、平成22年5月1日現在、846在籍しており、そのうち女性教員は100人、女性比率は11.8%です。テンポラルポジションの教員と研究員は114人で、女性比率は20.8%（30人）です。両方合わせた全教員・研究員（全研究者）数は990人であり、女性比率は13.1%となっています。

愛媛大学の教員・研究員数と女性比率（平成22年5月1日現在）

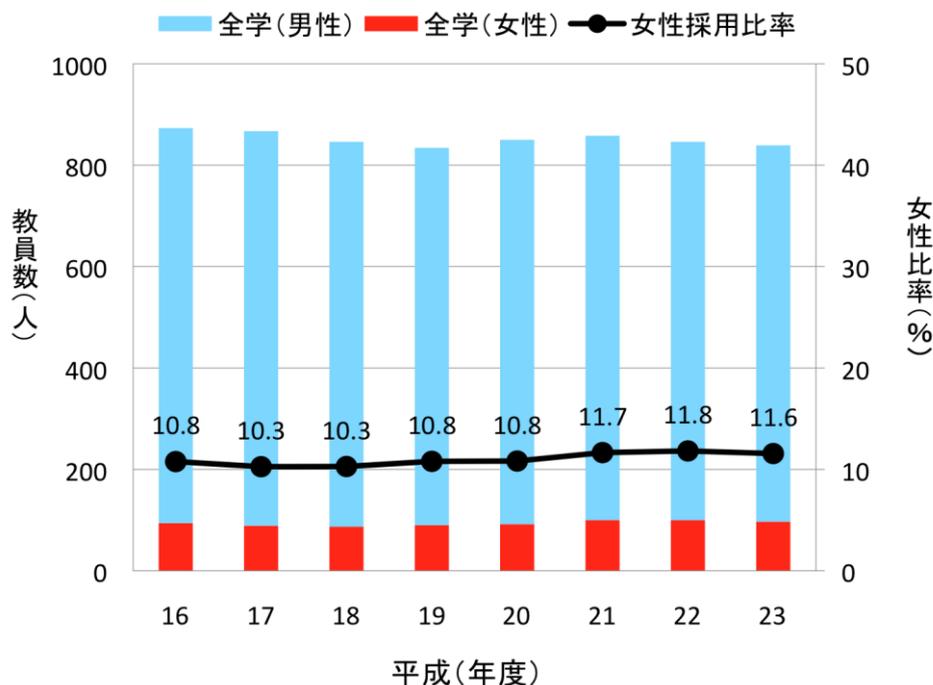


全教員・研究員数と女性比率（平成22年5月1日現在）

	女性	男性	合計	女性比率 (%)
専任教員	100	746	846	11.8
テンポラル教員・研究員	30	114	144	20.8
全教員・研究員	130	860	990	13.1

愛媛大学の全学の専任教員数は、平成16～23年の間、850人前後で推移しています。そのうち女性教員比率は漸増傾向にあるものの、平成16年度の10.8%から平成23年度の11.6%と7年間でわずか1%程度増加したにすぎません。

### 全学の教員数と女性比率の経年変化



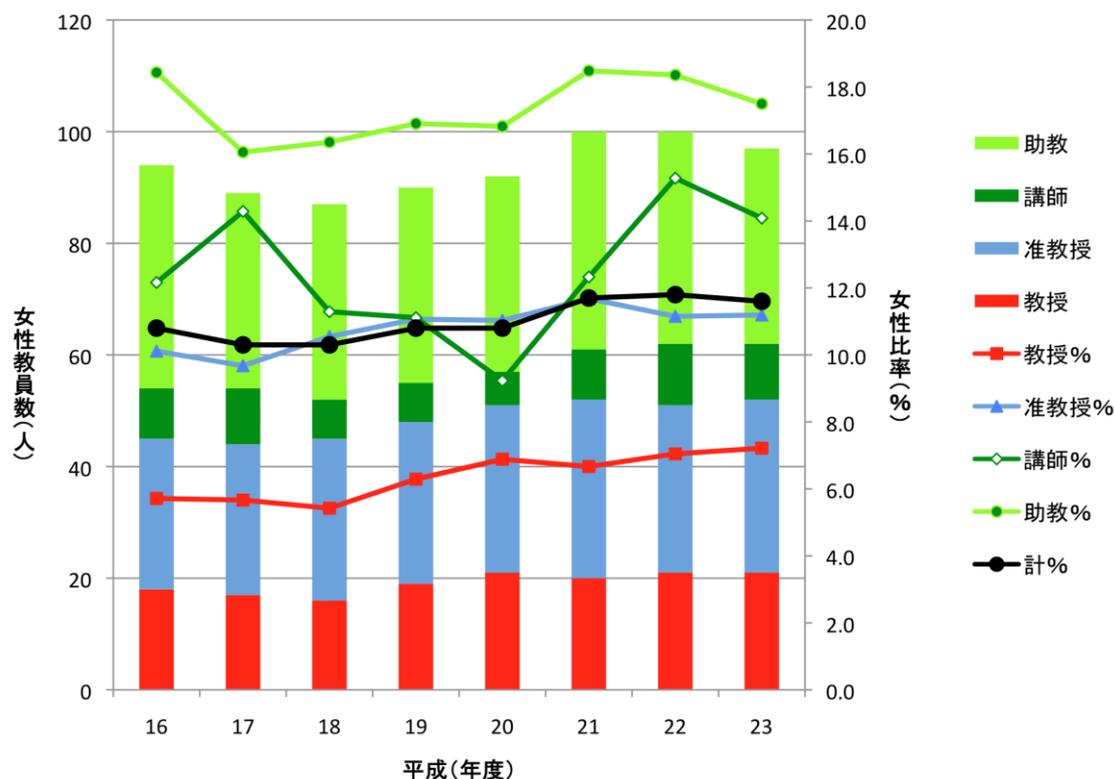
教員数の経年変化

(平成16～23年度 各年度5月1日現在)

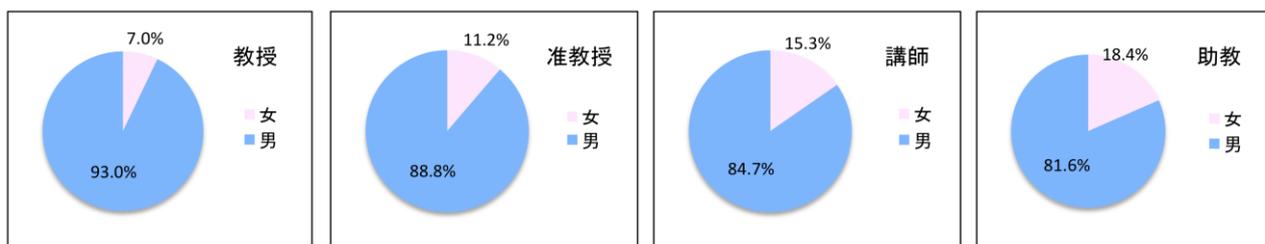
平成(年度)	16	17	18	19	20	21	22	23
全学(女性)	94	89	87	90	92	100	100	97
全学(男性)	779	778	759	744	758	758	746	742
理・工・農(女性)	9	9	9	11	11	13	13	12
理・工・農(男性)	301	289	275	266	264	266	257	258
理学(女性)	3	3	3	4	4	5	5	4
理学(男性)	65	63	59	57	58	60	61	61
工学(女性)	3	3	3	3	3	3	3	3
工学(男性)	136	131	129	121	122	127	119	121
農学(女性)	3	3	3	4	4	5	5	5
農学(男性)	100	95	87	88	84	79	77	76
医(医学科・女性)	12	7	10	11	12	12	12	11
医(医学科・男性)	129	131	122	121	119	113	112	112
医(看護学科・女性)	20	20	20	21	21	21	21	19
医(看護学科・男性)	3	3	3	3	4	4	4	4
病院(女性)	13	11	8	7	9	12	10	9
病院(男性)	85	88	97	95	94	95	96	94
法文(女性)	17	17	18	17	17	17	18	18
法文(男性)	108	101	102	102	99	97	92	92
教育(女性)	15	15	15	15	15	18	17	18
教育(男性)	94	92	88	85	89	85	84	80

愛媛大学の女性教員の比率は、職階が上がる毎に低下し、平成22年5月1日現在、教授ポスト7.0%、准教授11.2%、講師15.3%、助教18.4%となっています。

職階別の女性教員数と比率の経年変化（各年5月1日現在）

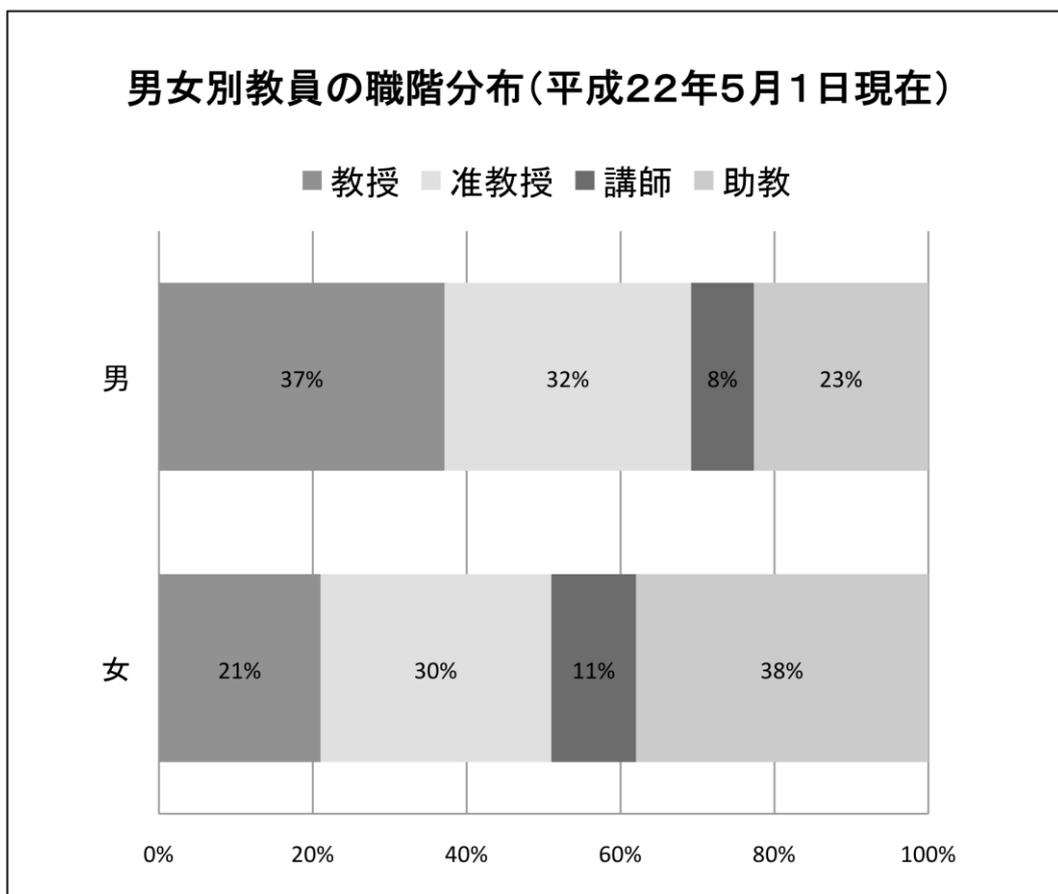


教員の職階毎の男女比（平成22年5月1日現在）

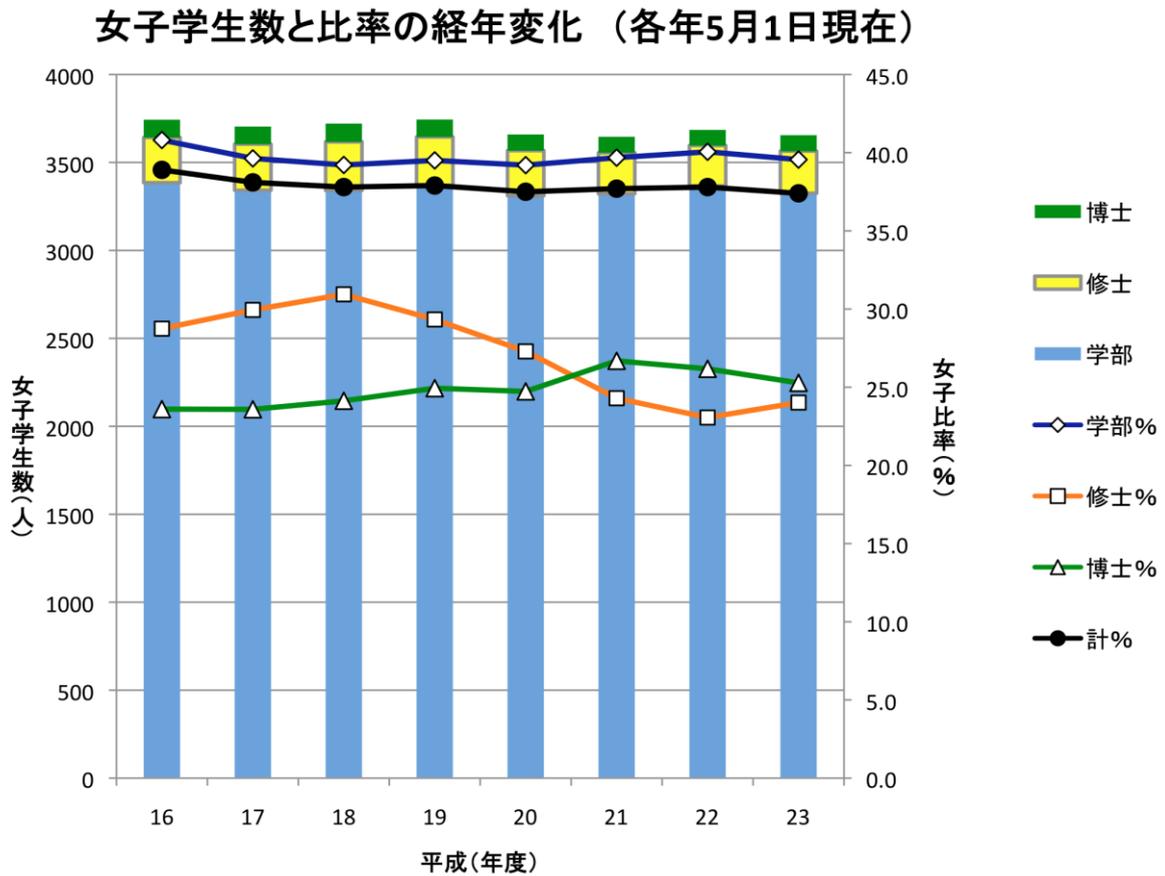


年度	専任教員												専任女性教員比率 (%)
	教授			准教授			講師			助教			
	女	男	女性%	女	男	女性%	女	男	女性%	女	男	女性%	
16	18	297	5.7	27	240	10.1	9	65	12.2	40	177	18.4	10.8
17	17	283	5.7	27	252	9.7	10	60	14.3	35	183	16.1	10.3
18	16	279	5.4	29	246	10.5	7	55	11.3	35	179	16.4	10.3
19	19	283	6.3	29	233	11.1	7	56	11.1	35	172	16.9	10.8
20	21	284	6.9	30	242	11	6	59	9.23	35	173	16.8	10.8
21	20	280	6.7	32	242	11.7	9	64	12.3	39	172	18.5	11.7
22	21	277	7.0	30	239	11.2	11	61	15.3	38	169	18.4	11.8
23	21	270	7.2	31	246	11.2	10	61	14.1	35	165	17.5	11.6

男女別の教員の職階分布は、男性は、教授、准教授、助教の比がほぼ4:3:2であるのに対して、女性も2:3:4であり、男性の4割は教授、女性の4割は助教となっています。



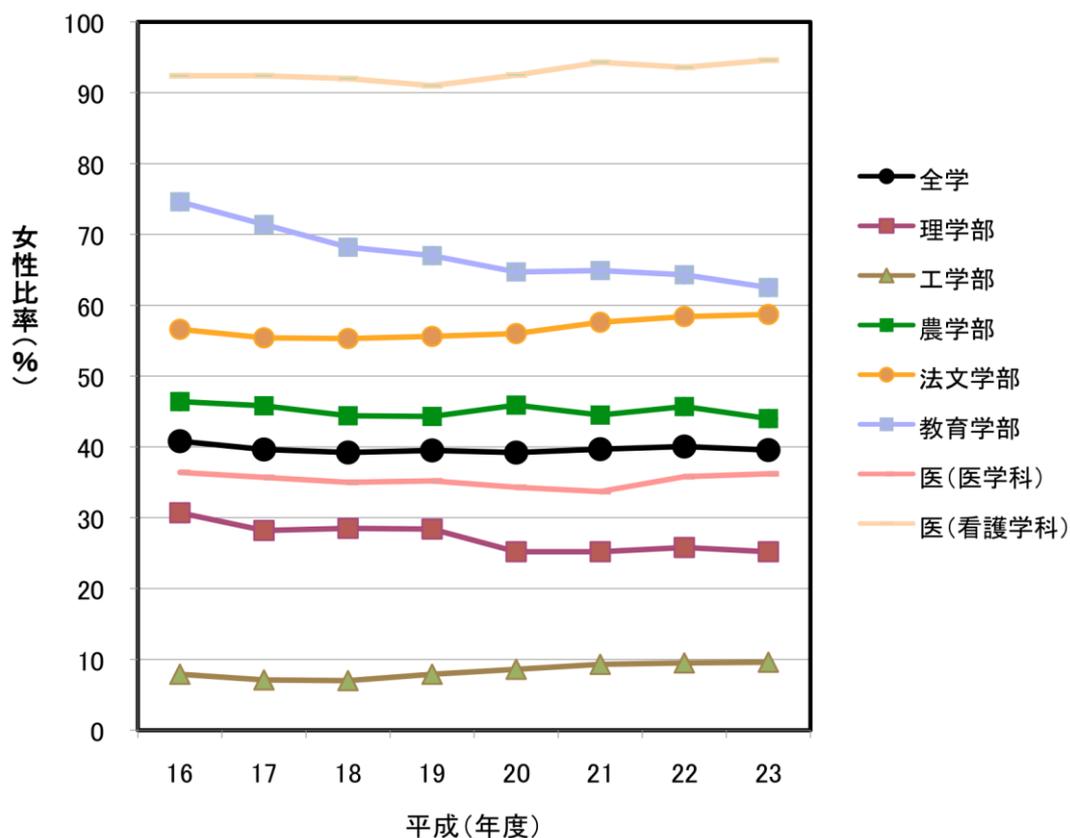
愛媛大学の学部生の女性比率は約4割、大学院の修士課程では約25%、博士課程でも約25%と、教員の女性比率（12%）と比較するとかなり高くなっています。



平成年度	学部			修士			博士			全学生		
	女	男	女子%	女	男	女子%	女	男	女子%	女	男	女子%
16	3385	4910	40.8	257	637	28.7	101	327	23.6	3743	5874	38.9
17	3342	5090	39.6	262	613	29.9	100	324	23.6	3704	6027	38.1
18	3341	5179	39.2	276	616	30.9	104	327	24.1	3721	6122	37.8
19	3369	5159	39.5	276	665	29.3	99	298	24.9	3744	6122	37.9
20	3311	5135	39.2	256	682	27.3	92	280	24.7	3659	6097	37.5
21	3322	5050	39.7	233	726	24.3	91	250	26.7	3646	6026	37.7
22	3367	5039	40.1	229	764	23.1	89	251	26.2	3685	6054	37.8
23	3325	5081	39.6	239	756	24	91	269	25.3	3655	6106	37.4

工学部の女子学生は1割に満たず非常に低い比率です。一方、農学部は45%、法文学部と教育学部は約6割が女子学生です。

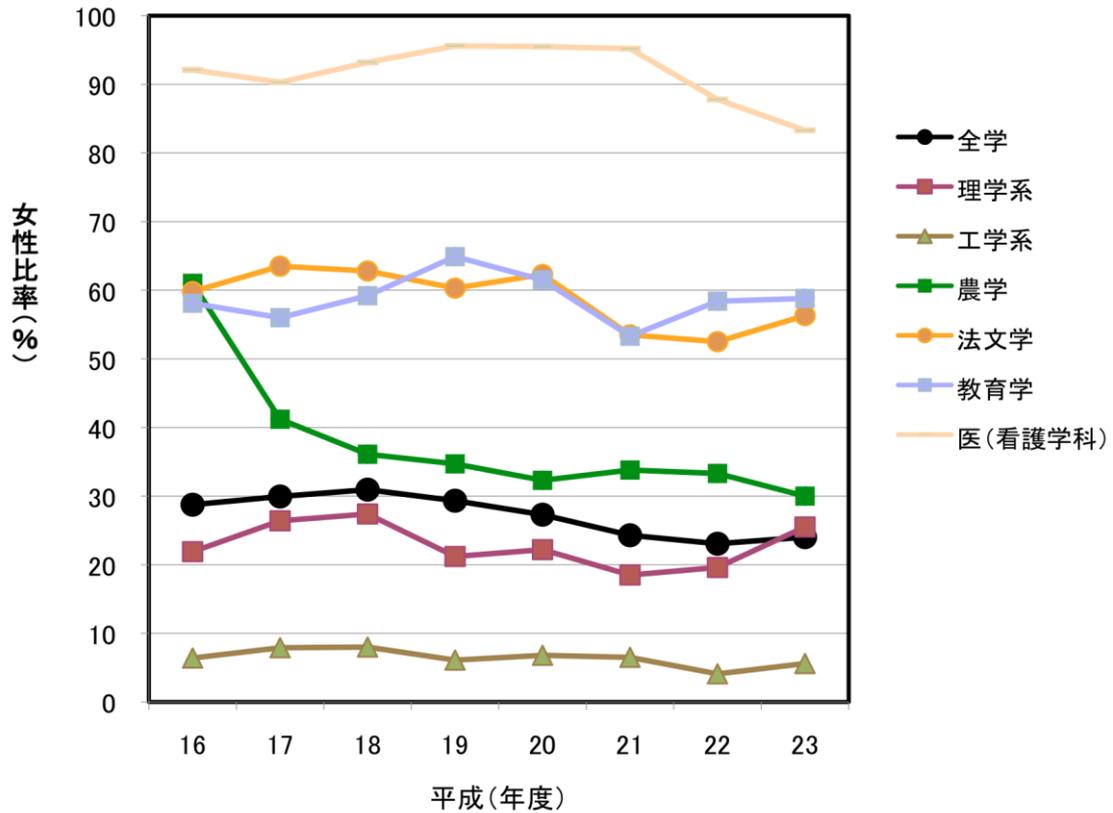
### 全学と学部別の女子学部生比率の経年変化



【学生経年変化(学部生)】全学と学部別女性比率 (平成16~23年度 各年5月1日現在)

平成(年度)	16	17	18	19	20	21	22	23
全学	40.8	39.6	39.2	39.5	39.2	39.7	40.1	39.6
理学部	30.7	28.2	28.5	28.4	25.2	25.2	25.8	25.2
工学部	7.9	7.1	7	7.9	8.6	9.3	9.5	9.6
農学部	46.4	45.8	44.4	44.3	45.9	44.5	45.7	44
法文学部	56.6	55.4	55.3	55.6	56	57.6	58.4	58.7
教育学部	74.6	71.4	68.2	67	64.7	64.9	64.3	62.5
医(医学科)	36.4	35.7	35	35.2	34.3	33.7	35.8	36.2
医(看護学科)	92.4	92.4	92	91	92.5	94.3	93.6	94.6

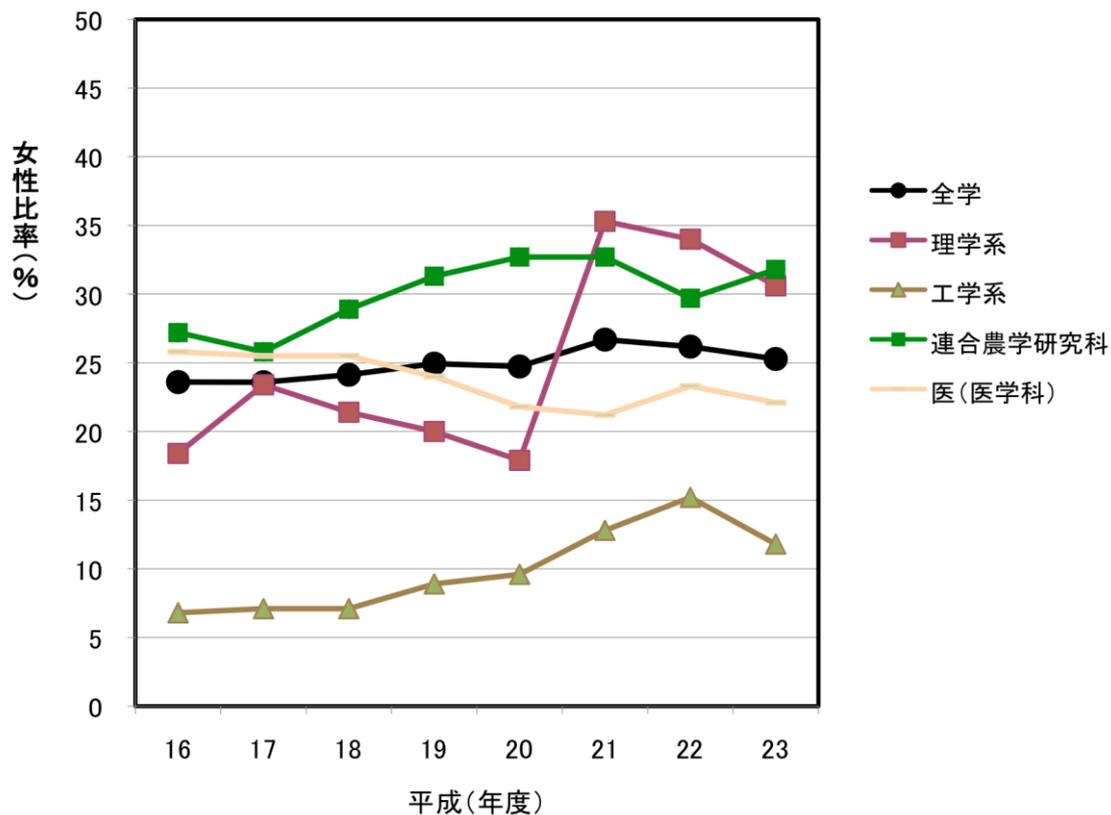
## 全学と学部別の女子大学院生(修士)比率の経年変化



【学生経年変化(修士)】全学と学部別女子比率 (平成16~23年度 各年5月1日現在)

平成(年度)	16	17	18	19	20	21	22	23
全学	30.7	28.2	28.4	28.4	25.2	25.2	25.8	25.2
理工学研究科(理学系)	21.9	26.4	27.4	21.2	22.2	18.5	19.6	25.5
理工学研究科(工学系)	6.4	7.9	8	6.1	6.8	6.5	4.1	5.6
農学研究科	61	41.2	36.1	34.7	32.3	33.8	33.3	30
法文学研究科	59.8	63.5	62.8	60.3	62.3	53.5	52.5	56.3
教育学研究科	58.1	56	59.2	64.9	61.5	53.3	58.4	58.8
医学系研究科(看護学)	92.1	90.3	93.2	95.6	95.5	95.2	87.8	83.3

## 全学と学部別の女子大学院生(博士)比率の経年変化



【学生経年変化(博士)】全学と学部別女子比率 (平成16~23年度 各年5月1日現在)

平成(年度)	16	17	18	19	20	21	22	23
全学	40.8	39.6	39.2	39.5	39.2	39.7	40.1	39.6
理工学研究科(理学系)	18.4	23.4	21.4	20	17.9	35.3	34	30.6
理工学研究科(工学系)	6.8	7.1	7.1	8.9	9.6	12.8	15.2	11.8
連合農学研究科	27.2	25.8	28.9	31.3	32.7	32.7	29.7	31.8
医学系研究科(医学)	25.8	25.5	25.5	24	21.8	21.2	23.3	22.1

# 規 程

## 国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター規程

平成22年7月13日  
規則第92号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人愛媛大学基本規則第31条第2項の規定に基づき、国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、女性研究者活躍促進のための環境整備と意識改革、女性教員の積極的な拡大等、女性研究者がその能力を最大限に発揮できるよう、全学的に女性研究者に対する支援を行うことを目的とする。

(組織)

第3条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター員
  - ア 特定教員
  - イ 本学の専任教員 若干人

- (4) 技術補佐員  
(センター長)

第4条 センター長は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教員のうちから、学長が指名する者をもって充てる。

2 センター長の任期は、3年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第5条 副センター長は、センター員のうちから、センター長が指名する者をもって充てる。

2 副センター長の任期は、3年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第6条 センター員のイの者は、本学の専任教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長の同意を得てセンター長が推薦し、学長が委嘱する。

2 センター員のイの者の任期は、3年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第7条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。
- 3 センター員は、センターの業務を処理する。
- 4 技術補佐員は、センターの業務に従事する。

(管理機関)

第8条 センターの管理運営に関する重要事項は、国立大学法人愛媛大学役員会において審議する。

(運営委員会)

第9条 センターに、センターの運営に関する必要な事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) センター長

- (2) 副センター長
- (3) センター員のアの者
- (4) センター員のイの者 3人以内
- (5) 男女共同参画推進専門委員会委員長
- (6) 人事課長

- 3 前項第4号の委員は、センター長が推薦し、学長が任命する。
- 4 第2項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 6 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 7 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
- 8 議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。  
(事務)

第10条 センターに関する事務は、総務部人事課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成22年7月13日から施行する。
- 2 この規程施行後、最初に任命されるセンター長及び副センター長の任期は、第4条第2項及び第5条第2項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成23年7月13日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現にセンター員のイの職にある者及びこの規程施行後、最初に任命されるセンター員のイの者並びに第9条第2項第4号の委員の任期は、第6条第2項及び第9条第4項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター兼務センター員の職務等に関する申合せ

平成23年3月23日  
制 定

(職務)

第1 国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター規程（以下「センター規程」という。）第3条第3号イ及びウに定める兼務センター員の職務は、センター規程第7条第3項に基づき、次のとおりとする。

- (1) 国立大学法人愛媛大学女性未来育成センター（以下「センター」という。）と各部局等における女性研究者等に関する情報を相互に提供すること。
- (2) 女性研究者に対するメンターとしての役割を担うこと。
- (3) センターが主催又は共催するイベント等の企画及び運営協力に関すること。
- (4) 女性研究者活躍促進のための部局等からの提案に関すること。

(センター打合せ会)

第2 センター長は、女性未来育成センター打合せ会（以下「センター打合せ会」）を次の場合に開催するものとする。

- (1) センターが主催又は共催するイベント等の目的に応じて、関わるセンター員に対して必要なとき。
- (2) その他センター長が必要と認めるとき。

2 兼務センター員は、センター打合せ会の構成員となる。

附 則

- 1 この申合せは、平成23年3月23日から施行する。
- 2 この申合せは、平成25年3月31日まで、その効力を有する。

## 国立大学法人愛媛大学女性研究者育成プラン事業評価委員会設置要項

### (趣旨)

第1条 この要項は、国立大学法人愛媛大学が実施する女性研究者育成プラン事業（以下「事業」という。）に関する検証，評価及び提言を行うために置く，国立大学法人愛媛大学女性研究者育成プラン事業評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

### (業務)

第2条 委員会の業務は，次のとおりとする。

- (1) 事業の実施状況や事業の効果について，検証・評価すること。
- (2) 事業に関する提言をすること。

### (組織)

第3条 委員会は，学識経験者その他適当と認められる者のうちから，学長が委した若干人の委員をもって組織する。

- 2 委員の任期は，1年以内とし，再任を妨げないものとする。

### (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き，委員の互選により選出する。

- 2 委員長は，会務を総括し，その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

### (委員会)

第5条 委員会は，必要に応じ，開催するものとする。

- 2 委員会は，委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。

### (雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

### 附 則

この要項は，平成23年11月10日から施行し，平成23年10月1日から適用する。

文部科学省科学技術人材育成費補助金  
「女性研究者研究活動支援事業」  
(女性研究者支援モデル育成)

愛媛大学女性未来育成センター報告書  
平成 22～23 年度

発行日 平成 24 年 3 月発行  
発行元 愛媛大学女性未来育成センター  
連絡先 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番  
TEL&FAX 089-927-8602  
URL <http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/>  
E-mail [hime@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:hime@stu.ehime-u.ac.jp)